

教育に関する事務の管理及び執行状況に
係る点検評価報告

(平成29年度事業)

平成30年8月
酒田市教育委員会

目 次

1	点検・評価制度の概要	1
2	点検・評価の対象	1
3	評価の基準	1
4	教育委員会の活動状況	2
5	外部評価者の意見	6
	教育に関する事務の管理及び執行状況に係る点検評価についての意見	
	Ⅰ 全体を通じた意見	7
	Ⅱ 各事業についての意見	8
○	酒田市教育振興基本計画体系図	20
6	点検・評価の状況	
I	明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ	
1	「いのち」の教育の推進	
・	「いのち」の教育の推進	21
・	防災教育の推進	23
・	安全教育、安全対策の推進	24
2	確かな学力の向上	
・	学力向上対策の充実	25
・	時代に対応した教育の推進（国際理解教育、情報教育、科学・ものづくり教育）	26
・	読書活動の推進	28
・	特別な教育ニーズへの支援	29
・	幼保、小、中、高の連携	30
3	豊かな心と健やかな体の育成	
・	生徒指導等の充実	31
・	いじめ防止に向けた取組みの推進	32
・	道徳教育の充実	33
・	体験活動、交流活動の推進	34
・	ふるさと教育の推進	36
・	相談支援体制の充実	38
・	基礎的運動能力の向上	39
・	健康教育の推進	40
・	食育の推進	42
4	家庭・学校・地域との連携	
・	青少年の健全育成	43
・	家庭教育の支援	44
・	地域教育力の向上	46
・	地域産業界、高等教育機関との連携	47
・	青少年指導活動の推進	49

5	教育環境の整備		
・	学校施設の整備	・・・・・・・・・・・・・・・・	50
・	学校規模の適正化の推進	・・・・・・・・・・・・・・・・	52
・	通学の安全確保	・・・・・・・・・・・・・・・・	53
・	学習バスの運行	・・・・・・・・・・・・・・・・	54
・	学校ICT環境の整備充実	・・・・・・・・・・・・・・・・	55
・	教育の機会均等	・・・・・・・・・・・・・・・・	56
・	私立学校等の振興	・・・・・・・・・・・・・・・・	58
6	信頼される学校、開かれた学校づくりの推進		
・	明るく楽しい元気な学校づくりの推進	・・・・・・・・・・・・・・・・	59
・	学校運営の公開と学校評価の推進	・・・・・・・・・・・・・・・・	60
・	教職員研修等の充実	・・・・・・・・・・・・・・・・	61
・	体罰根絶に向けた取組みの推進	・・・・・・・・・・・・・・・・	62
II	世代を超えてまなびあう		
7	生涯学習の充実		
・	生涯学習推進体制の整備	・・・・・・・・・・・・・・・・	63
・	生涯学習社会の基礎づくり	・・・・・・・・・・・・・・・・	64
・	生涯学習機会の提供	・・・・・・・・・・・・・・・・	65
・	地域活動の活性化	・・・・・・・・・・・・・・・・	66
8	図書館活動の充実		
・	図書館機能の充実	・・・・・・・・・・・・・・・・	67
・	光丘文庫の保全と活用	・・・・・・・・・・・・・・・・	68
・	子どもの読書活動の推進（再掲）	・・・・・・・・・・・・・・・・	69
III	生涯スポーツで明るく健やかに生きる		
9	スポーツ・レクリエーションの推進		
・	子どもの基礎的運動能力の向上（再掲）	・・・・・・・・・・・・・・・・	70
・	生涯スポーツの推進	・・・・・・・・・・・・・・・・	71
・	競技スポーツの振興	・・・・・・・・・・・・・・・・	72
・	スポーツ施設の整備充実	・・・・・・・・・・・・・・・・	73
IV	歴史にはぐくまれた芸術・文化を活かす		
10	芸術文化活動の推進		
・	芸術文化の振興	・・・・・・・・・・・・・・・・	74
・	市民の鑑賞機会の充実	・・・・・・・・・・・・・・・・	76
・	青少年の芸術文化活動の充実	・・・・・・・・・・・・・・・・	78
11	歴史・文化遺産の保存と活用		
・	文化財等の保存と活用	・・・・・・・・・・・・・・・・	80
・	地域における民俗文化財の保存と活用	・・・・・・・・・・・・・・・・	81
・	地域資料の収集と保存	・・・・・・・・・・・・・・・・	82

1 点検・評価制度の概要

この報告書は、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律（以下「法」という。）」第 26 条第 1 項の規定により、教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならないことに基づき作成するものである。

これにより、次年度の事業計画の検討に用いることで効果的な教育行政の推進を図るとともに、住民への説明責任を果たすことを目的とする。

《参考》

地方教育行政の組織及び運営に関する法律

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第 26 条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第 1 項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第 4 項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

2 点検・評価の対象

平成 29 年度の教育委員会の権限に属する事務について、その管理及び執行の状況を対象とする。

3 評価の基準

各施策の評価については、次の視点から総合的に判断し、評価基準により A から D にランク付けを行う。

なお、事業の性質上、個別の施策にランク付けを行うことはなじまないと考えられるものについては、評価基準によるランクを示さず、今後の方向性を記載している。

（1）主な事業の取り組み内容

- ・ 施策の目的、目標に照らして、事業の内容は妥当であるか。
- ・ 事業の対象者、参加者、利用者を意識して事業に取り組んでいるか。
- ・ 目標を達成するために、事業の対象者や事業の回数等は適切であるか。

（2）事業の成果

- ・ 施策の目的、目標に照らして、意義ある成果が達成されているか。
- ・ 二次的な成果や連鎖的な効果など新たな効果がみられたか。

【評価基準】

ランク	評価基準
A	施策の目的、目標を達成するため、各種事業に取り組んでいる。施策の成果は目標水準以上であることから、今後も積極的に施策を推進（展開）していきたい。
B	施策の目的、目標を達成するため、各種事業に取り組んでいる。施策としての成果には一部未達成の事業もある。 今後も概ね現行の方法、手法等により推進していく。
C	施策の目的、目標を達成するため、各種事業に取り組んでいる。施策の成果には一部未達成の事業もある。 今後は、課題等を踏まえ、事業の対象や手法について見直しを図りながら展開していく。
D	施策の目的、目標を達成するための課題が多く、各種事業に取り組めないでいる。大幅な事業の見直しを図る。

4 教育委員会の活動状況

(1) 教育長・委員の構成

平成 30 年 4 月 1 日現在

職名	氏名	任期
教育長	村上 幸太郎	平成 30 年 4 月 1 日～平成 33 年 3 月 31 日
委員	浅井 良	平成 27 年 4 月 1 日～平成 31 年 3 月 31 日
委員	岩間 奏子	平成 27 年 11 月 29 日～平成 31 年 11 月 28 日
委員	渡部 敦	平成 28 年 11 月 29 日～平成 32 年 11 月 28 日
委員	神田 直弥	平成 29 年 11 月 29 日～平成 33 年 11 月 28 日

(2) 教育委員会制度改正に対する取り組み

地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律（以下「改正地教行法」）が、平成 26 年 6 月 20 日に公布され、平成 27 年 4 月 1 日から施行された。

旧教育委員会委員長と事務の統括者である教育長を一本化した新「教育長」を置くことにより、迅速な危機管理体制の構築を図ることを含め、教育行政の第一義的な責任者を明確化することされ、本市においても平成 27 年 4 月 1 日より新「教育長」体制に移行した。

改正地教行法においては、新「教育長」が教育行政に大きな権限と責任を有することとな

ったことを踏まえ、新「教育長」へのチェック機能を強化するとともに、住民に対して開かれた教育行政を推進する観点から会議の活性化・透明化を図っており、平成 29 年度は新たに次のような取り組みを行った。

・新「教育長」へのチェック機能の強化のための取り組み

- ①委員の資質向上のため、文部科学省で開催された研修に、2回に分け3名の委員が参加した。
- ②研修の一貫として、全国の状況・事例等を参照できるように「教育委員会月報」を配付した。

・開かれた教育行政の推進のための取り組み

- ①「教育に関する事務の管理及び執行状況に係る点検報告」に教育委員の活動状況、委員の会議、研修、各種行事等の参加などさらに詳細に記載しホームページにも掲載した。
- ②教育委員会会議の年間のスケジュールを年度当初に設定することにより、委員の日程を確保することができ、全ての定例会に委員が全員出席した。

(3) 教育委員会の活動状況

平成 29 年度の教育委員会の活動状況は次のとおりである。

・教育委員会会議の開催状況

項目	平成 29 年度
開催回数	15 回
審議案件数	51 件
教育長、各課等からの報告案件数	79 件

・教育委員会会議の審議概要

項目	件数	主な内容
基本方針・計画策定	3 件	文化芸術推進計画の策定
規則等の制定又は改廃	9 件	
議会の議決を経るべき議案の意見聴取	15 件	予算、物品の取得、請負契約の締結などの議会議決案件
人事案件	12 件	非常勤特別職の委嘱、職員人事等
教科書採択	1 件	小中学校使用教科用図書の採択
専決事項の承認	9 件	規則等の改正、人事案件等
庄内文化賞受賞者の決定	1 件	
市有形民俗文化財の指定	1 件	
合計	51 件	

※詳細な会議録については、ホームページで公表している。

・学校訪問、関連施設視察などの活動状況

実施日	訪問・視察箇所	主な内容
7月4日	富士見小学校	学校施設、授業の視察、学校長との意見交換
	土門拳記念館	施設の視察
	酒田市美術館	施設の視察
7月18日	戸沢小中学校（戸沢村）	視察テーマ：小中一貫教育 学校施設、授業の視察、学校長との意見交換
10月3日	第六中学校	学校施設、授業の視察、学校長・A L Tとの意見交換
	松原小学校	学校施設、授業の視察、学校長・教育支援員との意見交換
10月26日	山形県立東桜学館中学校（東根市）	視察テーマ：中高一貫教育・I C T 学校施設、授業の視察、教頭との意見交換
	東根市公益文化施設 まなびあテラス	視察テーマ：図書館運営 施設視察、館長との意見交換
	公益財団法人 山形市 体育協会	視察テーマ：体育協会の運営 事務局長との意見交換。同法人は、市の施設の指定管理者。

・教育委員会委員の会議、研修、各種行事等への参加状況（主なもの）

実施日	会議、研修、各種行事等名称	備考
4月6日	松山小学校開校式	
4月7日～9日	酒田市立小中学校入学式	
4月14日	第5回教育委員会会議	
4月16日	山形県縦断駅伝競走大会壮行会	
5月24日	第6回教育委員会会議	
6月23日	第7回教育委員会会議	
6月30日	平成29年度第1回総合教育会議	
7月2日	市民体育祭	
7月4日	市内学校訪問、関連施設視察	
7月14日	庄内地区教育委員会協議会総会・研修会	
7月18日	視察研修（最上地方）	
7月28日	第8回教育委員会会議	

8月4日	山形県市町村教育委員会大会	
8月22日	第9回教育委員会会議	
9月29日	第10回教育委員会会議	
10月3日	市内学校訪問	
10月13日	山形県図書館研究大会	
10月14日	光ヶ丘球技場人工芝グラウンド竣工式典	
10月26日	視察研修（村山地方）	
10月27日	第11回教育委員会会議	
11月9日	庄内文化賞授賞式	
11月16日	山形県女子駅伝競走大会壮行会	
11月27日	平成29年度第2回総合教育会議	
11月29日	第12回教育委員会会議	
12月10日	酒田駅前まちづくりシンポジウム	
12月11日	第13回教育委員会会議	
12月16日	はばたき報告会	
12月22日	第14回教育委員会会議	
1月7日	酒田市成人式	
1月18日	第1回教育委員会臨時会	
1月20日	少年の翼（派遣）報告会	
1月25日	市町村教育委員研究協議会（文部科学省）	
1月29日	第1回教育委員会定例会	
2月9日	少年の翼（受入）歓迎レセプション	
2月15日	第2回教育委員会定例会	
2月16日	市町村教育委員研究協議会（文部科学省）	
2月19日	平成29年度第3回総合教育会議	
2月20日	教育委員会科学賞表彰式	
2月21日	小林教育振興基金青少年善行奨励賞表彰式	
2月24日	白崎資金スポーツ優秀選手表彰式	
3月3日	第2回教育委員会臨時会	
3月4日	土門拳文化賞授賞式	
3月16日	第3回教育委員会定例会	
3月16日～18日	酒田市立小中学校卒業式	

（４）酒田市総合教育会議

改正地教行法により、すべての地方公共団体に「総合教育会議」が設置されることとなった。

総合教育会議は、市長と教育委員会で構成され、教育等に関する施策の大綱の策定、教育

の条件整備など重点的に講ずべき施策及び児童・生徒等の生命・身体のプロテクト等緊急の場合に講ずべき措置についての協議・調整を行うものである。

酒田市においても、市長と教育委員会が十分な意思疎通を図り、本市の教育の課題やあるべき姿を共有しながら、連携して効果的に教育行政を推進していくため、酒田市総合教育会議が設置された。

平成 29 年度における酒田市総合教育会議の開催状況は次のとおりである。

・酒田市総合教育会議の開催状況

区分	実施日	協議内容
第 1 回	6 月 30 日	本市の教育を取り巻く諸課題について ・本市小中学校における防災の取り組みについて ・地域、市、学校の適切な役割分担による円滑な避難所運営のために ・小中学校における健康の基礎づくりについて
第 2 回	11 月 27 日	本市の教育を取り巻く諸課題について ・本市における文化芸術の推進について ・一貫教育について
第 3 回	2 月 19 日	本市の教育を取り巻く諸課題について ・次期酒田市総合計画と酒田市教育等に関する施策の大綱について ・学校・家庭・地域の連携・協働について

※詳細な会議録については、ホームページで公表している。

5 外部評価者の意見

点検・評価にあたっては、法第 26 条第 2 項の規定により、次の 2 名の外部評価者から各分野に関して意見をいただいた。

外部評価者

生涯学習施設「里仁館」館長 富士 直志 氏

東北公益文科大学 教授 呉 衛峰 氏

教育に関する事務の管理及び執行状況に係る点検評価についての意見

I 全体を通じた意見

平成 29 年度は、市庁舎が完成して、情報プラザや総合文化センターにあった教育委員会各課や社会教育文化課が移転した。教員委員会以外の部課との連携や議会对応・予算編成上ではきめの細かい対応が可能になったものと思われる。しかし、社会教育文化課の場合は、生の声が届きにくい環境になったのでアンケートや利用者の要望など市民の声に耳を傾けていくことが今まで以上に大事になってくるとと思われる。

事業数は昨年度から 1 事業減って 50 事業であった。そのうち継続という事業が 2 事業で、残り 48 事業が評価対象事業であった。結果は評価 A 事業が 19、評価事業 B が 29、C もしくは D 評価はなかった。この評価結果の内訳はほぼ昨年と同じであった。昨年に続いて C や D の評価がなかったことは評価に値する。

経年で数値化されているものは 45 件で良くなったものは 19 件、悪くなったものは 21 件、変わらずが 5 件あった。昨年度は悪くなった件数が多かったが、今年度の場合は決して良い件数の方が多い訳ではないが、同じような件数であった。悪くなったものが減ったのは評価できる。しかしながら、やはり全体として良い方向に向かう努力をさらに積み重ねて欲しい。

各事業は原則 1 頁にまとめられ理解しやすい体裁である。2 頁に亘るものも若干あったが、その 1、その 2 と表記してあったので分かり易かった。また、予算規模もある程度記載されていた。ただ、評価結果が昨年に比べ変化している場合の説明や根拠については今一つ分かり難い事業もあった。

今後、とくに前年度に比較し予算規模が大きく変化したものについては、国や県の補助金からも含めて説明を加えて欲しいし、評価結果が前年度に比べて変化している場合は、適切な根拠や理由を補足して頂きたい。

評価対象外の事業については、市民に周知する必要がある事業と思われるので、今後も引き続き、継続、新規、一部新規のような表現で明記して欲しい。

当面する教育委員会の課題について 3 点意見を述べたい。

- (1) 働き方改革・・・これは言うまでもなく本市だけの問題ではなく、日本の働き方の問題になっている訳であるが、教育職にあっても適切な労働時間の設定が必要である。さらにいえば、この機会に教員としての職務の優先順位を明確にして、子どもときちんと向き合える時間と教材を分析・開発する時間の保証が是非とも必要になっている。
- (2) 学力向上・・・今回、全国学テの結果をみると山形県がほぼ全国平均に近づいた。しかし B 問題では課題があるという指摘だった。本市の学力とりわけ算数数学の学力向上については永い間の懸案であるが、目標を明確にして粘り強く取り組むと共に今後、本市の大きな教育方針となる小中一貫教育の中でこの問題に対して本気になって取り組む姿勢と心構えが必要だと思われる。
- (3) 新図書館構想・・・駅前開発、通称コミュニケーション・ポートの中心施設が図書館になるという構想であるが、まだ完成していないので正直ピンとこない部分もあるが、経営形態も含めて様々な取組や挑戦がなされることと思われるが、新しい知の拠点としての機能は勿論の

こと、今般策定された文化基本条例のキーワード「ひとづくり・まちづくり」を体現する施設として成長して欲しいと強く願っている。

富士 直志

基本的に各事業がうまく運営されている印象を受ける。

自己評価を行うに際し、往年と比較して現在の進歩に注目すべきか、横（県内・県外を含めて）と比較して本市が置かれている位置に注目すべきか、非常に難しいことであろう。しかし、世の中も 21 世紀に入り、街づくり・教育等は目まぐるしく変化する世界に如何に付いていくかが第一の用務となっており、往年と比べたときの若干の数値の上昇も相対的に見ると、むしろ進歩のスピードが鈍化しているのではないかという視点に立って見なければならない。

地方の再生にとっては、教育は出発点であるに違いなかろう。各分野の細かい数字に入る前に、全体的には、教育の質は向上しているだろうか。また、グローバル時代における市民意識の改革も、教育が牽引する役割を果たすべきだと思われるので、本市はこの点においてどれほど力を入れているかが大事なポイントであり、様々な意味で改善すべき箇所がまだまだ多く残っていると言えよう。

呉 衛峰

II 各事業についての意見

1 「いのち」の教育の推進

(1) 「いのち」の教育の推進

- ・「赤ちゃん登校日」事業は、その背景にNPO法人「にこっと」との連携があつてこそその実践と思われる。実際に赤ちゃんを肌を感じるだけでなく、子育てについてのお話を聞くことで、命の重さや大切さを感じると共に、自らの生育歴にも思いを寄せて、親への感謝の心が生まれてくる貴重な機会になっている。
- ・全国的な調査でも、年々自尊感情は高まりつつあるが、道徳の時間や特別活動の時間を有効に用いて、自他の良さを見つめたり、他者との関わりを大切にする場面を設定して話し合う活動をもっと増やして欲しい。
- ・「いのち」の教育の推進が評価すべきであるが、小中学生の自転車事故について、特に夏休み中の事故防止等については、さらに取り組んでほしい。

(2) 防災教育の推進

- ・防災教育アドバイザーの意見なども参考にしながら、各学校毎の学校防災マニュアルを整

備すると共に、今後は、実際にそれを運用して地域と合同の訓練を実施して、緊急時の対応を具体的に身に付けることが求められている。

- ・避難所開設マニュアルの策定には、その置かれている避難所の環境や特性を生かして整備することが基本であるが、そこを使用する地域の意向を尊重しながら、危機管理課等と連携しながら事前協議を進めていくことが必要である。

(3) 安全教育、安全対策の推進

- ・登下校の指導については、見守り隊と連携しながら、常日頃から情報交換を行うと同時に、地域学校安全指導員から専門的な助言を受けて、大きな視野に立って改善を進めていくことも重要である。
- ・学校の統廃合で、自転車通学者は増加している。重大事故につながらないような基本的なマナーを会得させることは、生涯を通じて「いのち」を守る安全意識につながる。とくに中学校では様々な工夫をこらして安全教室を開催して欲しい。
- ・安全な自転車使用について、家族と連携して、現在以上に安全指導を徹底すべきであろう。

2 確かな学力の向上

(1) 学力向上対策の充実

- ・2年目の事業となるホームアンドアウェイ学習による中学校間における相互授業研修については、その成果や課題を他の中学校にも共有すると共に、今後の改善につながるポイントを整理して中学校全体で共有化して欲しい。
- ・当地区における中学校の数学や英語の学力は、基本的な理解は進んでいるものの他地区に比べて相対的に低いと思われる。これは従来から指摘されている課題であるが、その手始めとして今回、関東地区の先進校に視察に行き学んだことは評価したい。勿論、先進校の環境は本市とは異なるが学力向上のヒントになる手法や改善案は沢山あったと思われる。その成果を1つでも2つでも実践して学力向上の手がかりやきっかけにして欲しい。
- ・小学校における英語教育は、国の方針もあるだろうが、教員の指導力は確保できることがなければ、予算の無駄遣いになりかねないと思われる。
- ・小学校では、効果的な英語教育を実施できればよいが、できなければ、むしろ中学校の英語教育へもっと資金を回すべきではなかろうか。
- ・発音・リスニング等の英語教育については、中堅教員が時代の変化、つまり受験英語からコミュニケーション英語への変化へ適応できるよう、研修に参加してもらうようにしてほしい。

(2) 時代に対応した教育の推進（国際理解教育、情報教育、科学・ものづくり教育）

- ・「はばたき」や「中村ものづくり」事業は、酒田市がこれまで継続してきた特徴的な活動である。これらの参加者がその成果や体験を共有する機会を持つと共にさらに国際性を身に着けたり、科学する心やモノづくりの力を伸ばせるようなブラッシュアップ講座を仕組んで欲しい。
- ・サイエンス発明教室の参加者は少数であっても継続して参加することで、適確な判断力や考え方が身に付くと思われる。理科センターや理科教員OB等とも連携して、小中と継続

して参加できる児童生徒の育成も配慮して欲しい。

- ・中学校の専任教員がALTの皆さんとうまく連携できて初めて、ALTの存在意義が現れるであろう。でなければ、生徒さんにとってもALTの授業がほぼ遊びタイムになるのみで、実際の英語力向上にさほど役に立たないと思われる。

(3) 読書活動の推進

- ・貸出冊数がここ5年で概ね伸びてきているのは、大きな成果である。但し、中学校では、部活動や宿題などでなかなか読書に接する機会が物理的に少ないことから、今後冊数を伸ばしていくには、キャリア教育やNIEなど学校教育の場で意図的に活用する場面を数多く設定することが必要と思われる。
- ・読書意欲の調査結果を経年で見えていくと、小学校段階（6年）で高かった学年は中学校段階（3年）でも高い傾向があることから、とくに小学校段階での指導が重要であることが推察できる。

(4) 特別な教育ニーズへの支援

- ・昨年に引き続き教育支援員を40名から60名に増員したことは、現場のニーズに合った事業で評価できる。同時に発達障害などへの対応のために学校訪問する巡回指導員を増員したことも評価できる。いずれも増員に見合った支援が強化されている。
- ・一方で教員はこうした教育支援員や巡回指導員にまかせきりにしないで、コーディネーターや養護教諭と連携を取りながら、必要な情報を共有・記録して、今後の指導や保護者との連絡等に活かすことが重要である。
- ・日本語指導講師の派遣については、講師の資質の差が存在するので、講師・学校・家族との連携を密にし、講師の指導ガイドラインを作るべきかと思う。

(5) 幼保、小、中、高の連携

- ・幼保小の連携に関しては、他課（子育て支援課）と連携して、指導者研修会や職場体験研修の中で様々な意見交換をすることで、職員同士がその育ちについて学んだり、お互いの理解を深めるよい機会になったと思われる。
- ・小中の連携に関しては、新学習指導要領の具体化を共通テーマに研修したことは一定の成果につながるものと思われる。とくに小学校で教科化となる英語の学習について、中学校教員から学ぶ絶好の機会となるのではないか。
- ・今後、酒田市が重点化を進める小中一貫教育の推進については「生活と学力の一体的向上」が基本テーマとなっているが、是非それぞれの立場から課題を洗い出し、9年間を見通した子ども達の成長をどう図るか、地域の方々も含めて忌憚のない意見を出し合って欲しいし、そのような場を設定して欲しいと願っている。
- ・中高の連携に関しては、設置者が異なるので難しい面もあるが、相互派遣研修等の機会を利用して互いに参観したり、意見交換する場は貴重である。英語数学以外にもこうした機会があると望ましい。

3 豊かな心と健やかな体の育成

(1) 生徒指導等の充実

- ・アンケート調査結果から初期段階から組織的に対応して早期解決を図っている学校が増えていることは喜ばしい。
- ・担任力というのは言い換えれば総合的な指導力を身に付けることである。中堅教員のうちに教科指導力は勿論のこと生徒指導・進路指導など領域の力量を伸ばすとともに特別支援の研修やICT機器の操作など時代が求めている課題について習熟することが求められている。

(2) いじめ防止に向けた取組みの推進

- ・重大事態に陥ることはなかったが、もし万が一発生した場合を想定した問題対応委員会や対策連絡協議会の設置は、いじめ問題を早期に発見したり、いじめの「見える化」につながっていくと思われる。マンネリにならないようテーマ等を決めて様々な方から意見をいただきながらアンテナを高くする努力が必要である。
- ・小学校では、いじめ件数が増加から一転して大幅な減少になった。しかし、そのことに甘んずることなく、子どもたちの発する目に見えない悩みや「困り感」をキャッチし、敏感に対応する姿勢が求められている。
- ・「陰にかくれているいじめの件数」はかなり高いものと思われる。クラス担当教員が相談を受けた場合、手に負えなければ、学校の関係委員会に報告すべきであり、放置したりすれば、生徒の信頼を失い、不登校等の原因になりかねない。いじめ防止委員会等の設置はペーパーワークで終わらないことが肝心である。
- ・「いじめ認知件数」が減少したことはかならずしも「いじめ」の減少ではないという認識は、関係者のあいだで共有すべきであろう。

(3) 道徳教育の充実

- ・公益の心は、道徳教育だけでは十分指導することが難しい柔軟性や創造性を併せ持っている。したがって公益の心を育てることのよさを指導者側は再認識した上で子ども達の主体性を生かした考える道徳の実践例を積み上げることが重要と思われる。
- ・小中学校ではふるさとへの理解と愛着を深めていく教材を作成している。例えば、吉野弘の詩を群読したり、岸洋子の歌を2部合唱で歌うなどの体験を通じて言葉のもつ力や音楽の力を感じさせたい。

(4) 体験活動、交流活動の推進

- ・飛島体験、自然体験、少年の翼の3事業はいずれも宿泊を伴う活動なので集団訓練の機会にもなっているが、参加者の満足度が極めて高く評価できる。準備に当たった職員や担当教員との交流も思い出深いものとなったと思われる。

(5) ふるさと教育の推進

- ・鳥海山飛島ジオパークは子ども達がふるさとの地質的な成り立ちを理解する絶好の機会である。
是非、体験を通じて学ぶ機会を設定して欲しいし、先生方自身がその仕組みを伝えられる研修を深めて欲しい。
- ・酒田っ子はぐくみ事業やキャリア教育推進事業については、やり易い事業が選択できるようにしたものと思われる。しかしながら、キャリア教育の中に酒田ならではの企業や老舗

の実態を理解するなどの内容を含めれば、ふるさと理解につながる事業と成り得るので柔軟な運用を期待したい。

(6) 相談支援体制の充実

- ・不登校児童生徒数については小学校では減少傾向にあるが、中学校では昨年よりは減ったが、高止まりにならないよう丁寧な対応をこころがけて欲しい。教育相談事業や適応指導教室ではきめの細かい指導を継続して一定の成果を生みだしている。
- ・発達障害児が増加しているなかでスクールカウンセラーや家庭相談員の助言訪問活動は学校にとって必要不可欠である。場合によっては、スクールソーシャルワーカーコーディネーターの助言を受けながら関係機関と連携することも必要である。
- ・不登校人数の減少は評価すべきである。

(7) 基礎的運動能力の向上

- ・残念ながら、50m走の記録は落ちてきている。学力向上と同様に、走る・跳ぶ・投げる能力の向上には基本動作の繰り返しと上手な走り方・跳び方・投げ方のスキルが必要だ。児童生徒が陸上指導サポーターから実地に指導を受けるだけでなく、指導する教員側もそのコツをマスターして継続的に指導を積み上げることが重要だ。
- ・子ども達がスポーツに親しみながら、生涯スポーツや総合的な運動能力の基盤を培うと共に、関係機関と連携して競技スポーツにつながる児童生徒の育成の視点も必要である。
- ・小学校中学年の「走・跳・投の運動」については、児童の運動能力の差があり、担当教員自身も運動に関しては指導能力の差が存在するので、指導能力の高い教員を中心に、一人一人の児童を科学的方法で指導すべきであろう。

(8) 健康教育の推進

- ・ここ3年間の肥満傾向の推移をみると、酒田市の肥満傾向の割合は小学校も中学校も県平均に比べてかなり低い。これは評価に値する。スマートな酒田っ子をもっと強調してよいのではないか。
- ・保健学習も生活リズムや睡眠などの基本的な生活習慣の確立からアレルギー、感染症など一定の医学的知識が必要なものまで機会あるごとに児童生徒だけでなく保護者を含めて広く啓蒙したい。

(9) 食育の推進

- ・地元産（庄内産）食材提供は、気候変動の影響で計画通りにはいかない場合がある。今後は、新たな地元産食材の普及開発をすすめると共に、安定した利用を確保して欲しい。
- ・一時期学校給食への異物混入事件は新聞を騒がせたが、調理時の注意すべきポイントがマニュアル化されたので今後の改善が期待できる。

4 家庭・学校・地域との連携

(1) 青少年の健全育成

- ・高校生ボランティア「かざみどり」は巨大迷路づくりやお泊り会のお手伝いなど異年齢との交流も含め地域の中で活躍している。今後、活動がマンネリにならないよう会員同士の意見交換や知恵を出し合ってユニークな企画を期待したい。

- ・成人式は、若い人にとって初めての人生の節目のイベントである。自らの未来や地域の将来を考えるきっかけになるようなアイデア溢れるセレモニーや演出を考えて欲しい。

(2) 家庭教育の支援

- ・家庭教育事業としては、保育園・幼稚園児とその保護者対象の「すくすく出前講座」、小中学校児童生徒とその保護者を対象とした「地域家庭教育講座」や「講演会」を企画して昨年を上回る3千人近い参加者数を獲得していることは評価できる。
- ・今後は、スマートホンやパソコンなど新しい課題に対応する研修会をPTAや公益大学等と連携して開催して、トラブルを未然に防ぐ対応策を身に付ける必要がある。

(3) 地域教育力の向上

- ・宮野浦地区でスタートした放課後子ども教室は、子どもの居場所づくりだけでなく毎週、英会話・パソコン・将棋などの特別プログラムを提供して子ども達の様々な体験活動を支援している。
- ・社会教育指導員をはじめとする社会教育文化課の関係職員がすべてのコミ振を訪問して実施状況や課題を伺い、場合によっては助言するなどして青少年との交流や地域活動の推進を後押ししている。

(4) 地域産業界、高等教育機関との連携

- ・中学生職場体験は、短期間で効果が上がるよう各職場と事前の打ち合わせを十分行い、適切な労働観を獲得できるよう双方が支援していくことが重要である。また、各中学校の担当者が企業の方々と、職種ごとの経済環境や地域の景気動向などを伺うことのできる数少ない機会となっている。
- ・中村ものづくり事業においては講師として産技短大、鶴工専、光陵高校の先生方から協力頂いている。地域の高等教育機関の持つ知的資源を活用している好ましい例であり、併せて高校生ボランティアが参加していることも心強い。
- ・地元の東北公益文科大学との連携で、参加中学生から好評が得られたことは評価すべきである。

(5) 青少年指導活動の推進

- ・粗暴な非行や注意・指導した児童生徒数は減少している。200名を上回る指導委員による街頭指導の成果であり、市の青少年指導センターが中心となって生活安全課や各学校の生徒指導担当と連携しながら声掛けをしたり定期的な情報交換をしていることも功を奏しているものと思われる。
- ・小学生のいるすべての世帯にネットトラブル防止啓発用リーフレットを配布し、児童本人や保護者への注意喚起を行うと共に、未然防止につながる具体的な情報を提供したことは一定の抑止効果があると思われる。

5 教育環境の整備

(1) 学校施設の整備

- ・耐震化工事や小中学校の校舎及びグラウンドの整備も計画的に進んでいると思われる。とくに各学校のトイレの洋式化も小中学校の双方で改修工事が進められている。また、各学校

の特別教室等での冷房設備の設置も少しずつ進んでいる。

- ・学校施設の老朽化改善のため、適切な改修、更新の時期を設定すると共に、「長寿命化計画」を策定して、持続可能な施設の維持管理を追及して欲しい。
- ・予算の問題があると思われるが、小・中学校の教室への冷房施設の導入をスケジュールに入れて欲しい。時代はすでに変わり、今の子どもたちにとっては、冷房のない教室はかなり苦しい場所であると言わざるを得ない。

(2) 学校規模の適正化の推進

- ・現在、複式学級を実施している学区については、保護者や地域の思いに寄り添いながら話し合いを深め、見切り発車となることがないように丁寧に対応していく必要がある。
- ・また、今後複式学級となる人口減少地域では、将来の教育人口統計などの客観的な状況を伝えながら、話し合いの場を設定して理解を深める時間が必要と思われる。

(3) 通学の安全確保

- ・各学校の見守り隊、地域学校安全指導員、警察署等との協力で、通学路における重大事故を防ぐことができたことは児童生徒、保護者や地域住民にも安心感を与えている。
- ・メール配信システムは、従来の不審者情報のみならず交通事故情報や熊出没などの緊急情報に用途は広がってきた。早急な新システムの構築が待たれる。

(4) 学習バスの運行

- ・小中学校の統廃合によってスクールバスの利用者は年々増加しているが、登下校時の重大事故がなかったことは評価できる。今後ともマナーを守って乗降時の安全を確保する対策指導を継続して欲しい。
- ・校外学習におけるバス使用については増加傾向にあり、事業予算も1億円を超える規模である。基本的には、児童生徒が現地に移動して体験する点で、生きた学習につながっている。活動内容にもよると思われるが、これらの効果や成果を検証して欲しい。

(5) 学校ICT環境の整備充実

- ・授業におけるICT機器の活用が増大してきた。アクティブラーニングやグループ学習で成果が期待されるタブレット端末やプロジェクターの利用に関しては、その効果や課題を検証した上で整備計画を策定して欲しい。
- ・中学校の部活は運動・芸術が中心になっているようであるが、ICTなど時代の変化に応じたものも奨励すべきであろう。この場合、やはり教員の指導能力が鍵となると思われる。
- ・ICTのような部活があるところでも、「二流部活」にならないよう、指導教員の力量が問われる。

(6) 教育の機会均等

- ・京野基金や利子補給、私学授業料軽減事業などについては給付交付型で国や県の制度を補完している。生徒保護者の負担を軽減する施策であり、評価できる。是非継続して欲しい。とくに京野基金は財源が枯渇化しているため後継事業の基金化が望まれる。
- ・申請が複雑との意見があるので、分かり易いシステムにすると共にパンフレット等を通じて該当する希望者が無理なく申し込みできるようにして欲しい。
- ・大学等修学支援事業について、育英会との併用可能等を考慮すれば、平均収入が低く、家

庭収入格差の大きい地域にしては、非常に評価すべきことである。

(7) 私立学校等の振興

- ・減額せずに特色ある私立高等学校へ補助金を交付している点は評価できる。また、統合による補助金交付額を緩和措置を講じて段階的に継続している点も評価できる。是非、統合を契機にして魅力ある高校の経営に期待したいし、本市の地域活性化のために貢献できる人材の育成にさらにご尽力をいただきたい。

6 信頼される学校、開かれた学校づくりの推進

(1) 明るく楽しい元気な学校づくりの推進

- ・学校裁量交付金は終了して新たにキャリア教育が後継事業として施行されたと聞いている。学校が独自の企画で実施できる活動で各学校の創意を生かした取り組みができる経験は教職員にとっては貴重であった。この経験を生かす次の事業に期待したい。

(2) 学校運営の公開と学校評価の推進

- ・児童生徒、保護者、教職員そして学校評議員や学校関係者評価などの評価結果は関係者や地域に分かり易く公表するとともに、課題になっている点については学校長が責任をもって対応策や方向性について述べるのが重要である。
- ・学校評議員がその効果を挙げるためには、課題になっているテーマについて教育的かつ総合的な視点から多面的な考察や改善点を述べるができる委員がいるかどうかである。テーマに応じて人選を進める考え方もあるのではないか。

(3) 教職員研修等の充実

- ・理科センター主催の研修参加者が激減している。日程やテーマの設定でも変動すると思われるが、低調であるという印象はまぬがれない。酒田市はものづくりやジオパーク認定などで特色ある活動を展開していることから指導力量の充実が求められている。
- ・例えば、全国学力テストの類似問題を作成することは大変な作業ではあるが、得られる成果は極めて大きいと思われる。とくに活用のB問題の分析検討をつうじて、新学習指導要領が求めている方向性や考え方を主体的に理解できる契機になるとと思われる。

(4) 体罰根絶に向けた取組みの推進

- ・教員が教育的な情熱を持ち続けることは指導上重要な要素である。しかしながら、アンガーマネジメントなどの研修等を通じて、教員が自己を振り返って自らを鎮める様々なスキルを持つことは重要である。
- ・部活動の外部コーチといえども学校の関係職員であるという意識をもって、学校長や顧問教師は、年度当初に体罰禁止を確認すると同時に勝利至上主義に陥ることなく、教育的配慮をもって子どもを育成することをきちんと確認することが大事である。

7 生涯学習の充実

(1) 生涯学習推進体制の整備

- ・総合文化センター内にあった社会教育文化課は昨年夏に一部を残して新市庁舎に移転した。学校教育課をはじめ市教委各課との連携や予算編成・議会対応の点では便利な点が増えた

と思われる。しかし、生涯学習活動の生の現場から遠ざかることになった。今後とも市民の生涯学習に寄せる声が庁舎に反映されるよう、よりいっそうアンケートや市民の声に耳を傾け、ニーズに合った事業を立ち上げて欲しい。

- ・カモンくんニュースは児童生徒や保護者全員に定期的に配布され、多くの家庭で参考になっていると思われる。今後、駅前に設置されるコミュニケーションポートなどの端末などを利用して社会人やシニア向けのカモンくんサイトを立ち上げて情報発信することも効果的であると思われる。
- ・市内の生涯学習サークル等の種類は、鶴岡市と比較すると非常に少ない。
- ・教育委員会、特に課の力で、様々な文化・芸能等の生涯学習クラスを作ってほしい。

(2) 生涯学習社会の基礎づくり

- ・生涯学習推進講座の予算は10%以上減額された。しかし満足度が高かったことは評価に値する。実施回数は前年度並みに維持して3万人台の参加者数は確保できた。また青少年講座や催し物を減らした結果、昨年比で7千人減った。類似事業は整理する必要があるが、とくに若者を対象とする講座は今後参加者を減らさない工夫が必要だと思われる。持続可能で効果的な事業構築を望む。
- ・現在、社会教育的手法は街づくりをはじめ全国的に大きく評価されている。文部科学省の機構改革でも生涯学習局が筆頭局として位置付けられた。今後、他課との連携においてもこの社会教育的手法を大事にして新しい企画と分野を切り開いて欲しい。
- ・地域づくりや街づくりに高い能力を発揮する教員は少なからずいる。他県ではこうした人材を大事してきた歴史があるが本県ではどちらかというと学校教育中心で進んできた。今こそ教員や教員OBは地域にでていって実状を把握すると同時に教員のもつ多面性や総合力を発揮して活動の中核として奮闘して貰いたい。

(3) 生涯学習機会の提供

- ・耐震改修が完了した総合文化センターを会場にした生涯学習まつりには再び1万人の来場者があったことは市民の生涯学習への思いを感じさせる結果であった。
- ・「ふるさと自然倶楽部」のような団体が立ち上がって、ジオパークを学んだり、現地研修する機会は生きた学習として貴重である。一過性に終わることなく内容を深めたり異なる視点で取り上げながら重層的な取りあげ方も工夫して欲しい。

(4) 地域活動の活性化

- ・各地域に配置された社会教育指導員がコミ振などの施設を訪問した回数は年々増加して、600回程に到達していることは、地域の声を大事にしている証拠である。さらに指導員が職員との懇談だけでなくイベントにも視察・参加している点も評価したい。

8 図書館活動の充実

(1) 図書館機能の充実

- ・企画展示を53回実施した。昨年度17回だったので飛躍的な増加で高く評価したい。訪れる入館者の参考になると同時に職員自らが様々なテーマについて学ぶ機会にもなるし、今後のレファレンス力の向上にもつながっていくと思われる。

- ・少子化と相まって貸出冊数は逡減してきている。新刊便りとか企画展示の際に扱った書籍一覧などを図書館便りとしてリピーター(一定程度の本をかりている)の方にご案内するなどして減少を食い止める方策を考えて欲しい。
- ・図書館は駅前に移転してリニューアルすると聞いているが、是非図書館が酒田市の「新しい知の拠点」として市民が集えるよう今後、いろんな意見や視点を持った図書館協議会委員の人選を期待したい。
- ・企画展示が新しい試みであり、高く評価すべきと思われる。

(2) 光丘文庫の保全と活用

- ・光丘文庫の所蔵資料は中町庁舎に移転した。空調設備など貴重な書籍を保全活用するシステムが整備されつつあると聞いている。また「諸家文書目録」の電子化により検索が可能になったことも評価したい。
- ・常設展示やギャラリートークも開催していると聞いているが、情報プラザ以外に第2の展示会場を設定するなど参加者を増やす仕かけを考える必要がある。

(3) 子どもの読書活動の推進(再掲)

- ・「お話し会」「赤ちゃん読み聞かせ教室」「親子絵本作り教室」「絵本作家講演会」など様々な子ども読書活動推進事業を実施した結果、15歳以下の一人あたりの貸出冊数が着実に増えていることが表から読み取れる。
- ・現在、学校ではN I E活動が探求的な活動の1つとして話題になっているが、子ども新聞に掲載する記事について、本を通じて調べる機会が増えるので、テーマによっては企画展示の資料は、新聞編集上きわめて有効な「てがかり」となる。

9 スポーツ・レクリエーションの推進

(1) 子どもの基礎的運動能力の向上(再掲)

- ・平成29年度に総合型スポーツクラブが新たに川南地区に設立された。体協などと連携を取りながら、是非新しいタイプの団体として魅力的で成果の上がる運営をめざして欲しい。
- ・制度改正になったことを受けて、各スポーツ少年団がアクティブ・チャイルド・プログラムに取り組めるよう指導者資格を取得することが急務である。

(2) 生涯スポーツの推進

- ・生涯スポーツの振興と部活動の支援は相いれない関係にあると思われるが、総合型地域スポーツクラブ設立の原点に戻って活動全体を見直す必要がある。公共施設の使用料や減免については、共通の理念のもと公平な基準を策定すべきである。

(3) 競技スポーツの振興

- ・国体をはじめ全国大会の出場者は342人と昨年より大幅に増加したことは、評価できる。さらに全国大会での上位入賞や次期東京オリンピック・パラリンピックに出場できる選手の育成に努力していただきたい。
- ・「アランマーレ」女子プロバレーチームが2部ライセンスを取得出来るよう支援すると共に、地元開催を増やしたり、ファンの組織化などを通じて上位入賞を目指して欲しい。

(4) スポーツ施設の整備充実

- ・約3分の2の助成金を得て完成した光ヶ丘球技場は、サッカー・フットボールの人工芝競技場で今後の公式試合や練習に便利な場所にあり有効活用が期待される。
- ・日本卓球リーグ全国大会(実業団)が平成30年11月に本市で開催される。卓球の面白さやトップ技術をまじかで見ることができる絶好の機会である。卓球選手は勿論のこと市民にも見て欲しい大会である。

10 芸術文化活動の推進

(1) 芸術文化の振興

- ・世界的なテノール歌手で欧州の伝統ある歌劇場でソリストを務めた市原多朗氏が酒田市名誉市民の称号を与えられた。市原氏は岸洋子を育てた加藤千恵先生の門下生で、現在、活躍する若手の育成に尽力されている。昨年、市原氏は、希望ホールで新日本フィルハーモニー楽団をバックにその素晴らしい歌声を披露した。
- ・ひらた文化祭は、50回と言う半世紀の節目のフェスティバルでもあったが、力強い作品が数多く展示されていて山形県県民芸術祭優秀賞に相応しい美術・工芸・書等の力作が出品されていた。

(2) 市民の鑑賞機会の充実

- ・市立美術館は、幅広い年代に足を運んでもらえるような企画展示を配置して、他地区からも多くの参観者を得ている。一方土門拳記念館は、様々な取組をしているものの参加者はじり貧状態である。地元のリピーターを確保する積極的な手立てを講ずる時期に来ているのではないか。
- ・酒田市文化芸術基本条例や同推進計画が策定された。ひとづくり・まちづくりがそのキーワードであると聞いているが、文化を担う市民の育成と共にそれを通じて街づくりに貢献できる人材も求められていることになる。内に閉じこもることなく、関係団体と連携を取りながら、持ち味を伝える技も持ちたい。

(3) 青少年の芸術文化活動の充実

- ・市原多朗氏の講演、スタインウェイのピアノ演奏、ビッグバンドによる楽器クリニック、ダンス公演とワークショップ、演劇公演とワークショップなど参加者は少数でも本物に触れる機会が子ども達に提供された。これらの得がたい経験を糧に高い意欲をもって挑戦する子どもが一人でも二人でも増えることを期待したい。

11 歴史・文化遺産の保存と活用

(1) 文化財等の保存と活用

- ・鑑屋は井原西鶴の日本永代蔵に登場する豪商の建物である。商港都市さかたに相応しい文化財である。当時を偲ばせる貴重な石置杉皮葺屋根の改修も含めた耐震工事をして安全に見て頂く観光施設として生まれ変わって欲しい。
- ・山居倉庫の文化財化が話題になっている。併設の米資料館と同様、北前船交易につながる米どころ庄内の一大拠点であったことを観光客や市民のための学習の場として残すことは極めて貴重である。

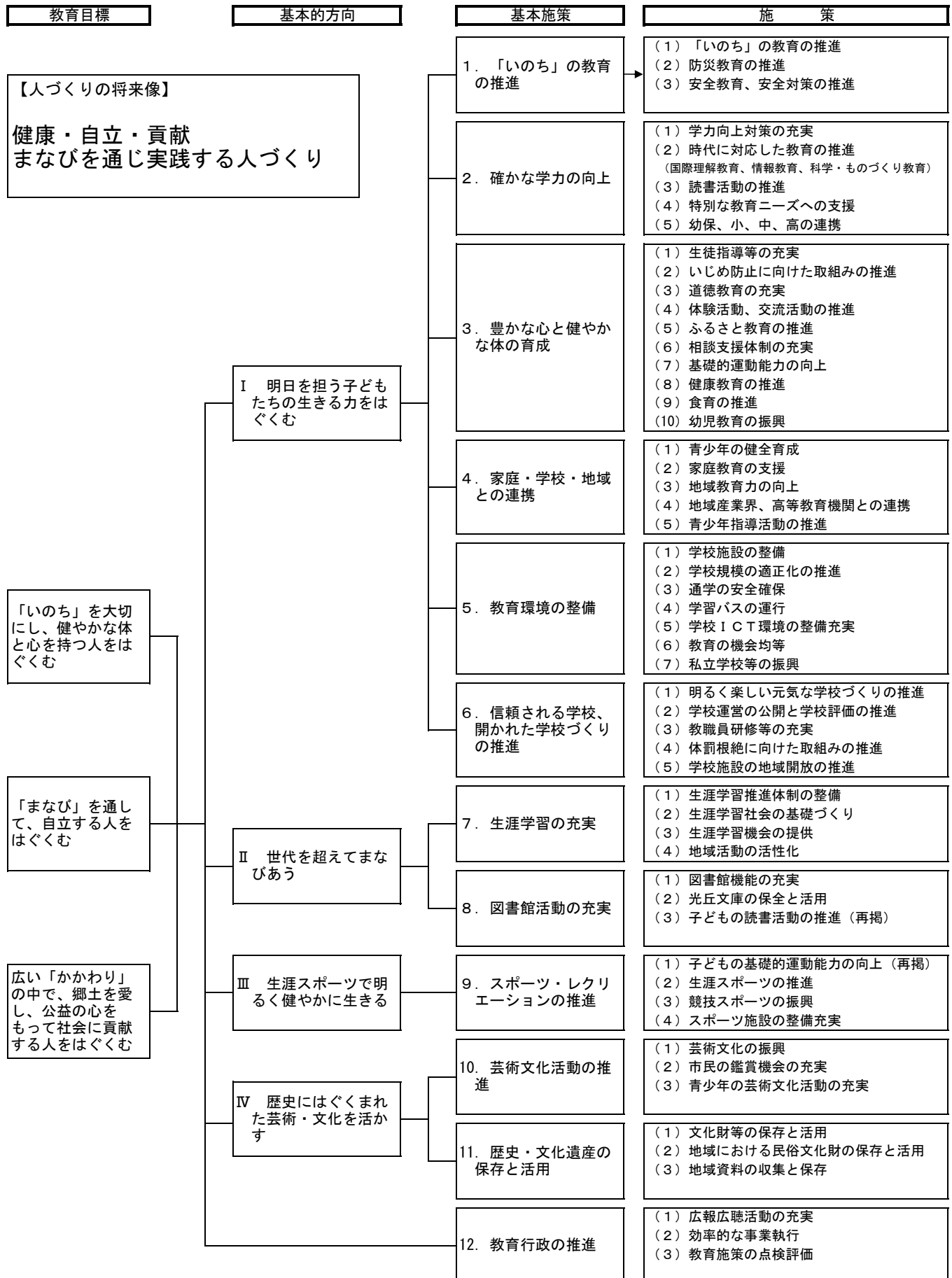
(2) 地域における民俗文化財の保存と活用

- ・引き続き文化庁の補助事業として、市内の小学5年生を対象に、中央の講師を招いて狂言ワークショップができたことは、地域の民俗芸能に直接親しむ絶好の機会であった。今後こうした生に触れる経験が貴重である。
- ・黒森歌舞伎は、農民による地域の伝統芸能として脈々と受け継がれてきた。今般、ポーランドでの公演が決定したが、是非、歌舞伎の真髓を伝えると共にヨーロッパの伝統文化についても学んできて欲しい。
- ・黒森歌舞伎について、ポーランドの学者を招へいしたと伺ったが、地元の東北公益医科大学の国際交流委員会に問い合わせると、情報がなかったとのことである。このような学术交流の機会と情報を市役所の多くの方々も係わっている公益大と共有していないことは、理解に苦しむことである。

(3) 地域資料の収集と保存

- ・文化伝承館は指定管理になって入館者数が3割ほど落ち込んだが、去年は少し持ち直して増加した。地理的なハンディキャップはあるが、本市では唯一の城下町の歴史を持つ地域なのでその特性なども生かした展示や企画に期待したい。
- ・市立資料館では昨年度、小中学校の参加者が倍増した。現在の施設のおかれた環境は駐車場も含め厳しいものがある。リニューアルが難しいのであれば、例えば駅前に完成する図書館の一角に第2の展示コーナーを設けるなどの工夫が望まれる。

酒田市教育振興基本計画後期計画体系図



基本的方向	I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ																											
基本施策	1 「いのち」の教育の推進																											
施策	(1) 「いのち」の教育の推進 (その1)																											
担当部署	学校教育課、社会教育文化課	平成29年度 担当部署	学校教育課、社会教育文化課																									
施策の目的及び目標																												
○目的																												
<ul style="list-style-type: none"> 命と生き方を大切にする「いのち」の教育を推進し、健やかな体と心を持つ人を育てる。 自らのいのちと存在を大切に思える気持ち（自尊感情）と他の人のいのちを尊重する気持ちを育てる。 命を守る安全教育を推進し、児童生徒自らが主体的に判断し、行動できる能力を高める。 乳児と母親とのふれあいを通し、子どもたちが自らも家族の愛情にはぐくまれ成長してきたことの喜びを感じてもらふことで、自己肯定感といのちの大切さを実感できる教育を推進する。 これから親になる世代に対しての学習機会の充実に努める。 																												
○目標																												
<ul style="list-style-type: none"> 自らのいのちと存在を大切に思える気持ち（自尊感情）と自らのいのちを守るために主体的に判断し、行動できる能力を高めていく。 																												
<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">算出方法</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">全国学力学習状況調査 「自分にはよいところがある」</td> <td>小六</td> <td>76.1%</td> <td>78.3%</td> <td>72.7%</td> <td>77.7%</td> <td></td> <td>増加させる</td> </tr> <tr> <td>中三</td> <td>67.8%</td> <td>65.1%</td> <td>70.6%</td> <td>70.1%</td> <td></td> <td>増加させる</td> </tr> </tbody> </table>						算出方法		H26	H27	H28	H29	H30	目標	全国学力学習状況調査 「自分にはよいところがある」	小六	76.1%	78.3%	72.7%	77.7%		増加させる	中三	67.8%	65.1%	70.6%	70.1%		増加させる
算出方法		H26	H27	H28	H29	H30	目標																					
全国学力学習状況調査 「自分にはよいところがある」	小六	76.1%	78.3%	72.7%	77.7%		増加させる																					
	中三	67.8%	65.1%	70.6%	70.1%		増加させる																					
<ul style="list-style-type: none"> 命と生き方を大切にする学校づくりと創意ある教育課程の編成を推進する。 自尊感情と思いやりの心を育む道徳教育、社会性を育む集団づくりと自己実現につながる生徒指導、いじめのない学校づくりを推進する。 日常の安全に関する知識や対応・行動の仕方についての教職員の資質の向上と児童生徒の危険回避能力の育成を図る。 学校と連携し、限られた授業時間で充実した内容を提供する。 																												
平成29年度 主な事業の概要及び実施状況																												
○学校教育の重点に「いのち」を大切にする学校づくりを掲げ、各校で創意ある取り組みを行った。																												
<ul style="list-style-type: none"> 授業や帰りの会等で振り返りの時間を大切にし自他の良さを見つめる習慣化を図った。（小学校） 鮭やサクラマスの研究活動や体験を通して生命のつながりを実感させる実践を行った。（小学校） 担任と養護教諭が連携した「生命の誕生」「体の発育」などの学習を通して、生命の尊さに気づき、自他を大切にする心や家族への感謝の心を育てる授業に取り組んだ。（小学校） 授業の中に話し合い活動を取り入れたり、班会・班長会・拡大班長会を隔週で開催し、他者との関わりを大切にした取り組みを行った。（中学校） 																												
○教職員一人ひとりが実際の場面で対応できるようにAED操作、心肺蘇生の講習会で研修を深めた。また、アレルギー対応についても各学校で研修会を開くなど対応できるように取り組んだ。																												
<ul style="list-style-type: none"> 救命救急講習会（1回 参加者 教職員45名 三中会場） 各小学校でプール指導前にPTAと連携して救命救急講習会を実施し、心肺蘇生やAED操作の講習を行った。 																												
○離岸流による事故の防止の啓発文書を配布し、各学校で児童生徒への指導を行った。																												
○赤ちゃん登校日																												
<ul style="list-style-type: none"> 市内の小学校（6年生）と中学生を対象し、2～3組の親子（赤ちゃん）とコーディネーター（1人）とともに学校を訪問して、子育てについての話や子どもへの思い等を聞き、赤ちゃんに触れ合う。 																												
小学校8校、中学校4校で31回開催。総参加人数839人。																												

基本的方向	I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ		
基本施策	1 「いのち」の教育の推進		
施策	(1) 「いのち」の教育の推進 (その2)		
担当部署	学校教育課、社会教育文化課	平成29年度 担当部署	学校教育課、社会教育文化課
平成29年度における改善点・新たな取り組み			
<p>○児童生徒が安全、安心に学校生活を送ることができるように、「いのち」を大切にする学校づくりを「学校教育の重点」の最重要課題として推進した。</p> <p>○離岸流、熱中症、蜂等の有毒生物等に対する事故防止について、心配される時期に適時に通知し、学校での指導に活かせるようにした。</p> <p>○市内全小中学校教員を対象にした救命救急講習会は「子どもの命を守る安全教育推進事業」で平成27年度より実施しており、AED講習を含めた救命救急講習会を継続して実施していく。</p> <p>○平成29年度に発生した中学生の死亡事案に関し、検証結果と共に事故等の未然防止について各学校に周知した。</p> <p>○小中学校ともに赤ちゃん登校日実施希望校が増加し、昨年の22回開催からスケジュールを工面し31回実施した。</p>			
事業の効果・課題			
<p>○「いのち」を大切にする学校づくりに向けて各校で取り組みを行い成果を上げている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの心身の事故を防ぐことを何より優先させるために、小規模校でも「組織」を活かし、全員考え全員で対応する体制を作り上げ、安全に関する指導の充実を図ることができた。(小学校) ・授業、生徒会活動、行事等の様々な場面で活躍し生き生きと取り組んでいる生徒の姿をたくさん見ることができた。(中学校) <p>○交通事故や校内・外での負傷事故が発生している。今後も事故の未然防止に取り組んでいく。 (H29発生率 負傷19件0.25% 交通17件0.22% 熱中症17件0.22% 児童・生徒数：7591人) (H28発生率 負傷22件0.29% 交通20件0.26% 熱中症17件0.22% 児童・生徒数：7841人)</p> <p>○赤ちゃん登校日</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちは緊張しながらも赤ちゃんを抱っこしたり、おもちゃであやしたり、一生懸命に向き合っていた。その中で、命の重さや大切さを感じるとともに、自分もこんなふうに愛情いっぱい育ててもらったことを実感し、親へ感謝する気持ちも生まれていた。 ・実施回数の増加に伴う赤ちゃんへの依頼とスケジュールの調整に苦労している。 ・思春期の中学生を対象に事業のやりづらさがコーディネーターや母子の印象に残ってしまった。 ・NPO法人にこっとが家庭教育支援の優れた活動を認められ文部科学大臣賞を受賞した。 			
点検結果・自己評価 (今後の方向性)			
29年度評価	A	<p>○学校教育の重点に「いのち」を大切にする学校づくりを掲げ、各校で創意ある取り組みを行うことができた。</p> <p>○赤ちゃん登校日の事前打合せを行い学校教諭と連携した授業の実施ができている。</p> <p>○赤ちゃんを実際に抱っこしたり、母親から子育ての苦労ややりがいを聞く事で、命の重さや、生まれてから今まで親から育ててもらったことを考える機会となっている。</p> <p>○赤ちゃん登校日の協力者である母子への配慮から、次年度中学校での実施を休止する。</p>	
【参考】28年度評価	A		

基本的方向	I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ		
基本施策	1 「いのち」の教育の推進		
施策	(2) 防災教育の推進		
担当部署	学校教育課	平成29年度 担当部署	学校教育課
施策の目的及び目標			
<p>○目的</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大規模な災害が発生した場合の学校としての体制づくりと児童生徒が主体的に考え、判断し、行動できる危険回避能力を育てる。 ・児童生徒が適切に避難できるように各校の防災マニュアルと防災管理体制の見直しを図る。 <p>○目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・災害発生時に適切な対応ができるように、教職員への防災教育研修会等を実施する。 ・学校防災マニュアル作成ハンドブックをもとに、学校防災マニュアルの整備を図る。 			
平成29年度 主な事業の概要及び実施状況			
<p>○子どもの命を守る安全教育推進事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「子どもの命を守る安全教育推進会議」の開催（年2回） ・児童・生徒への防災教育及び教職員への防災管理研修（小学校2校、中学校1校） ・防災教育研修会（1回 参加者 教職員31名） ・救命救急講習会（1回 参加者 教職員45名） 			
平成29年度における改善点・新たな取り組み			
<p>○平成28年度に作成した「学校防災マニュアル作成ハンドブック」を配布し、それをもとに各校の学校防災マニュアルの整備を行った。</p> <p>○学校での避難所開設に向けた学校と地域と市の事前協議を行った。</p>			
事業の効果・課題			
<p>○防災教育アドバイザーによる児童生徒向けの講話では、地震の基本的な知識や避難行動の留意点を、キーワードとしておさえ理解を深めることができた。また、画像を適切に使い、視覚をとおして理解を深めることができた。</p> <p>○学校防災マニュアルを各校で整備することができた。今後は防災マニュアル改善研修会や避難訓練などでマニュアルを検証しながら改善し、精度を高めていく必要がある。</p> <p>○学校での避難所開設に向けた三者での事前協議を進めることで、鍵の管理や初期対応の役割分担などを確認することができた。今後も事前協議を進めながら、避難所開設マニュアルを整備していく必要がある。</p>			
点検結果・自己評価（今後の方向性）			
29年度評価	A	○大規模な災害が発生した場合の学校としての体制づくりと児童生徒が主体的に考え、判断し、行動できる危険回避能力を育てる取り組みを進めることができた。	
【参考】28年度評価	A		

基本的方向	I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ		
基本施策	1 「いのち」の教育の推進		
施策	(3) 安全教育、安全対策の推進		
担当部署	学校教育課	平成29年度 担当部署	学校教育課
施策の目的及び目標			
<p>○目的</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「生活安全」「交通安全」「災害安全」に関する指導を通して、命を守る安全教育の推進を図る。 <p>○目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「生活安全」「交通安全」「災害安全」に関する知識や対応、行動の仕方について、具体的な場面を想定した実践的指導を推進する。 ・日常的な指導を工夫することにより、児童生徒が安全に関して主体的に判断し行動できる能力を高める。 			
平成29年度 主な事業の概要及び実施状況			
<p>○「非常災害対策と防止計画」の各学校での作成（昨年度に作成したものの見直し）と実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・火災発生時、地震及び津波発生時、不審者侵入時など、具体的な場面を想定した訓練を実施し、避難場所や経路など実施をふまえた改善を進めるよう指導した。 <p>○年間指導計画に基づいた交通安全教育の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学期の初発指導や特別活動等の時間において、交通安全教室や安全な登下校についての指導が行われている。 <p>○安全な登下校に向けた「見守り隊」との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域学校安全指導員（5名委嘱、1名あたり年間40日活動）による学校訪問を通じて、登下校の様子や通学路の要注意箇所について情報交換を行った。 			
平成29年度における改善点・新たな取り組み			
○各校のリスクに対応していくために、地域学校安全指導員による学校訪問を通して、専門的な視点からの指導をしていくとともに、地域と学校の連携をより強化していく。			
事業の効果・課題			
<p>○「非常災害対策と防止計画」の策定と改善によって、実際のその状況における行動とを想定した訓練が行われるようになっている。</p> <p>○各校における「見守り隊との対面式及びお礼の会」や「こども110番連絡所」の設定箇所確認を通して、登下校時に危険を感じたときや困ったとき、頼れる人や場所がすぐ思い浮かぶような体制づくりが整ってきた。</p> <p>○自転車使用について違反者、加害者にならない指導を各校で丁寧に繰り返し行っていく。</p> <p>○自転車使用時のヘルメットの着用が定着してきた。今後も命を守る観点からヘルメットの着用を継続して呼びかけていく。</p>			
点検結果・自己評価（今後の方向性）			
29年度評価	B	<p>○「生活安全」「交通安全」「災害安全」に関する指導を通して、命を守る安全教育の推進を図ることができた。</p> <p>○交通事故など事故の防止に向けて繰り返し指導を行っていく必要がある。</p>	
28年度評価	B		

基本的方向	1 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ		
基本施策	2 確かな学力の向上		
施策	(1) 学力向上対策の充実		
担当部署	学校教育課	平成29年度 担当部署	学校教育課
施策の目的及び目標			
<p>○目的</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の能力・学力を把握し、教師の授業改善や読書活動の充実を図る取り組みを通して、児童生徒の学力向上に資する。 <p>○目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校訪問指導を通し「確かな学力」を育成するために授業改善を図る。 ・小学校4年生から中学校3年生全員を対象に学力検査を実施し、児童生徒の学力の傾向を分析するとともに、各校での指導に生かす。 ・全教科に、全国標準以上の学力を目指す。 			
平成29年度 主な事業の概要及び実施状況			
<p>○学校訪問指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各小中学校で実施した53回の授業研究会に延べ121名の指導主事を派遣し、授業改善に向けた指導・助言を行った。 <p>○学力向上対策事業【予算現額15,188千円・支出済額13,912千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Q-U（楽しい学校生活を送るためのアンケート）やNRT（標準学力テスト）については学力の状況と学級の間関係等を把握し、指導を改善するために活用している。 ・小中授業力向上研修会では、算数・数学と英語で授業改善へ向けた実践的な研修を行った。 <p>○教育研究所運営事業【予算現額746千円・支出済額625千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各教科、領域ごとの研究部で授業研究会や研修会を延べ43回実施した。 <p>○単元研究委嘱</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員の指導力向上を目的に松原小、富士見小、広野小に単元研究を委嘱した。 			
平成29年度における改善点・新たな取り組み			
<p>○課題であった数学、英語の指導力向上に向けて、中学校教員県外視察（数学科、英語科）を実施し、先進校の実践を学ぶことが出来た。また同時に、ホームアンドアウェイの授業研究会を実施することで、研修の成果を共有することができた。</p>			
事業の効果・課題			
<p>○Q-Uについて、市全体や各学校で活用のための研修会を実施し効果的であった。希望した12校へ講師を派遣した。</p> <p>○平成27年度より学力向上推進会議を開催し、学力向上対策について有識者からご意見をいただきながら、具体的な施策について検討し、方向性を確認することができている。</p> <p>○小中授業力向上研修会では、公開授業を通して、新学習指導要領が目指す「主体的・対話的で深い学び」を具現化する授業改善について、理解を深めることができた。</p> <p>○NRTについては、各担任、学校が、個々の児童生徒やクラス、学校全体、市全体の学力の状況を把握し、指導を改善するために活用している。</p> <p>○社会教育文化課や図書館等とも連携し、学校と家庭で「目指す姿」を共有しながら、発達段階に応じて子どもの主体性を伸ばして、家庭学習や読書の時間の習慣化を図る。</p> <p>○今後の課題として、「小中一貫教育推進事業」と重ねて取り組んでいく必要がある。また、Q-Uについて校内で指導できる人材を育成することも課題となる。</p>			
点検結果・自己評価（今後の方向性）			
29年度評価	B	<p>○Q-UとNRTの授業改善への活用については、教員の理解が深まってきており、学級づくり、学力向上に向けて取り組んでいる。</p> <p>○課題であった数学では、「数学が好きである」生徒の割合は増加しており、今後の伸びが期待できる。英語も小学校での外国語活動の先行実施を軸に小中の連携を深めながら教員の指導力向上を図っていく。</p> <p>○教育研究所運営事業について、「研究所だより」秋号と年度末に発行している「研究所報」の記事に重なりが見られるため、平成30年度より内容を「研究所報」に統合し、「研究所だより」の発行を年2回から年1回とする。</p>	
【参考】28年度評価	B		

基本的方向	I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ		
基本施策	2 確かな学力の向上		
施策	(2) 時代に対応した教育の推進（国際理解教育、情報教育、科学・ものづくり教育）（その1）		
担当部署	学校教育課	平成29年度 担当部署	学校教育課

<p>施策の目的及び目標</p> <p>○目的</p> <ul style="list-style-type: none"> 時代の進展と社会の変化に伴い、国際理解教育、情報教育、科学・ものづくり教育などを推進することにより、子どもたちに時代にふさわしい能力を身につけさせる。 <p>○目標</p> <ul style="list-style-type: none"> A L Tを効果的に活用することで、英語を使つてのコミュニケーションへの興味・関心を高めるとともに、中学生海外派遣事業「はばたき」等を通して、国際感覚の基礎を身につける。 情報教育担当者会での研修を通して教員の指導力を高め、児童生徒の情報モラル及び情報活用能力の向上を図る。 <table border="1"> <tr> <th colspan="2">算出方法</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H31(目標)</th> </tr> <tr> <td rowspan="2">授業でICT機器を活用できる教員の割合</td> <td>小</td> <td>87%</td> <td>90%</td> <td>89%</td> <td>91%</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>中</td> <td>76%</td> <td>78%</td> <td>81%</td> <td>88%</td> <td>100%</td> </tr> </table> <ul style="list-style-type: none"> 理科教育センター各事業及び中村ものづくり事業の活動を通し、身近な現象を科学的に解き明かす力の育成やものづくりの楽しさを感じさせるようにする。 言語や生活習慣等の相違を越えた心と心のふれあいを行うことで、異文化に対する理解と認識を深め、国際社会に貢献する豊かな人間形成に資する。 							算出方法		H26	H27	H28	H29	H31(目標)	授業でICT機器を活用できる教員の割合	小	87%	90%	89%	91%	100%	中	76%	78%	81%	88%	100%
算出方法		H26	H27	H28	H29	H31(目標)																				
授業でICT機器を活用できる教員の割合	小	87%	90%	89%	91%	100%																				
	中	76%	78%	81%	88%	100%																				

平成29年度 主な事業の概要及び実施状況

- 外国人英語講師招致事業【予算現額29,530千円・支出済額28,331千円】
 - 中学校では外国語週4時間に対応してA L TとのT T（ティームティーチング）を実施し、ネイティブイングリッシュに触れる機会をもった。小学校には大規模校40日、小・中規模校20日派遣した。
- 中学生海外派遣事業「はばたき」【予算現額6,750千円・支出済額6,609千円】
 - 20名（男子8名、女子12名）の中学生をオハイオ州デンプシー中学校へ派遣した。体験入学やホームステイでは、団員が積極的に国際交流を図り、国際的な視野を広げることができた。
- 中村ものづくり事業【予算現額2,032千円・支出済額2,032千円】
 - チャレンジものづくり塾（年間5回開催、塾生19名）、サイエンス発明教室①（5領域83名）、サイエンス発明教室②（2領域84組）、ものづくり出前授業（延べ32校964名）を実施した。
- 理科教育センター推進事業において、理科自由研究相談会を実施し、酒田市教育委員会科学賞に多くの児童が応募した。
 - 理科研究相談会参加…13家庭
 - 教育委員会科学賞応募作品…100点（小学校22校、中学校3校）

<参考 これまでの応募点数・受賞点数の推移>

	H27	H28	H29	H30	H31
応募点数	112	107	100		
栄誉賞	該当なし	該当なし	該当なし		
科学賞	3	1	1		
奨励賞	3	6	7		
努力賞	15	12	15		

※栄誉賞とは全国レベルのコンクールに出品し、優秀な成績を収めた作品に贈られる賞である。

基本的方向	1 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ		
基本施策	2 確かな学力の向上		
施策	(2) 時代に対応した教育の推進 (国際理解教育、情報教育、科学・ものづくり教育) (その2)		
担当部署	学校教育課	平成29年度 担当部署	学校教育課
平成29年度における改善点・新たな取り組み			
<p>○外国人英語講師招致事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成29年8月より、外国語指導助手 (ALT) を3名から8名に増員した。 <p>○民間企業のタブレット端末の無償貸し出し制度を活用し、小学校3校、中学校1校で実践した。</p> <p>○2回のサイエンス発明教室、通年のものづくり塾、出前授業の内容を整理・統合し、参加対象者が大きな負担を感じずに気軽に参加できるようにした。</p> <p>○サイエンス発明教室のコースを各分野ごとに見直しをはかり、新しいニーズにこたえるようにした。特に下学年向け教室では2コースとも内容を新しくし、しかも2コースとも体験できるようにした。</p> <p>○産業フェアに参加して、ステージイベントで製作したロボットを披露したり、各報道機関に周知し、新聞等の報道で取り上げてもらう。</p>			
事業の効果・課題			
<p>○ALT派遣について、5、6年生の学級数が4学級以下の小学校には年間20日、5学級以上の小学校には年間40日を派遣し、児童が英語に慣れ親しみ、積極的に英語を使ってコミュニケーションを図ろうとする意欲を高めることができた。中学校への派遣回数を増やしたい。</p> <p>○「はばたき」では、デンプシー中学校の中学生に日本文化を英語で紹介したり、体験させたりして積極的にコミュニケーションを図ることで、英語への興味・関心を深めることができた。また、報告会の実施と報告集の作成が団員の英語学習への意欲を高め、さらには他の生徒の「はばたき」への関心につながっている。</p> <p>○中村ものづくり事業の2回のサイエンス発明教室、通年のものづくり塾、出前授業を通じ、ものを創ることの喜びを実感すると同時に、科学への興味関心を高める機会となった。</p> <p>○ものづくり塾の発表の場として産業フェアのステージイベントに参加したことで広く市民に注目され、ものづくりの楽しさを発信することができた。</p>			
点検結果・自己評価 (今後の方向性)			
29年度評価	A	<p>○国際理解教育において、6カ国からALTを派遣したことにより、小中学生が言語だけでなくALTの出身国の文化にも触れることができ、世界への興味関心を高め、国際的視野を広げることができた。</p> <p>○「はばたき」では、アメリカでのホームステイと中学校体験入学と首都ワシントンD. C.での研修を通して、異文化理解が深まり、英語学習への意欲を高めることができた。</p>	
【参考】28年度評価	A	<p>○情報教育、科学・ものづくり教育などを推進することにより、子どもたちに情報収集能力や表現力、科学的思考力などをつけることができ、知的好奇心を高めることができた。</p>	

基本的方向	I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ						
基本施策	2 確かな学力の向上						
施策	(3) 読書活動の推進						
担当部署	学校教育課	平成29年度 担当部署			学校教育課		
施策の目的及び目標							
○目的							
・読書活動を推進するため、本との多様な出会いを工夫するとともに、読書に親しめる環境の整備と充実を目指す。							
○目標							
算出方法		H25	H26	H27	H28	H29	H31目標
学校図書貸出冊数 (1人当たり月平均)	小	8.8冊	9.2冊	9.9冊	10.1冊	10.1冊	10冊
	中	0.63冊	0.73冊	0.78冊	0.98冊	0.87冊	2冊
全国学力・学習状況調査の質問53「読書は好きですか」回答による	小	小6 80.4%	小6 74.1%	小6 78.2%	小6 80.7%	小6 80.6%	小6 80.0%
	中	中3 74.2%	中3 73.6%	中3 71.2%	中3 74.4%	中3 71.5%	中3 80.0%
平成29年度 主な事業の概要及び実施状況							
○各小中学校への図書専門員の配置							
・25名の図書専門員を全小中学校に週2～3日配置し、学校図書の環境整備を行った。							
○図書購入費の各小中学校への配当							
・小学校15,051千円(充足率125.4%)、中学校11,589千円(充足率119.1%)の図書を購入した。							
○図書館教育・読書指導研修会の実施							
・「東北地区学校図書館研究大会に向けた授業改善」をねらいとした授業研究会を行った。前半は亀ヶ崎小学校の池田教諭による提案授業「立場を変えて書きかえよう『大造じいさんとガン』」(5年)、後半は事後研究会として新潟大の足立准教授より指導・助言を頂戴した。							
平成29年度における改善点・新たな取り組み							
○「家読」の更なる推奨							
・学校において多様な読書活動を展開するとともに、家庭と連携しながら、本とふれあう機会の充実を図った(アウトメディアで生まれた時間を、親子読書の機会にする・読書について親子で会話する時間に充てるなど、「読書手帳」の活用による家庭での読書を推奨した。)							
事業の効果・課題							
○図書専門員の間で管理システムの活用や読書環境整備に対する意識が向上し、特に小学校においては読書量や読書意欲が高い水準で維持されている。							
○どの学校でも集団読書の機会(読み聞かせや朝読書)を工夫し、読書意欲向上を図っている。							
○図書館教育・読書指導研修会の後、各校では内容の伝達がなされ、日々の授業改善や図書館運営の工夫につながった。平成31年度に開催される東北大会に向け、図書の活用を位置付けた授業づくりを推進する。							
○小学校において、学校図書を年間1人100冊以上借りている学校が19校ある。							
○授業における図書活用の充実を図り、更に図書室や本と児童生徒を近づける工夫を検討したい。							
点検結果・自己評価(今後の方向性)							
29年度評価	B	○これまでの4年間、順調に伸びていた「目標」に係る数値が、29年度は中学校での1人あたりの貸出冊数が前年度を下回った。					
【参考】28年度評価	B	○東北図書館大会に向け、発表予定の小・中学校を中心に「授業における図書活用の充実」に向けた研究や研修が全市的に進められている。					
		○今後はライブラリーセンターの開設を視野に入れ、「市立図書館と学校との連携」を深めるべく、学校のニーズに合った支援を探り、児童生徒が本を手に取りたくなる魅力的な提案ができるよう、関係各課と検討を進めていく。					

基本的方向	1 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ		
基本施策	2 確かな学力の向上		
施策	(4) 特別な教育ニーズへの支援		
担当部署	学校教育課	平成29年度 担当部署	学校教育課
施策の目的及び目標			
<p>○目的</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特別な教育的支援を必要とする児童生徒や日本語でのコミュニケーションが困難な児童生徒等に対して、個別のニーズに応じた支援を行う。 <p>○目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特別支援教育コーディネーターを中心に、相談や支援が組織的に行われるようにする。 ・教育支援員等の適正な配置により、個別のニーズに沿った指導・支援を行う。 ・日本語指導講師等の派遣により、日本語や病気で困難さを抱える児童生徒が、学校での生活に早期に適応できるようにする。 			
平成29年度 主な事業の概要及び実施状況			
<p>○教育支援体制推進事業【予算現額80,370千円・支出済額77,943千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育支援員60名を小学校22校・中学校7校に配置した。(6時間×200日、研修3回) <p>○ADHD等支援体制推進事業【予算現額5,827千円・支出済額5,626千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特別支援教育コーディネーター等を対象とし、研修会を実施した。(2回) ・保護者研修会(ペアレントトレーニング)を開催した。(人数:6名、5回×1グループ) ・3名の特別支援教育巡回相談員による巡回指導を実施した。(22校延べ353回) H28は341回、支援要請者数:228名 <p>○日本語指導講師等派遣事業【予算現額1,179千円・支出済額734千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本語指導講師を220回派遣した。(対象児童生徒数5名) 			
平成29年度における改善点・新たな取り組み			
事業の効果・課題			
<p>○教育支援体制推進事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年3回の研修会・情報交換会を通して、特別な教育的支援を必要とする児童生徒への適切な対応について研修することができた。また60名に増員されたことで、授業に集中して取り組んだり、落ち着いて学校生活を送れるようになったりする児童生徒が増えるなど、教育支援員の配置による効果が見られた。 <p>○日本語指導講師等派遣事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本語指導の希望のあったすべての児童生徒に講師を派遣することができ、日常生活を円滑に過ごせるように個々の困り感に合わせた指導をすることができた。 ・日本語指導講師が児童生徒に寄り添った指導と、講師と学校の緊密な連携のおかげで、児童生徒が安心して学校生活を送ることができた。 <p>○酒田特別支援学校や福祉課発達支援室との連携を図り、保護者や学校と丁寧に情報共有することができた。</p> <p>○学校と巡回相談員との連携がスムーズに進み、保護者との面談や担任への指導方法の助言が効果的に行われている。巡回指導の依頼が増えていることから、個別のニーズに沿った指導・支援を行うため巡回相談員の増員を検討している。</p>			
点検結果・自己評価(今後の方向性)			
29年度評価	A	○教育支援員は、学校の実態に応じて配置しており、児童生徒の状況に合わせた支援を行っている。授業に集中して取り組んだり、落ち着いて学校生活を送れるようになったりする児童生徒が増えるなど、教育効果が大きいと考えている。学校のニーズも非常に高い。	
【参考】28年度評価	A		

基本的方向	I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ		
基本施策	2 確かな学力の向上		
施策	(5) 幼保、小、中、高の連携		
担当部署	学校教育課	平成29年度 担当部署	学校教育課
施策の目的及び目標			
<p>○目的</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園・保育園と小学校、小学校と中学校と高等学校が連携を図り、育ち・学びのつながりを重視した幼児・児童・生徒への指導・支援を行う。 <p>○目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園・保育園と小学校が連携し、保育や指導についての相互理解を深め、学びの連続性を考慮しながら卒園後の小学校教育及び生活への円滑な接続を図る。 ・小学校と中学校が連携し、各中学校区をまとまりとした教職員の相互研修会を実施することで、9年間を通したまなびのつながりを見据え、見通しを持って指導を行う。 ・中学校と高等学校が連携し、キャリア教育の視点に立った進路指導の充実を推進する。 			
平成29年度 主な事業の概要及び実施状況			
<p>○「酒田っ子すくすく育成会議」（子育て支援課）の場で、幼保小の連携のあり方について話し合った。</p> <p>○幼保小指導者研修会（子育て支援課）で、東北公益文科大学の白旗希実子先生から、「対話を通じた相互教育実践への理解」について講話をいただいた。その後の演習では、幼保小連携の中で「学んだこと」「気がついたこと」「聞きたいこと」について意見を出し合いながら付箋に書いてまとめたり、昨年度作成した「接続期プログラム」の活用方法について話し合ったりした。</p> <p>○幼保小の指導者相互職場体験研修（子育て支援課）において、幼保小の職員が互いの教育観、保育観を理解したり、子どもの様子を観察することができた。</p> <p>○「小中授業力向上研修会」で外部講師を招聘し、小中学校の教員を対象として算数・数学、英語の授業改善に向けた実践的な研修を行った。</p> <p>○「H29山形の未来をひらく教育推進事業」の中高教員相互派遣研修において、県立鶴岡南高等学校で数学、県立酒田西高校で英語の授業研究会が行われた。</p>			
平成29年度における改善点・新たな取り組み			
<p>○中学校区ごとに、小中の連携を一貫教育へと前進させるため、義務教育9年間の系統的な育ちを意識し、生活と学力の一体的向上を目指していく。</p> <p>H29:小中一貫教育検討委員会（第1回）を開催</p> <p>概要：①連携の実態把握 ②先進校視察 ③5年間の年次計画と方向性 ④中学校区ごとに実状に合った推進 ⑤市教委による提案と支援</p>			
事業の効果・課題			
<p>○「酒田っ子すくすく育成会議」では、幼保小のスムーズな接続について話し合い、小学校や園の職場体験を通して両者の教育観を理解したり、就学にあたって情報を共有したりすること等を継続して実施していくことを確認した。</p> <p>○幼保小指導者研修会では、グループ演習を通して「接続期プログラム」の活用方法について話し合い、日々の実践につなげることができた。</p> <p>○幼保小の指導者相互職場体験研修では、子どもの発達段階を理解し、指導や保育に係る課題を共有化し、お互いの教育等について情報交換することができた。</p> <p>○小中授業力向上研修会を通して、算数・数学では推進校の提案授業を基に小中学校の校種を超えて学習指導要領が求める授業のあり方について理解を深めることができた。英語の研修会では意欲的に英語を使って話す・読む・聞く・書く活動が充実するための指導のあり方について研修できた。</p>			
点検結果・自己評価（今後の方向性）			
29年度評価	B	<p>○幼稚園、保育園と小学校が連携し、就学前後において子どもに関する情報交換を行うことで学びの連続性を図ると同時に、切れ目ない支援を継続して行っていく必要がある。</p> <p>○小中一貫教育における教育委員会の方針を示し、平成30年度には臨時校長会を開催しさらに議論をすすめていく。</p> <p>○小中高連携のものづくり教室を開き、発達の段階に即した科学・工業系の授業を通して、ものづくりへの興味・関心を高める。</p>	
【参考】28年度評価	B		

基本的方向	I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ		
基本施策	3 豊かな心と健やかな体の育成		
施策	(1) 生徒指導等の充実		
担当部署	学校教育課	平成29年度 担当部署	学校教育課
施策の目的及び目標			
<p>○目的</p> <ul style="list-style-type: none"> 健全な自尊感情と響き合うあたたかな心をはぐくむ生徒指導の充実を図る。 <p>○目標</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校教育指導（経営訪問、計画訪問、要請訪問）等を通して、心が通い合い、高め合う集団づくりを目指すと共に、一人ひとりの自尊感情を高め、自己実現につなげる。 			
平成29年度 主な事業の概要及び実施状況			
<p>○学校教育指導</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校教育の重点に沿った各校の経営構想及び取り組みの重点を立案する際、児童生徒の自尊感情や所属感を高める指導、担任力（学習指導力、生徒指導力、特別支援教育力）の向上を大切にするよう指導した。 <p>○心が通い合い高め合う集団づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> 市生徒指導主事会（年2回）、小学校生活指導連絡協議会（年2回＋中学校区ごと）、中学校生徒指導連絡協議会（年6回）における指導・助言通じて、積極的生徒指導を推進した。 中学校生徒指導主事会を年2回開催し、各校の実態と取り組みを共有し合うことで、事故や問題行動の未然防止と適切な対応（生徒のつながりの広域化への留意等）につなげている。 			
平成29年度における改善点・新たな取り組み			
<ul style="list-style-type: none"> Q-U（3年目／楽しい学校生活を送るためのアンケート）により、学級内の人間関係と一人ひとりの学級に対する思いを把握し、子ども理解とよりよい集団づくりにつなげている。平成29年度は、学校からの希望を受け、分析等に係る講師の派遣を12校に対して実施した。 			
事業の効果・課題			
<p>○特別支援教育への理解と校内体制整備が進み、一人ひとりに寄り添った支援が行われている。</p> <p>○丁寧なアンケート調査を複数回行い、いじめの早期発見に向けたアンテナが鋭くなっている。初期段階から組織的に対応する学校が増え、解消率の増につながっている。</p> <p>○行事や児童会・生徒会活動では、主体性を生かした活動を一層充実させていく必要がある。</p> <p>○「全国学力学習状況調査」の「自分にはよいところがあると思うか」という質問項目では、「そう思う」及び「どちらかというと思う」の割合が小・中共にわずかに（1ポイント未満）全国平均を下回った。 全国：小77.9% 中70.7% 本市：小77.7% 中70.1%</p>			
点検結果・自己評価（今後の方向性）			
29年度評価	B	<p>○Q-U（楽しい学校生活を送るためのアンケート）の分析と結果考察により、全校体制で心が通い合い、高め合う集団づくりの構築を目指している。1回目と2回目の変容をふまえ、学級経営により一層反映させていく。</p> <p>○授業を通じた生徒指導を今後も意識し、全員参加を保証した「わかる授業」自己有用感・自己存在感を感じられる授業づくりを進めていく。</p>	
【参考】28年度評価	B	<p>○「義務教育9年間を通じた学びと育ち」を意識し、小学校と中学校の協働・情報共有を更に推進していく。特に、本人の特性や家庭環境、生育歴等の引き継ぎを重視し、一人ひとりに寄り添った指導を通じて自尊感情や自己肯定感を高めていけるよう、学校を支援する。</p> <p>○小の細やかな学習指導と中の生徒主体の活動、互いの良さに学び合う。</p>	

基本的方向	I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ		
基本施策	3 豊かな心と健やかな体の育成		
施策	(2) いじめ防止に向けた取組みの推進		
担当部署	学校教育課	平成29年度 担当部署	学校教育課
施策の目的及び目標			
<p>○目的</p> <ul style="list-style-type: none"> すべての児童生徒が安心して学校生活を送り、さまざまな活動に取り組めるようにいじめ防止を推進する。 市、学校、地域住民、家庭、その他の関係者が連携し、いじめの問題を解決する。□ <p>○目標</p> <ul style="list-style-type: none"> いじめ問題を学校のみならず、市民及び社会総がかりで進め、いじめの未然防止、早期発見、対応等をより実効的なものとなるように推進していく。 			
平成29年度 主な事業の概要及び実施状況			
<p>○酒田市いじめ問題対策連絡協議会の開催（6月）</p> <ul style="list-style-type: none"> 前年度6月の第2回に続き、「酒田市いじめ防止基本方針」に基づくいじめの防止等のための有効な対策、情報交換、啓発事業その他の必要な事項に関する協議(第3回)を行った。 <p>○酒田市いじめ問題対応委員会（継続）</p> <p>□・対応委員会は酒田市教育委員会が主体となって調査を行う場合における重大事態に係る事実関係に関することの調査及び審議を行う組織である。□</p> <ul style="list-style-type: none"> 第2回を平成30年2月に開催し、本市のいじめ防止の取組みについて委員から意見をいただいた。 <p>○中学校生徒会連絡協議会支援事業【予算現額90千円・支出済額90千円】□</p> <ul style="list-style-type: none"> 酒田市・佐佐町中学校生徒会連絡協議会の分科会で「いじめ撲滅」等をテーマとした話し合いが行われた。各校の取組みを紹介し合い、「よりよい人間関係をつくるための生徒会の活動」について協議し、今後の活動の手がかりを各校に持ち帰った。 <p>○児童生徒だけでなく保護者にも年2回のいじめアンケート（6月、11月）を実施</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校と家庭が連携して早期発見と適切な対応に取り組んだ。 			
平成29年度における改善点・新たな取り組み			
<p>○国や県の「いじめ防止基本方針」改定を受け、本市の基本方針（平成27年3月制定）を改定した。改定に当たり、パブリックコメントや学校への原案送付など、広く意見聴取の機会を設けた。</p> <p>○情報交換を主眼に置いた「いじめ問題対応委員会」を開催した。今後も、重大事態の際に緊急で招集するだけでなく、原則年1回、現状報告と市の取組に対する助言をいただく場として位置づける。</p>			
事業の効果・課題			
<p>○小学校においては前年度比でいじめ認知件数が大幅減となった。「相手が嫌な気持ちになったら、それはいじめである」という認識が、低学年児童の間にも理解が進んだものと捉える。</p> <p>○いじめのない学校づくりに向け、授業、学級活動、児童会・生徒会活動で児童生徒の主体的な活動を充実させ、子ども同士が支え合い、相談しあえる関係を育てる活動が実践されている。</p> <p>○「酒田市いじめ問題対策連絡協議会」「酒田市いじめ問題対応委員会」の設置で、学校だけでなく地域、関係機関・団体の大人がいじめについて協議し、実際に対応できる体制を整えている。連絡協議会を通じて各団体の動きが互いに見え、連携や協働の意識が高まってきている。</p>			
点検結果・自己評価（今後の方向性）			
29年度評価	B	<p>○各学校ではアンケート調査や面談など未然防止、早期発見に向けた取り組みを行い、初期段階でいじめを認知し、解消に向けて取り組んでいる。</p> <p>○国や県のいじめ防止基本方針改定を受け、市の基本方針を3月に改定した。「いじめの定義の確認」「いじめ防止の取組や相談窓口の周知」などについては、各学校においても家庭や地域への理解浸透を図らなければならない内容であり、学校基本方針の定期・随時見直しを求めていく必要がある。</p> <p>○いじめ重大事案の発生を想定した初動対応についてシミュレーションしておく必要がある。</p>	
【参考】28年度評価	B		

基本的方向	I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ		
基本施策	3 豊かな心と健やかな体の育成		
施策	(3) 道徳教育の充実		
担当部署	学校教育課	平成29年度 担当部署	学校教育課
施策の目的及び目標			
<p>○目的</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校の教育活動全体を通じた道徳性の向上並びに「公益の心」の涵養を目指し、道徳教育の充実を図る。 <p>○目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・心に響く資料を活用した、自己の生き方について考えを深める道徳授業の工夫を促す。 ・学校や地域で自分のできることを考え、実践することを通して「公益の心」を育む。 			
平成29年度 主な事業の概要及び実施状況			
<p>○要請訪問を通じた授業づくりと授業改善に向けた指導・助言</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業研究会や道徳教育推進教員の情報交換会の中で、学校の重点や各学年の重点に沿った計画的な指導を行うように指導した。 ・道徳の教科化に向けて、児童生徒が主体的に取り組む「考える道徳」に向けた授業づくりを助言した。 <p>○地域教材の活用と地域貢献活動の取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学生用「わたしたちのまち さかた」や中学生用「ジュニア版酒田の歴史（改訂版）」などの地域教材を活用して、先人の知恵と功績に学び、ふるさとへの理解と愛着を深めている。 ・小学校では多くの学校で地区ボランティアへの参加がなされており、中学校では地域貢献活動を企画立案の段階から自治会と協力し、中学生が主体となって行っている学校が増えている。 			
平成29年度における改善点・新たな取り組み			
<p>○道徳教育の充実に向けた、地区内の統一した取り組みと共有化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・30年度から小学校において教科書を用いた「特別の教科 道徳」としての授業が始まるため、評価（主に指導要録の形式）について小・中学校の教務主任会で検討する機会を設けた。 			
事業の効果・課題			
<p>○子どもたちの主体的な取り組みを促し、考え、議論・討論する道徳授業づくりが進んでいる。</p> <p>○公益の心の涵養につながる勤労奉仕的体験活動及び社会奉仕活動が、多くの学校で実施されており、事前事後に関連した道徳授業を行うことで体験的な学びが深められている。</p> <p>○「全国学力学習状況調査」の「地域とのつながり」に関する質問項目でも、肯定的な回答が小中共に全国平均を大きく上回っていた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「今住んでいる地域の行事に参加していますか」という質問項目「当てはまる」及び「どちらかといえば、当てはまる」の割合 全国：小62.6% 中42.1% 本市：小85.6% 中68.8% 			
点検結果・自己評価（今後の方向性）			
29年度評価	B	<p>○各学校での道徳教育に加え、飽海地区、市内の学校で授業公開を行い、「考え、議論・討論する」道徳の授業づくりを推進している。</p> <p>○他方で、道徳の授業に対する全体的な意識は確実に底上げされており、教材や実践の交換が以前よりも盛んに行われている。平成30年度から使用開始となる教科用図書（中学校は平成31年度より）に対する関心も高かった。</p> <p>○今後、平成30年度初年度となる道徳の授業及び評価の課題や、他の教材の取扱い状況を把握し、学校訪問における指導に生かしたい。</p>	
【参考】28年度評価	A		

基本的方向	I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ		
基本施策	3 豊かな心と健やかな体の育成		
施策	(4) 体験活動、交流活動の推進 (その1)		
担当部署	学校教育課、社会教育文化課	平成29年度 担当部署	学校教育課、社会教育文化課

施策の目的及び目標

○目的

- ・日本国内の異なった地域の文化に触れる機会を与えることで、自分の育った地域のよさの再認識を図るとともに、自主性や協調性を養い、生きる力を育む。
- ・学校を超えた異年齢の子ども達の協同した体験活動を通して、心豊かな人間性と自立心を育み、仲間づくりとリーダーの育成を図る。
- ・事業に参加した子どもたちの自主性と協調性を養い、それぞれの学校、地域、家庭において積極的に物事に取り組んでいける子どもを育む。

○目標

- ・体験活動や交流活動を通し、人や自然とのかかわりの中で思いやりの心と健やかな体を育み、自然の営みへの感謝の心の育成を図る。

算出方法		H25	H26	H27
交流活動参加児童の満足度 (アンケートによる)	飛島いきいき体験スクール	95%	100%	96%
	自然体験学習	90%	92%	92%
	少年の翼	97%	100%	100%

	H28	H29	H31
飛島いきいきスクール	98%	97%	100%
自然体験学習	92%	87%	100%
少年の翼	100%	100%	100%

平成29年度 主な事業の概要及び実施状況

- 飛島いきいき体験スクール支援事業【予算現額631千円・支出済額580千円】
 - ・2小学校、児童81名参加 (H28: 2校114名、H27: 3校114名、H26: 4校215名)
- 自然体験学習推進事業【予算現額2,248千円・支出済額2,247千円】
 - ・10小学校、児童517名参加 (H28: 10校501名、H27: 11校554名、H26: 8校408名)
- 少年の翼交流事業【予算現額3,572千円・支出済額3,390千円】
 - ・沖縄訪問: 12月10日(日)~14日(木) 5年生21名、6年生11名、受け入れ: 天底小学校
 - ・受け入れ: 2月7日(水)~10日(土) 今帰仁村 6年生35名、交流担当校: 広野小学校
- 「とびしまミステリージオツアー」
 - ・6月17日~18日開催、参加者12名、島内散策、釣り、遊漁船など親子でジオパークについて学び、1泊2日で多くの体験活動を行った。刺し網漁の見学も行った。
- 「冬遊びお泊まり会」
 - ・2月3日~4日開催、参加者19名、ボランティア4名、外遊びや調理実習等で集団行動を行った。高校生が小学生の面倒をみる経験をとおり成長することができた。

基本的方向	I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ		
基本施策	3 豊かな心と健やかな体の育成		
施策	(4) 体験活動、交流活動の推進 (その2)		
担当部署	学校教育課、社会教育文化課	平成29年度 担当部署	学校教育課、社会教育文化課
平成29年度における改善点・新たな取り組み			
<ul style="list-style-type: none"> ○新規事業として親子での飛島の体験活動を実施した。ジオガイドから丁寧な説明を受けながらジオパークについて学んだ。飛島中学校体育館内にテントを張り宿泊をした。 ○「冬あそびお泊まり会」では屋外での雪遊びのほか、携帯用ゲーム機で遊ぶ機会の多い子ども達に対して、酒田凧づくりを行い、実際に凧あげをして、複数の友達と楽しく遊んだ。調理実習を行い、自分たちが食べる食事をつくった。 			
事業の効果・課題			
<ul style="list-style-type: none"> ○飛島の方々との関わり、環境を生かした活動をすることにより、主体的に調べる力、協力する態度、自分で判断し行動する力等を育むことにつながっている。 ○鳥海高原家族旅行村を基点として、酒田の豊かな自然を活用した体験学習を実施することができた。また、児童、教職員のアンケートをもとにプログラムを充実させ、満足度の高い活動を展開することができた。 ○少年の翼では、体験や交流を通して児童が視野を広げ、沖縄という異なった地域の文化や自然への理解を深めている。また、故郷である酒田のよさを見直す機会にもなっている。 ○とびしまミステリージオツアーでは自然体験活動を行いながら、親子、参加者、島民等との相互の交流が図られ、新規事業ながら満足度の高い事業となった。 募集定員は15組に設定していたが、実際事業を実施してみると6組であったためきめ細やかな対応ができた。15組30名となった場合は班分けするなどの対応も検討する必要がある。 ○「冬あそびお泊まり会」では、冬遊びの野外活動や調理実習、布団敷きや入浴、掃除などの集団行動に加え、ボランティアの高校生が、主体的に子どもをサポートすることができた。 			
点検結果・自己評価（今後の方向性）			
29年度評価	A	<ul style="list-style-type: none"> ○飛島、鳥海山の自然に触れることは子どもたちのたくましい成長につながっている。今後、プログラムの見直しや予測される様々な危険に対応できるよう安全対策、環境整備を行っていく。 ○少年の翼では、沖縄の小学生との交流活動を通して、相互理解や友情を深めることにもつながっており、双方のニーズも高い。 ○子ども達が自然の中で遊び、自分たちで食事の準備をし、中高生ボランティアや学校、学年の違う児童と2日間過ごしとても良い経験をしている。 ○ジオパークに関連した事業では、平成30年度は夏休み前に鳥海山周辺のジオサイトについて学ぶ実地研修を予定している。 	
【参考】28年度評価	A		

基本的方向	I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ		
基本施策	3 豊かな心と健やかな体の育成		
施策	(5) ふるさと教育の推進 (その1)		
担当部署	学校教育課、社会教育文化課	平成29年度 担当部署	学校教育課、社会教育文化課

施策の目的及び目標

○目的

- ・地域を理解し、ふるさと（地域）への愛着を育む。
- ・これからを担う子どもたちが、現代社会を生き抜くうえで確かな力、身に付けなければならない基本的な知識の習得や職業観の醸成、コミュニケーション能力の向上に加え、郷土愛の醸成を図ることを目的として実施する。

○目標

- ・地域で活躍している方々との交流や地域の歴史や文化等を学ぶことで地域理解し、ふるさと（地域）への愛着を持つ児童生徒の育成を図る。
- ・鳥海山と飛島の自然に触れ、その成り立ちや生態系、人々の暮らしについての学習を推進する。
- ・地域の職場での体験活動や地域の方々をゲストティーチャーとして招いての講演会の実施など、地域の特色や資源を活かして教育活動を推進する。
- ・酒田っ子はぐくみ事業の開催小中学校の拡大。

平成29年度 主な事業の概要及び実施状況

○副読本「わたしのまちさかた」の編集と授業での取り組み

【予算現額3,036千円・支出済額2,791千円】

- ・小学校3、4年社会科で使用する副読本「わたしのまちさかた」をもとに、地域産業、地理的環境、地域発展に尽くした先人の働きなどについて学習し、「ふるさと酒田」に対する誇りと愛着を育てる学習に取り組んだ。

○総合的な学習で「ふるさと酒田」の良さを発見

- ・総合的な学習の時間で地域文化、産業、歴史、人との関わりなどについて学習し「ふるさと酒田」の良さを発見する学習に取り組んだ。
- ・飛島いきいき体験スクール支援事業では、子どもたちが飛島ならではの自然・歴史・文化等について島民と触れ合いながら学び、郷土を愛し、大切にしようとする心を育む体験ができた。
- ・自然体験学習推進事業では、生まれ育った酒田の自然を体験し、鳥海山の雄大さに触れるとともに、仲間と協力して活動する力の育成を目指して活動を行った。

○酒田っ子はぐくみ事業 実施回数11回、延べ参加者数1,092人

申請学校	対象	人数	実施日	講師
第一中学校	2学年	127	6/23	マナーを身につけよう 佐藤万里子氏
第二中学校	2学年	111	6/27	
琢成小学校	1・2学年	52	9/28	音楽でコミュニケーション 鍋谷志麻氏
西荒瀬小学校	1・2学年	38	12/1	
松陵小学校	5・6学年	180	6/25	大切な仲間を勇気づけるコミュニケーション 小野弘志氏
第六中学校	1学年	130	10/24	岸洋子を知ろう 佐藤喜和子氏
第六中学校	2学年	128	7/7	さまざまな仕事・働き方を知る 荒尾多喜氏
第六中学校	3学年	151	6/23	佐藤勇太氏(柊花鳥風月)
第二中学校	2学年	111	6/21	キャリア教育 渡辺伸子氏
琢成小学校	4学年	32	1/19	地元で働く先輩からの講話 小松尚之氏
琢成小学校	4学年	32	1/25	地元で働く先輩からの講話 安藤孝二氏
合計	11回	1092		

基本的方向	I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ		
基本施策	3 豊かな心と健やかな体の育成		
施策	(5) ふるさと教育の推進 (その2)		
担当部署	学校教育課、社会教育文化課	平成29年度 担当部署	学校教育課、社会教育文化課
平成29年度における改善点・新たな取り組み			
<ul style="list-style-type: none"> ○社会科副読本においては、新庁舎の写真を掲載したりデータを更新したりするなど、随時、新しい情報や資料を掲載するように努め、改訂版を例年通り3月中旬に発行した。 ○キャリア教育について、公益文科大学公益学部講師渡辺伸子氏が加わった。 ○さまざまな仕事・働き方を知るをテーマに就職ガイダンス登録講師、荒生多喜氏が加わった。 ○大切な仲間を勇気付けるコミュニケーションをテーマにペップトーク公認講師、小野弘志氏が加わった。 			
事業の効果・課題			
<ul style="list-style-type: none"> ○平成32年4月に新学習指導要領に対応した副読本が子どもたちの手に届くように、編集作業を進めているが、全面改訂に伴い、3年生だけでなく4年生にも配付することを検討する。 ○新規の講師を加えメニューの幅が広がった。実施校からも評価してもらっている。 ○施策の目的が達成されるようにさらに「酒田っ子はぐくみ事業」メニューの充実を図っていく。 			
点検結果・自己評価（今後の方向性）			
29年度評価	B	<ul style="list-style-type: none"> ○社会科、総合的な学習の時間などを通して地域への愛着や誇りを継続的に育てていく。 ○社会科副読本においては、平成32年度の新学習指導要領実施に向けて3か年計画で、学習指導要領に対応した新しい副読本の編集を進めていく。 ○鳥海山・飛鳥ジオパーク構想に関連する学習活動の教材開発等を検討していく。 ○新規事業「キャリア教育推進事業」における、地域の人々との様々な交流や関わりも地元を再認識する一助としたい。 	
【参考】28年度評価	B	<ul style="list-style-type: none"> ○中学生の職業体験の事前学習に活用されるケースが多いが、子どもの自立をはぐくむことと郷土愛の醸成という二つの目的があり、要望等も確認しながらねらいを明確にして事業に実施に取組みたい。 ○学校のニーズにあったメニューを提供し、講師の充実に努めながら継続をしていく。 	

基本的方向	I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ					
基本施策	3 豊かな心と健やかな体の育成					
施策	(6) 相談支援体制の充実					
担当部署	学校教育課	平成29年度 担当部署	学校教育課			
施策の目的及び目標						
○目的						
・いじめや不登校等としてあらわれてくる児童生徒の心の問題について、学校内外で相談できる環境整備を行い、児童生徒の心身の健全育成を図る。						
○目標						
算出方法		H26	H27	H28	H29	H31
不登校児童生徒の割合(全児童生徒に対する出現率)	小	16人0.3%	15人0.29%	13人0.30%	12人0.25%	5人0.1%未満
	中	52人1.76%	57人1.95%	90人3.12%	77人2.77%	40人1.3%未満
平成29年度 主な事業の概要及び実施状況						
○教育相談充実事業【予算現額9,927千円・支出済額9,197千円】						
・教育相談室での来室・電話相談の実施(平成29年度219件(新規73件)平成28年度288件(新規76件))不登校児童生徒の保護者研修会を3回実施した。						
・教育相談研修講座を3回実施、各校教育相談担当者の資質向上のための研修を4回実施した。						
・適応指導教室では、不登校児童生徒の集団適応能力を育成し学校への復帰を目指すような支援を行い、中学3年生4名は全員高校受験し進学した。(小学生1名、中学生10名通級)						
○スクールカウンセラー等活用事業【予算現額9,958千円・支出済額9,448千円】						
・県の事業と合わせながら、スクールカウンセラー(SC)8名と教育相談員7名を各中学校に配置するとともに、3名の家庭訪問相談員を要請に応じて派遣した。						
平成29年度における改善点・新たな取り組み						
○教育相談研修講座では、先生方のニーズに対応した内容に合わせ、人気のある講師を中央からお呼びし、継続指導を依頼した。						
○スーパーバイザー研修会では、講義型の研修ではなく、ワークショップ型の研修を行い、より実践的な研修とした。						
事業の効果・課題						
○本市の教育相談の課題に対応した各種研修会を実施することで、教員の日々の指導に生かすことができた。						
○適応指導教室(ふれあい教室)での日常活動や体験活動を通じ、他の通級生や相談専門員・講師と安心して関わるができるようになり、自信を取り戻せた児童生徒が多かった。さらに適応指導教室で学習する雰囲気芽生え、毎日意欲的に学習する姿が多く見られた。これが高校進学率100%という成果となって表れた。						
○不登校数の増加に歯止めがかかり、小学校・中学校ともに不登校人数も出現率も減少した。						
○毎月の長期欠席調査から、事態が重くなってからの教育相談ではなく、早期対応を心掛けていく。その際には、スクールカウンセラー等の専門的な力を借りていく必要がある。						
点検結果・自己評価(今後の方向性)						
29年度評価	B	○不登校児童生徒数は小学校・中学校ともに減少している。各学校の教育相談の組織を活かして相談活動を行い、スクールカウンセラーや相談員等との連携や研修が進んでいる一方、思春期特有の心情から複雑な要因が絡み合い学校に足が向かない生徒が増えていることも事実である。				
【参考】28年度評価	B	○迅速な対応ができるよう教職員の力量を高めていくと共に、スクールカウンセラー等の活用も図りながら未然防止にも全力をあげていく。 ○各相談機関と学校との連携がスムーズにいくようにコーディネートするとともに、スクールソーシャルワーク・コーディネーターの活用についても検討していく。				

基本的方向	I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ																																																							
基本施策	3 豊かな心と健やかな体の育成																																																							
施策	(7) 基礎的運動能力の向上																																																							
担当部署	学校教育課	平成29年度 担当部署	学校教育課																																																					
施策の目的及び目標																																																								
<p>○目的</p> <ul style="list-style-type: none"> 基礎的運動能力向上のための指導内容の充実を図り、児童生徒が、運動の楽しさや喜びを体感しながら、体力・運動能力を高めることができるようにする。 <p>○目標</p> <ul style="list-style-type: none"> 小学校中学年の「走・跳・投の運動」を中心とした指導内容の充実を図り、基礎体力向上に向けた取組みを支援する。 <table border="1" data-bbox="268 571 1321 824"> <thead> <tr> <th colspan="2">算出方法</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H31</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">小学校3年生の50m走の平均</td> <td>男子</td> <td>10.66秒</td> <td>10.13秒</td> <td>10.20秒</td> <td>10.46秒</td> <td>10.39秒</td> <td>10.11秒</td> </tr> <tr> <td>女子</td> <td>10.49秒</td> <td>10.39秒</td> <td>10.45秒</td> <td>10.54秒</td> <td>10.51秒</td> <td>10.45秒</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">小学校5年生の50m走の平均</td> <td>男子</td> <td>9.63秒</td> <td>9.44秒</td> <td>9.45秒</td> <td>9.54秒</td> <td>9.64秒</td> <td>9.26秒</td> </tr> <tr> <td>女子</td> <td>9.94秒</td> <td>9.70秒</td> <td>9.54秒</td> <td>9.63秒</td> <td>9.83秒</td> <td>9.55秒</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">中学校2年生の50m走の平均</td> <td>男子</td> <td>7.96秒</td> <td>8.14秒</td> <td>8.07秒</td> <td>8.07秒</td> <td>8.05秒</td> <td>7.85秒</td> </tr> <tr> <td>女子</td> <td>8.94秒</td> <td>9.11秒</td> <td>8.88秒</td> <td>8.78秒</td> <td>8.89秒</td> <td>8.75秒</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> 希望する中学校（中学1、2年生対象）に、柔道の授業を専門的な立場から支援する指導協力を派遣し、授業の支援または教員の研修を行い、安全で充実したものにす。 				算出方法		H25	H26	H27	H28	H29	H31	小学校3年生の50m走の平均	男子	10.66秒	10.13秒	10.20秒	10.46秒	10.39秒	10.11秒	女子	10.49秒	10.39秒	10.45秒	10.54秒	10.51秒	10.45秒	小学校5年生の50m走の平均	男子	9.63秒	9.44秒	9.45秒	9.54秒	9.64秒	9.26秒	女子	9.94秒	9.70秒	9.54秒	9.63秒	9.83秒	9.55秒	中学校2年生の50m走の平均	男子	7.96秒	8.14秒	8.07秒	8.07秒	8.05秒	7.85秒	女子	8.94秒	9.11秒	8.88秒	8.78秒	8.89秒	8.75秒
算出方法		H25	H26	H27	H28	H29	H31																																																	
小学校3年生の50m走の平均	男子	10.66秒	10.13秒	10.20秒	10.46秒	10.39秒	10.11秒																																																	
	女子	10.49秒	10.39秒	10.45秒	10.54秒	10.51秒	10.45秒																																																	
小学校5年生の50m走の平均	男子	9.63秒	9.44秒	9.45秒	9.54秒	9.64秒	9.26秒																																																	
	女子	9.94秒	9.70秒	9.54秒	9.63秒	9.83秒	9.55秒																																																	
中学校2年生の50m走の平均	男子	7.96秒	8.14秒	8.07秒	8.07秒	8.05秒	7.85秒																																																	
	女子	8.94秒	9.11秒	8.88秒	8.78秒	8.89秒	8.75秒																																																	
平成29年度 主な事業の概要及び実施状況																																																								
<p>○小中学校スポーツ振興事業【予算現額798千円・支出済額783千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> 市内全小学校の参加による陸上競技記録会及び水泳競技記録会開催を支援した。（参加者：陸上競技記録会 488名、水泳競技記録会 364名） 陸上指導サポーター派遣 希望のあった小学校14校に講師を派遣し、3、4年の児童を対象に、年間2回「走ること」に関連する運動を実際に行うとともに、教員に指導内容を周知し指導に生かす。 中学校武道指導協力者派遣 希望のあった中学校に指導協力を派遣し、専門的な立場から支援することができた。（派遣校数 2校、指導時数 22時間、派遣人数 1名） 																																																								
平成29年度における改善点・新たな取り組み																																																								
○実際に指導を受けた教員だけでなく、指導後に校内研修会を実施して、他の学年の教員の指導力向上に向けて取り組んだ学校もあった。																																																								
事業の効果・課題																																																								
<p>○陸上指導サポーター派遣事業を通して、中学年担当教員に、3、4年生で経験させたい「走・跳・投に関連する運動例」について、児童への指導も踏まえ周知を進め指導に生かすことができた。</p> <p>○陸上競技記録会や水泳競技記録会への参加を通して、記録への挑戦やチャレンジする意欲を高めるとともに、自己記録を目指し大会に向けて努力する気持ちを育成することができた。</p> <p>○柔道の指導協力を派遣したことにより、安全に配慮しながら授業を進めることができた。示範していただくことで、技をかける際のポイントや指導する際の具体的な練習方法を研修することができた。</p>																																																								
点検結果・自己評価（今後の方向性）																																																								
29年度評価	B	○陸上指導サポーター、中学校武道指導者の派遣は、小・中学校の希望に応じて派遣を行っている。専門的な指導が児童生徒の体力向上につながっている。また教員の指導力向上にも生かされている。																																																						
【参考】28年度評価	B	○運動能力テストの結果、小学校3年生男子・女子、中学校2年生男子に伸びは見られた。他学年、50m走以外の種目でも体力向上が図られるよう、派遣による指導が全学年に周知されるよう働きかけていきたい。																																																						

基本的方向	I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ		
基本施策	3 豊かな心と健やかな体の育成		
施策	(8) 健康教育の推進（その1）		
担当部署	学校教育課	平成29年度 担当部署	学校教育課

施策の目的及び目標

- 目的
 - ・健やかでたくましい体を育む指導を通して、健康的な生活行動が実践できる態度や能力を身につけるための教育活動を推進する。
- 目標
 - ・自己の健康課題をとらえ、日常生活での具体的実践に結びつく保健学習の充実を図る。
 - ・自校の健康課題を家庭、地域の関係機関と共有し、解決のための取り組みを推進する。

算出方法	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	31年度
	実績	実績	実績	実績	実績	目標
全国学力・学習状況調査「朝食を毎日食べていますか」の回答による	小6 89.3%	小6 91.1%	小6 90.5%	小6 86.9%	小6 89.0%	小6 95%以上
	中3 86.7%	中3 84.8%	中3 85.5%	中3 84.4%	中3 83.9%	中3 95%以上

参考：肥満傾向の割合（定期健康診断で学校医より「要注意」と判定されたもの）

	27年度		28年度		29年度	
	山形県	酒田市	山形県	酒田市	山形県	酒田市
小学校男子	3.40	2.17	2.80	2.61	3.10	2.47
小学校女子	2.30	1.16	1.70	1.28	1.80	1.32
中学校男子	1.90	0.21	2.00	0.14	2.00	0.64
中学校女子	1.40	0.21	1.50	0.28	1.20	0.30

（単位：％）

出典：「酒田飽海地区小・中・高等学校 身体状況並びに学校保健活動状況一覧」
酒田飽海学校保健会作成

平成29年度 主な事業の概要及び実施状況

- 小学校保健管理事業【予算現額46,799千円・支出済額39,863千円】
- 中学校保健管理事業【予算現額20,271千円・支出済額18,262千円】
- 年間指導計画に基づいた保健学習の充実
 - ・心身の健康の保持増進を目指す実践力の育成のため、年間計画に基づいた保健学習を適切に行うよう指導した。
- 学校保健委員会の推進
 - ・学校保健委員会等を中心に、児童生徒の健康に関する生活習慣の実態調査等を行い、問題点の洗い出しや改善方策について検討するように指導した。
- 酒田飽海児童生徒保健研究発表会の実施
 - ・児童や生徒主体の取り組みを発表し、お互いに見合うことで、健康に対する意識を高めたり自校の取組みを振り返らせたりすることができた。
 - ・発表内容をDVDにまとめて各小中学校に送付した。他校の取り組みを知らせることで、自校の取組みに生かせるようにした。
 - ・平成29年度発表校
 - 小学校 吹浦小、琢成小、亀ヶ崎小、若浜小
 - 中学校 第二中、第四中、第六中、鳥海八幡中
- 学校医等による専門的な指導・助言のもと疾病の予防や健康相談を通して児童生徒の健康管理を行った。

基本的方向	I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ		
基本施策	3 豊かな心と健やかな体の育成		
施策	(8) 健康教育の推進（その2）		
担当部署	学校教育課	平成29年度 担当部署	学校教育課
平成29年度における改善点・新たな取り組み			
<p>○色覚検査の周知について国の指導に沿った方向性を示すと共に、色覚検査の実施及び周知に関するマニュアルを作成した。</p>			
事業の効果・課題			
<p>○自校の健康課題についての取組みを児童生徒が主体的にまとめて発表する活動を通して、心身の健康の保持増進を目指す実践力を育てることにつながっている。 （メディアコントロール、食育、虫歯・風邪予防、生活リズム）</p> <p>○学校保健委員会やPTAの活動として、「早寝早起き朝ごはん」等の生活リズムを目的にした取組みやアウトメディアなどが多くの学校で行われるようになった。</p> <p>○校医とも連携し、うがい、手洗いの励行など、感染症予防の取組みやアレルギー対策の取組みが、多くの学校で行われた。</p> <p>○保健学習などにおいても、ゲストティーチャーを招聘して、より専門的な学習に取り組む学校もあった。計画的な保健学習を行うことで、生涯にわたる健康の保持を意識することができた。</p>			
点検結果・自己評価（今後の方向性）			
29年度評価	B	<p>○学校教育指導（経営訪問、計画訪問）を通して継続的に健康教育の推進を図っている。また、児童生徒保健研究発表会での発表内容や日頃の児童生徒の保健活動の様子を各学校へ広める活動を行っている。</p> <p>○がん、ドラッグ、アレルギー、感染症、生活リズム、睡眠など疾病や健康に関する今日的な課題に丁寧に指導し対応していく必要がある。</p>	
【参考】28年度評価	B		

基本的方向	I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ																									
基本施策	3 豊かな心と健やかな体の育成																									
施策	(9) 食育の推進																									
担当部署	企画管理課	平成29年度 担当部署		企画管理課																						
施策の目的及び目標																										
<p>○目的</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒に食に関する正しい知識や望ましい食習慣を身につけさせるとともに、自然の恵みや生産者への感謝の心をはぐくむ。 <p>○目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地元産食材を積極的に学校給食に取り入れるために、学校給食での地元産食材の利用率の目標を、小学校75%以上、中学校72%以上とする。 																										
平成29年度 主な事業の概要及び実施状況																										
<p>○小学校児童に対して、栄養教諭等が栄養巡回指導を実施した。(指導回数75回)</p> <p>○保護者に対して、栄養教諭等が食に関する講話を実施した。(実施校 十坂小学校・広野小学校・浜中小学校)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講話内容(食品の働き、野菜のひみつ、好き嫌いについて) <p>○「食育だより」を年10回、平成28年度から発行した「ジオ給食通信」を年10回発行した。</p> <p>○毎月「給食だより」を発行し、食に関する情報提供を行った。</p> <p>○バレーボールチーム「アランマーレ」による食育活動を、小学校2校で実施した。</p> <p>○酒田の郷土料理や旬の食材を伝えるため、「食育の日献立」を実施した。(毎月19日)</p> <p>○庄内産100%の米を利用した米飯学校給食のうち、「つや姫給食」を年2回、「雪若丸給食」を年1回実施した。</p> <p>○酒田産米を100%使用した「米粉パン」給食を年2回、酒田産乳使用の「県産ヨーグルト」給食を1月に1回、全小中学校で実施した。</p> <p>○庄内メロンを7月19日に、刈屋なしを9月19日に全小中学校の給食で提供した。</p> <p>○地元産食材の利用率</p> <table border="1" data-bbox="502 1102 1436 1211"> <thead> <tr> <th></th> <th>H26(実績)</th> <th>H27(実績)</th> <th>H28(実績)</th> <th>H29(実績)</th> <th>H31(目標)</th> <th>算出方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>小学校</td> <td>73.1%</td> <td>77.7%</td> <td>75.0%</td> <td>74.7%</td> <td>75%以上</td> <td>重量ベースによる庄内産食材の利用率</td> </tr> <tr> <td>中学校</td> <td>71.5%</td> <td>71.6%</td> <td>66.7%</td> <td>69.6%</td> <td>72%以上</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>							H26(実績)	H27(実績)	H28(実績)	H29(実績)	H31(目標)	算出方法	小学校	73.1%	77.7%	75.0%	74.7%	75%以上	重量ベースによる庄内産食材の利用率	中学校	71.5%	71.6%	66.7%	69.6%	72%以上	
	H26(実績)	H27(実績)	H28(実績)	H29(実績)	H31(目標)	算出方法																				
小学校	73.1%	77.7%	75.0%	74.7%	75%以上	重量ベースによる庄内産食材の利用率																				
中学校	71.5%	71.6%	66.7%	69.6%	72%以上																					
平成29年度における改善点・新たな取り組み																										
<p>○「つや姫給食」に加え、「雪若丸給食」を年1回実施した。</p> <p>○平成29年12月に発生した学校給食への異物混入事案を受けて、異物混入防止の徹底を図るため「学校給食における異物混入対応マニュアル」を策定した。(実施は平成30年度より)</p>																										
事業の効果・課題																										
<p>○栄養教諭等が食と健康についての栄養巡回指導を行い、児童生徒の食に対する興味、理解を深めることができた。</p> <p>○講話や「食育だより」等の発行により、家庭に対して食の大切さを伝えることができた。</p> <p>○米飯給食、食育の日献立等の実施を通して、酒田らしい給食を提供することができた。</p> <p>○安全安心な給食の提供を最優先として、食材の安全性を確認するとともに衛生管理の徹底を図っていく。</p> <p>○野菜類については気候の影響を受けやすく、地元産利用率の大きな変動要因となっている。</p>																										
点検結果・自己評価(今後の方向性)																										
29年度評価	B	<p>○将来、自立した健康管理、食事管理する力を身につけるために、継続して食育に取り組む。</p> <p>○学校給食の食材のうち、じゃが芋やにんじんなど日常的に使用する野菜類や魚類は、地元から安定して入手しにくいことが地元産食材利用率の上昇しない原因と考えられる。「米粉パン給食」「県産ヨーグルト給食」など野菜以外の地元産食材を利用した農産加工品等も含めた利用拡大を図りつつ、幅広く地元産食材の利用拡大を進めていく。</p>																								
【参考】28年度評価	B																									

基本的方向	I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ		
基本施策	4 家庭・学校・地域との連携		
施策	(1) 青少年の健全育成		
担当部署	社会教育文化課	平成29年度 担当部署	社会教育文化課
施策の目的及び目標			
<p>○目的</p> <ul style="list-style-type: none"> ・青少年の健全育成のため、学校、PTA、地域が協同した、青少年の健全育成のための場とライフステージに応じた学習機会の提供に支援するとともに、リーダーや指導者を育成する研修会の実施、中高生ボランティアの自主活動の支援を実施する。また、成人となったことの自覚を促す成人式を開催する。 <p>○目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校、PTA、地域が協同して行う学習機会の充実を図る。また、青少年のボランティア活動を推進し、中高生の地域活動への促進を図るとともに地域のリーダー育成につなげる。 			
平成29年度 主な事業の概要及び実施状況			
<p>○少年団体リーダー研修会 参加者数81名</p> <p>○高校生ボランティア（かざみどり）が巨大迷路の運営プランに参画し、市内の高校生や中学生と協力しながら当日までの準備と運営を行った。（入場者4,469人）</p> <p>○成人式は、企業及び地域からの推薦メンバーで実行委員会を組織し（実行委員14人）、式の企画運営を行った。（式出席者883人）</p> <p>関連事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ○地域人材交流講座 ○地域の教育力向上事業 			
平成29年度における改善点・新たな取り組み			
<p>○酒田市子ども会育成連合会の呼びかけにより、東北地区ジュニアリーダー大会へ「かざみどり」会員が参加し、東北地区の中高生と交流・宿泊を行った。</p> <p>○成人式実行委員は自分たちで企画をして、動画に恩師から出演いただいたり、式典で市マスコットキャラクター「あののん」と共演したりして、自分たちの企画を実現させる経験ができた。</p>			
事業の効果・課題			
<p>○中高生ボランティアが中央公民館主催事業「冬遊びお泊り会」に参加し、社会参画できたとともに、参加した小学生とのかかわりを通じ、異年齢間の交流が図られた。また、巨大迷路の運営を行ったことで、イベント企画に必要なことを学び、一緒に活動した仲間との交流も図られるなど青少年の人材育成につながった。</p> <p>○成人式は、実行委員となった新成人が協力して動画を作り交流を深めることができた。しかし、実行委員の人数が少なくなり実行委員一人一人の負担が増えている。</p>			
点検結果・自己評価（今後の方向性）			
29年度評価	B	<p>○前年に比べ、かざみどりの会員数が少なくなった。このため、各支所地域の中高生ボランティアとかざみどりが一体となって活動する機会が増え交流を図ることができた面もあるが、今後はかざみどりの会員募集に努め、かざみどりとしての活動の充実を図りたい。</p> <p>○成人式の式典と実行委員企画の間に、全国で公演を行っている太鼓道場「風の会」より出演いただいた。お祝いとしてふさわしい演奏をしていただき、また、酒田を拠点に活躍する団体を周知することができた。</p>	
【参考】28年度評価	B		

基本的方向	I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ		
基本施策	4 家庭・学校・地域との連携		
施策	(2) 家庭教育の支援 (その1)		
担当部署	社会教育文化課	平成29年度 担当部署	社会教育文化課
施策の目的及び目標			
<p>○目的</p> <ul style="list-style-type: none"> 保護者の学びを支援するため、子どもの成長に応じた課題を設定しながら、読み聞かせや親子のふれあいの大切さなどに関する各種家庭教育講座や出前講座、全市的な家庭教育講演会等を実施する。 <p>○目標</p> <ul style="list-style-type: none"> 切れ目のない家庭教育支援の充実のため、庁内各課との事業連携・調整を図りながら学習機会の充実を図る。 子どもは、「社会の宝」として親と子の学校・地域のつながりを作る取り組みを推進するとともに、子どもの成長段階に応じた学習と親の学びを支援する学習の機会を提供し、切れ目のない家庭教育に関する学習機会を充実させることで、家庭の教育力向上を図る。 			

平成29年度 主な事業の概要及び実施状況

事業名	講座内容及び実施状況	実施回数	人数
親子ですくすく出前講座 (保育園・幼稚園児と保護者)	親子体験・幼児体験を通して親子でのふれあい、遊びを通じた人間形成の基礎を培った(ネイチャー、リトミック、陶芸、ダンス、ボール遊び)。また、保護者向けに子育て講話を通して家庭教育の支援を行った。	19回	916
地域家庭教育講座 (小中学校児童と保護者)	学校と連携し、家庭教育に係る講演会等(生活習慣・親の心構えと関わり方、親子レク等)実施した。	19回	1,512
家庭教育講演会	パソコンやスマートフォンで思わぬトラブルや犯罪にまきこまれないために、酒田飽海地区PTA連合会研修大会で「これだけは知っておきたい! インターネット安全教室」を開催	1回	215
ステキな子育て応援団☆ イマドキの孫育て講座	昔と今の子育ての違いなど、グループワーク形式による講義と手づくりおもちゃ、読み聞かせ、お菓子づくりなどの実践を取り入れた。参加者同士の交流の場を提供することができた。	3回	11

関連事業

○赤ちゃん登校日

基本的方向	I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ		
基本施策	4 家庭・学校・地域との連携		
施策	(2) 家庭教育の支援 (その2)		
担当部署	社会教育文化課	平成29年度 担当部署	社会教育文化課
平成29年度における改善点・新たな取り組み			
<p>○家庭教育講演会では、スマートフォンやインターネットに関する知識を広く保護者に知ってもらうため、酒田飽海地区PTA連合会研修大会でインターネット安全教室を開催した。</p> <p>○地域家庭教育講座では、各小中学校で講師を選定し、家庭教育アドバイザーや東北公益文科大学の先生に講師を依頼し、家庭教育に関する講話を聞いた。</p> <p>○親子ですくすく出前講座では、体験型の親子での活動が各園で実施された。</p>			
事業の効果・課題			
<p>○地域家庭教育講座では、各小中学校で講師を選定し、家庭教育アドバイザーや東北公益文科大学に講師を依頼し、家庭教育に関する講話を聞いた。</p> <p>○親子ですくすく出前講座では、体験型の親子での活動が各園で実施された。</p> <p>○保育園・幼稚園・学校での実施は、保護者がより参加しやすいため効果的である。今後も各部署との連携を図りながら実施する。</p>			
点検結果・自己評価 (今後の方向性)			
29年度 評価	B	○多くの保護者に家庭教育の支援ができるよう、今後もPTA連合会等と連携しながら学習の機会を提供していく。	
【参考】 28年度 評価	B		

基本的方向	I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ		
基本施策	4 家庭・学校・地域との連携		
施策	(3) 地域教育力の向上		
担当部署	社会教育文化課	平成29年度 担当部署	社会教育文化課
施策の目的及び目標			
<p>○目的</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域全体で「地域の子」「社会の子」として、子どもと地域の人々との交流する機会を設け地域の教育力向上に取り組む。 <p>○目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の特色を生かして行う青少年の体験活動や健全育成に関わる事業を通して、地域全体で取り組む体制づくりと地域の人材育成を推進し、地域教育力の向上を図る。 			
平成29年度 主な事業の概要及び実施状況			
<p>○地域の教育力向上事業【予算はひとづくり・まちづくり総合交付金へ統合】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・親子での共同作業や三世代交流事業、地域文化の学習と伝承、地域の自然理解などの事業を通し、地域全体で「地域の子」「社会の子」として子どもたちの健全な育成を図った。 (実施団体：25団体、延べ事業数：266事業、延べ参加人数：11,180人) <p>○地域人材交流講座</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総合の授業や、道徳、読み聞かせなどで地域住民が先生として指導を行い、身近な地域住民と生徒の交流が図られた。(実施日数329日、延べ参加者数5,700人) <p>○学校・家庭・地域の連携協働推進事業(放課後子ども教室)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・宮野浦コミュニティ防災センターにおいて、子どもの居場所づくりとして自習室を開放。また、週1回の特別プログラムで英会話やパソコン、将棋等さまざまな体験活動を行った。 (特別プログラム：41回参加者子ども延べ477名、大人延べ177名)(自習室：延べ2,240名) 			
平成29年度における改善点・新たな取り組み			
<p>○宮野浦学区にみやのうらっこ放課後子ども教室実行委員会が立ち上がり、宮野浦小学校、学童保育所等と連携して放課後子ども教室を実施している。</p>			
事業の効果・課題			
<p>○地域人材交流講座では、各校で「地域の先生」と連携をしながら、全市的に事業を展開できている。総合の授業などに活用してもらい地域の学校支援に役立っている。</p> <p>○地域の教育力向上事業は交付金の加算として含まれ、コミュニティ振興会でも予算の使い方の幅が広がり新しい事業なども検討し始めている。より効果的な事業展開ができるよう、社会教育指導員も企画に関わっていけるような関係の構築が課題。</p>			
点検結果・自己評価(今後の方向性)			
29年度評価	A	○自発的、積極的に地域の特色をだしながら教育力向上につながる事業を各コミ振で実施しており、企画運営のスキルアップがみられる。	
【参考】28年度評価	A		

基本的方向	I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ		
基本施策	4 家庭・学校・地域との連携		
施策	(4) 地域産業界、高等教育機関との連携（その1）		
担当部署	学校教育課、企画管理課	平成29年度 担当部署	学校教育課、企画管理課

施策の目的及び目標

○目的

- ・児童生徒の職業観の涵養や地域の理解、専門的な分野の体験のため地域の産業界や高等教育機関との連携を推進する。
- ・東北公益文科大学の持つ知的資源を活用し、教育委員会・小中学校と連携した事業をとおして、協力関係を築く。

○目標

- ・中学校の職場体験学習（インターンシップ）の充実を図り、キャリア教育を推進する。
- ・中村ものづくり事業の活動を通して、地域の高等教育機関、産業界との連携を推進する。
- ・東北公益文科大学連携推進事業では、参加者の事業に対する満足度を85%以上とする。

平成29年度 主な事業の概要及び実施状況

○中学生職場体験学習推進事業【予算現額900千円・支出済額897千円】

- ・職場体験は該当学年のいる8中学校において、2日間実施が4校、3日間実施が4校、延べ34業種であった。
- ・体験先として飲食店・菓子店や病院、幼稚園・保育園等で体験学習をする生徒が多い。
- ・昨年度より、小学校で職場体験する生徒が増え、受け入れ先の学校が5校であった

○中村ものづくり事業における連携

- ・講師として、産業技術短期大学庄内校、鶴岡工業高等専門学校、酒田光陵高等学校の教授、准教授、教諭及び産業技術大学や酒田光陵高等学校の学生ボランティアの協力を得て事業を実施した。
- ・地元の企業への職場訪問を通して、専門的なものづくりの現場を体験した。

○東北公益文科大学連携推進事業【予算現額497千円・支出済額425千円】

【放課後学習支援】中学校の放課後を利用し、公益大生17名が生徒の学習支援を行った。

実施状況

学校名	参加生徒	9月	10月	11月	12月	1月	2月	合計
第一中	21人	3	2	1	2	2	2	6回
第四中	28人	1	1	2	1	3	3	11回
第六中	19人	2	2	1	2	2	2	7回
東部中	24人	2	1	1	2	2	2	8回
合計	92人	8	4	6	6	5	3	32回

【英語の学びかた教えます】

大学教員を講師とした中学生向けの英語講座を公益研修センターで、8/1～8/2の2日間行った。
定員30名に対し、受講者55名。

【夏休み宿題お手伝い教室】（社会教育文化課主管事業）退職公務員連盟酒田飽海支部会員を講師とし、近隣市町の小学3年生～6年生を対象に夏休みの宿題を個別にアドバイス。7/31、8/1、8/3、8/4の4日間。定員40名に対し、参加者34名。8/4に公益大生3名がサポートに参加した。

平成29年度における改善点・新たな取り組み

○中村ものづくり事業における連携

- ・「サイエンス発明教室」で、従来のコース内容に見直しを加えて更新し、5コースを設定した酒田光陵高校の先生方7名が講師となり、酒田光陵高校のボランティア生徒11名の協力を得て実施したが、どのコースも講師の先生方の工夫や新しい試みにより、子ども達が主体的にものづくりに取り組むことができた。

○東北公益文科大学連携推進事業

- ・大学連携推進事業は、平成29年度より教育委員会・大学・中学校の三者で協力して活動を展開することになった。
- ・放課後学習支援は、各校の年間スケジュールを作成し、大学生が参加しやすい環境づくりに努めた。
- ・放課後学習支援を希望した中学校全校を対象とした。

基本的方向	I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ		
基本施策	4 家庭・学校・地域との連携		
施策	(4) 地域産業界、高等教育機関との連携（その2）		
担当部署	学校教育課、企画管理課	平成29年度 担当部署	学校教育課、企画管理課
事業の効果・課題	<p>【中学生職場体験学習推進事業】</p> <p>○市内中学校で2日間以上の職場体験学習を実施した。生徒にとって、働く意味を理解し、将来の自立像を自分なりに思い描く機会をなつた。また、地域産業の理解とともに学校と地域のつながりを深めることができた。子どもたちのために地元の各事業所の協力を得ながら実施し、職場の方々と交流することができた。</p> <p>【中村ものづくり事業における連携】</p> <p>○年間5回の「ものづくり塾」の他、「サイエンス発明教室」の中で酒田光陵高等学校の生徒からもボランティアスタッフとして参加してもらい、参加児童生徒にとっても、キャリア教育の良い機会となっている。</p> <p>【放課後学習支援】</p> <p>○公益大生の活動が週1回に限られているため、各中学校への実施回数が限られた。</p> <p>○中学生へのアンケート結果は、「有意義であった」と回答した割合が85%であった。</p> <p>○学習支援に使用する教材作成など、学生自身の学びの機会にもなっており、参加した大学生全員が「やりがいを感じた」と回答している。</p> <p>○遠方の中学校への支援では、中学校までの公益大生の足の確保が困難だった。支援校の拡大・継続には公益大生の交通手段の確保が課題である。</p> <p>【英語の学びかた教えます】</p> <p>○定員を大きく上回る参加者があつた。大学教員による大学構内での講座に対し好意的な意見が寄せられた。全体評価でも、参加中学生の87%が有意義であったと回答した。</p> <p>【夏休み宿題お手伝い教室】</p> <p>○定期試験と重なり、参加できる学生が少なかったが、退職教員の指導方法に触れたり、子どもと交流を行うことで、学生にとって、充実した活動の場となっている。</p>		
点検結果・自己評価（今後の方向性）			
29年度評価	A	<p>○中学生職場体験学習推進事業と中村ものづくり事業は、自らの適性や生き方を学ぶ大切な機会であり、精神的な成長にもつながっている。</p> <p>○職業人を招いた講話や職場体験など、今後も働くことの意義を考える場や仕事に触れる学習に継続して取り組んでいく必要がある。また、将来の夢や目標に向かって主体的に努力する人材の育成のために、今後も地域と連携しながら事業を充実させていきたいと考える。平成30年度新規事業「キャリア教育推進事業」及び「小中高連携ものづくり教室事業」の実施と合わせ、キャリア教育のより一層の充実を図っていく。</p> <p>○中学生にとっては大学や大学生を身近に感じる機会となり、大学への憧れや自分の将来を考えるきっかけとなっている。また、学生にとっては授業実践等を行うことで、自己研鑽の場になっている。</p> <p>○学生の交通手段の確保のため、必要な費用の確保に努める。</p> <p>○子どもたちが大学を身近に感じることで、東北公益文科大学に対する理解が深まると考えられるため、大学内での講座実施を含め、今後も事業を継続して取り組んでいく。</p>	
【参考】28年度評価	B		

基本的方向	I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ		
基本施策	4 家庭・学校・地域との連携		
施策	(5) 青少年指導活動の推進		
担当部署	学校教育課	平成29年度 担当部署	学校教育課
施策の目的及び目標			
<p>○目的</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次代を担う青少年が地域や社会の一員として主体的に未来を切り拓いていく資質を身につけ、その能力を発揮できるよう、青少年指導センターが中心となり青少年の健全育成を図る。 <p>○目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・心豊かでたくましい青少年の育成と非行及びいじめの未然防止に努める。 ・小中学校、高等学校の生活指導・生徒指導担当者、警察等関係機関と連携を図りながら、幅広い活動を展開する。 			
平成29年度 主な事業の概要及び実施状況			
<p>○街頭巡回指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昼間街頭指導、夜間街頭指導、特別街頭指導、広域列車乗車指導等を指導委員の延べ541名が行った。 <p>○相談業務</p> <ul style="list-style-type: none"> ・非行と問題行動の未然防止、並びにいじめ被害への対応等、電話及び直接相談を行った。 <p>○環境浄化・広報活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもを取り巻く有害な環境を排除していくための活動を行った。 ・ネット巡視活動及びネットトラブル防止に向けた注意喚起を行った。 <p>○子どもの健全育成活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子育て支援課主催の「酒田市子ども祭り」実施に協力した。 			
平成29年度における改善点・新たな取り組み			
<p>○ネットトラブル防止啓発用のリーフレットを配付・作成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ネットに触れる時期の低年齢化に対応するため、小学生全世帯に配付し注意喚起を行った。親子で読み合うことを意図し、保護者に向けて家庭のルールづくりを呼びかける等、トラブルの未然防止につながる具体的な情報を掲載している。 ・30年度の配付に向け、中学生向けのリーフレットを作成した。被害への注意に加え、加害についても法的な見地から情報を掲載し、便利さの裏側にある怖さが伝わるよう工夫した。 			
事業の効果・課題			
<p>○民生委員・児童委員協議会連合会、保護司会、更生保護女性会、警友会、少年補導員連絡会、青少年育成推進員連絡協議会、各小学校・中学校・高等学校より推薦いただいた指導委員211名の方々から協力をいただき、酒田市全域を通年にわたり、児童生徒への声かけを含む総合的な街頭指導を実施することができた。注意・指導を要する児童生徒の数は年々減少している。（注意・指導した少年の延べ人数 H29年度：133名、H28年度：245名、H27年度：260名）</p> <p>○青少年育成推進員の方々が、地域の見守り隊と一緒に児童生徒の見守り活動を行った。</p> <p>○相談の内容は問題行動に関するものが減り、いじめに関わるもの、引きこもりや家庭内の問題など、対人関係と自立に関わる問題が増えている。（相談延べ H29年度24件、H28年度21件）</p> <p>○ネット上のトラブルやいじめは、ますます複雑化している。個人が特定される可能性のある情報の発信や誹謗中傷などが行われないよう、また、その被害に遭うことのないよう、「ネットトラブルの未然防止」と「ネット巡視活動」の両面から対応していく必要がある。</p>			
点検結果・自己評価（今後の方向性）			
29年度評価	B	<p>○不良行為や非行の件数は年々減少している。街頭指導におけるベストの着用、青色回転灯装備車両による巡回など、「見える指導、見せる指導」が抑止力につながっているものと思われる。</p> <p>○粗暴な非行が減っている中で小・中学生による万引きが報告されている。また、声かけや付きまとといった不審者事案は変わらず発生しており、追いかかれた・身体を触られた等の実害も出ている。今後も、警察署や関係機関、地域健全育成組織と連携し、街頭指導活動を充実させていく。</p> <p>○ネット巡視活動（サイトや掲示板の定期的チェック）については、頻度を増やす・範囲を広げるなどして、被害の未然防止や早期対応に努める。</p>	
【参考】28年度評価	B		

基本的方向	I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ				
基本施策	5 教育環境の整備				
施策	(1) 学校施設の整備 (その1)				
担当部署	企画管理課	平成29年度 担当部署	企画管理課		
施策の目的及び目標					
○目的					
<ul style="list-style-type: none"> 学校施設は子どもたちの学びの場、地域住民の生涯学習、生涯スポーツの場であるとともに、災害時の身近な避難所であり、引き続き耐震化を進める。 老朽化した施設・設備の改修や更新を進めるほか、和式から洋式へのトイレ改修に取り組み、児童・生徒の良好な教育環境の整備を図る。 					
○目標					
<ul style="list-style-type: none"> 酒田市の耐震化計画に基づき、平成31年度を目標に耐震化を図り、学校の安全な教育環境の整備を目指す。 					
【学校施設の耐震化の割合】					
	算出方法	項目	28年度 (実績)	29年度 (実績)	31年度 (目標)
耐震化済みの学校施設割合(校舎、体育館)		小学校	95.5%	99.1%	100.0%
		中学校	100.0%	100.0%	100.0%
平成29年度 主な事業の概要及び実施状況					
〔耐震関係事業〕					
○(繰越明許費) 田沢小学校改修事業【予算現額78,210千円・支出済額78,007千円】					
<ul style="list-style-type: none"> 国の補正予算により繰越した田沢小学校の屋内運動場の耐震改修工事を実施した。 					
○田沢小学校改修事業【予算現額18,143千円・支出済額17,445千円】					
<ul style="list-style-type: none"> 屋内運動場と校舎を結ぶ渡り廊下の設計と工事を実施した。 					
○(継続費) 松山小学校改修事業					
【予算現額201,950千円・支出済額185,049千円・翌年度繰越額16,901千円】					
<ul style="list-style-type: none"> 繰越した松山小学校の改修事業にかかる改修工事を、平成29年度から平成30年度に継続して実施している。 					
○松山小学校改修事業【予算現額705,902千円・支出済額400,117千円・翌年度繰越額305,729千円】					
<ul style="list-style-type: none"> 校舎、屋内運動場、プール解体工事を実施し、校舎、屋内運動場、給食室改築にかかる工事に着手し、平成29年度国の補正予算を受けて、平成30年度に繰越をした。 					
〔その他の改修事業〕					
○(繰越明許費) 学校グラウンド改修事業(小学校)					
【予算現額120,626千円・支出済額114,349千円】					
<ul style="list-style-type: none"> 繰越したグラウンド改修事業にかかる改修工事を、富士見小学校と一條小学校で実施した。 					
○(繰越明許費) 学校トイレ改修事業(小学校)【予算現額25,970千円・支出済額24,854千円】					
<ul style="list-style-type: none"> 繰越したトイレ改修事業にかかる改修工事を、広野小学校で実施した。 					
○(繰越明許費) 学校トイレ改修事業(中学校)【予算現額37,894千円・支出済額36,376千円】					
<ul style="list-style-type: none"> 繰越したトイレ改修事業にかかる改修工事を、第三中学校で一期工事として実施した。 					
○学校トイレ改修事業(小学校)					
【予算現額68,734千円・支出済額3,240千円・翌年度繰越額65,494千円】					
<ul style="list-style-type: none"> 十坂小学校のトイレ改修のための設計業務を行った。 平成29年度の国の補正予算に伴い、トイレ改修にかかる工事費等を予算化し、平成30年度に繰越をした。 					
○学校トイレ改修事業(中学校)					
【予算現額35,673千円・支出済額0千円・翌年度繰越額35,673千円】					
<ul style="list-style-type: none"> 平成29年度の国の補正予算に伴い、トイレ改修にかかる工事費等を予算化し、平成30年度に繰越をした。 					
○学校グラウンド改修事業(小学校)【予算現額3,196千円・支出済額3,196千円】					
<ul style="list-style-type: none"> 琢成小学校のグラウンド改修整備の設計業務を行った。 					

基本的方向	I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ		
基本施策	5 教育環境の整備		
施策	(1) 学校施設の整備 (その2)		
担当部署	企画管理課	平成29年度 担当部署	企画管理課
平成29年度 主な事業の概要及び実施状況			
<p>○施設整備事業（小学校）【予算現額23,642千円・支出済額23,642千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プール塗装修繕（十坂小学校） ・受電設備更新修繕（広野小学校） ・プールろ材交換修繕（浜中小学校、八幡小学校） ・放送設備更新修繕（宮野浦小学校） ・FFストーブ改修修繕（宮野浦小学校） ・ガラスブロック改修修繕（松陵小学校） ・地下タンクライニング修繕（広野小学校） <p>○施設整備事業（中学校）【予算現額22,499千円・支出済額22,498千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・FFストーブ改修修繕（第六中学校、鳥海八幡中学校） ・放送設備更新修繕（第六中学校） ・冷房設備設置工事（第三中学校） 			
平成29年度における改善点・新たな取り組み			
<p>○学校施設の耐震化を進めるため、田沢小学校及び松山小学校の改修や改築の工事を行った。</p> <p>○小学校のグラウンド改修工事を実施し、良好な教育環境の整備を推進した。</p> <p>○中学校の特別教室（音楽室）に冷房設備を設置し、良好な教育環境の整備を推進した。</p> <p>○生活環境の変化によりトイレの洋式化が進んでいることから、和式が多い学校のトイレの改修工事を実施し、次期計画の設計業務を行った。</p>			
事業の効果・課題			
<p>○耐震診断の結果に基づいて改修や改築の工事を行い、学校施設の耐震化を推進することができた。</p> <p>○老朽化した設備の更新や改修のほか、冷房設備の設置を実施し、安全で良好な教育環境の整備を図ることができた。</p> <p>○和式のトイレが設置されている学校等から、トイレの洋式化の早期完了の要望を受けている状況にある。年次計画により設計とともに改修工事を進めていきたい。</p> <p>○金額が大きな工事の場合は国の補助金の活用を伴うが、国の予算も厳しい状況にあり、予定している工事に対して見込みどおりに補助金が交付されるか不透明な部分がある。</p>			
点検結果・自己評価（今後の方向性）			
29年度評価	A	<p>○耐震化を進める上で対応が必要となる田沢小学校、松山小学校の建物について、耐震補強や改築の工事を実施した。今後も耐震化100%に向け取り組んでいく。</p> <p>○学校施設・設備の老朽化改善のため、状態の確認、改修や更新を年次的に進めて施設・設備の長寿命化を図り、安全で良好な教育環境の整備に今後も取り組んでいく。</p>	
【参考】28年度評価	A		

基本的方向	I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ		
基本施策	5 教育環境の整備		
施策	(2) 学校規模の適正化の推進		
担当部署	企画管理課	平成29年度 担当部署	企画管理課
施策の目的及び目標			
<p>○目的</p> <ul style="list-style-type: none"> ・少子化による児童生徒の減少と学校の小規模化が進む中、児童及び生徒の教育の機会均等と維持向上を図るため、学校規模の適正化を進め、教育環境の整備を図る。 <p>○目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・酒田市立小・中学校の学校規模に関する基本方針に基づいて適正化を進める。 			
基本方針			
<p>1. 学校規模に関する基本的な考え</p> <p>(1) 小学校、中学校の標準とする学校規模は、12～18学級とする。</p> <p>(2) 複式学級の解消に努める。</p> <p>(3) 過大規模校（31学級以上）は設置しない。</p> <p>2. 当面存続する規模</p> <p>当面存続する学校規模及び学級規模の指針として、次のように設定する。</p> <p>(1) 小学校 ①学校規模 児童数は100人程度以上が確保できる規模 ②学級規模 1学級15人程度以上が確保できる規模</p> <p>(2) 中学校 ①学校規模 生徒数は270人程度以上が確保できる規模 ②学級規模 1学年3学級以上が確保できる規模</p> <p>3. 配慮事項</p> <p>学区の改編を進める際は、地域住民と十分な時間をかけて話し合い、理解と合意のもとに進める。</p>			
平成29年度 主な事業の概要及び実施状況			
<p>○学区改編推進事業【予算現額327千円・支出済額268千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小中学校の適正規模及び適正配置について審議する学区改編審議会を開催した。（2回） ・学校規模の適正化による子どもたちの教育環境の整備を図るため、地域の代表者の方々と教育人口統計を基にした将来動向などの情報交換を行った。小学校区としては、複式学級が編制されている小学校区（黒森小学校、田沢小学校）及び近い将来複式学級の編制が予想される小学校区（一條小学校、新堀小学校）を対象とした。 <p>○学校統合事業【予算現額1,444千円・支出済額1,442千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・松山小学校の開校式を行った。（開校式典、校歌・校章制作者への感謝状贈呈など） ・閉校した南遊佐小学校、地見興屋小学校、松山小学校の廃棄物等の後片付けを行った。 			
平成29年度における改善点・新たな取り組み			
<p>○今後の児童生徒数の動きや複式学級編制の見込みなど、子どもたちを取り巻く教育環境について市広報を活用して広く市民に周知した。</p> <p>○将来、新たに複式学級が編制される学校が想定されたことを受けて、対象小学校区（一條小学校、新堀小学校）の地域の代表者と現状及び将来的な展望について意見交換を行った。</p>			
事業の効果・課題			
<p>○適正規模等に課題のある学区における説明については、教育人口統計の説明などによる児童生徒数や学級数、複式学級編制について情報提供は行えたものの、地域及び保護者への統合に向けた具体的な説明会の実施までには至らなかった。</p> <p>○地域の理解と合意を得るためには、時間をかけ丁寧な説明が必要である。</p> <p>○統合後1年経過した学校の状況の聞き取り等を行った結果、ほぼ9割が肯定的な意見だった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友人が増えて良い刺激を受けながら学校生活を送っている。また、縦（上級生と下級生）と横（同級生同士）のつながりなど、人間関係作りの幅が広がった。 ・それぞれの学校行事や地域行事の調整などが大変だった。統合してから見える課題もあった。 			
点検結果・自己評価（今後の方向性）			
29年度評価	A	<p>○適正規模等に課題のある学区においては、今後も、地域や保護者への説明を継続的かつ丁寧に行い、地域の理解を更に深める必要がある。</p> <p>○これからの児童生徒数の動きや複式学級編制の見込みなど、子どもを取り巻く教育環境について地域と共有を図るため、引き続き情報発信していく。</p>	
【参考】28年度評価	A		

基本的方向	I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ		
基本施策	5 教育環境の整備		
施策	(3) 通学の安全確保		
担当部署	学校教育課	平成29年度 担当部署	学校教育課
施策の目的及び目標			
<p>○目的</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の通学の安全を確保するために、地域学校安全指導員の活動など、学校と地域の連携を深めるとともに、遠距離通学対策の充実を図る。 <p>○目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域学校安全指導員や各学校の見守り隊及び関係機関との連携を図ることで、児童生徒が安全安心に登下校できるようにする。 			
平成29年度 主な事業の概要及び実施状況			
<p>○子どもの安全安心通学対策事業【予算現額1,221千円・支出済額1,139千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域学校安全指導員5名及び各学校の見守り隊や酒田警察署との連絡調整を行った。 ・青色回転灯装備車両による防犯パトロールについては、警察より証明を受けた巡回協力者と学校教職員により、市教委による回転灯の貸与・パトロール車表示用ステッカー貸与のもとで実施した。 <p>○遠距離通学対策事業【予算現額63,372千円・支出済額60,212千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・冬期間は、小中学校とも概ね3km以上を対象とし、借上バス対応を60日間行った。 ・クマ出没の際には児童生徒の安全を確保するため、通常徒歩通学の児童生徒のためタクシー対応、バス同乗等の対応を行った。(H29タクシー対応：5月～9月 43日間(松山小)) <p>○スクールバスの運行</p> <ul style="list-style-type: none"> ・通年は、小学校概ね4km、中学校が概ね6km以上を対象として、スクールバス運行またはバス定期券の交付により実施している。 ・運行学区 松原小、鳥海小、平田小、八幡小、南平田小、田沢小、松山小 一中、二中、四中、鳥海八幡中、東部中 <p>○通学路の安全点検</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校が把握する通学路の危険箇所については、個別での対応・各機関合同での対応を行い、改善すべき箇所について、児童生徒の安全な登下校に向けて対策を講じることができた。 ・平成29年度合同点検箇所 5校9箇所 			
平成29年度における改善点・新たな取り組み			
<p>○統合校(松山小、鳥海小〔南遊佐地区〕)のスクールバス運行を開始した。</p> <p>○既存の安全安心メールシステムの破損により、新システムへの移行の準備を進めた。</p>			
事業の効果・課題			
<p>○青色回転灯を装備してのパトロールが定着することで、安全安心な通学に寄与している。</p> <p>○遠距離通学対策事業、スクールバス運行とも市の基準に照らしながら対応し、児童生徒の安全を確保するとともに、通学費用に係る保護者の負担軽減を図ることができた。</p> <p>○見守り隊や地域学校安全指導員との情報交換と協力連携を通して、パトロール実施者の増員を今後とも呼びかけていく必要がある。</p> <p>○通学路の危険箇所について関係者会議を開催して対策等を検討し、その後に現地調査及び道路表示などの対策を実施して通学路の安全を確保した。</p>			
点検結果・自己評価(今後の方向性)			
29年度評価	A	<p>○見守り隊や地域学校安全指導員との協力連携を通して、児童生徒の安全な登下校の見守りを行うことができた。</p> <p>○通学路の安全対策は学校や地域の声を聞きながら、随時、適正な対策等を実施できた。</p>	
【参考】28年度評価	A		

基本的方向	I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ		
基本施策	5 教育環境の整備		
施策	(5) 学校ICT環境の整備充実		
担当部署	学校教育課	平成29年度 担当部署	学校教育課
施策の目的及び目標			
<p>○目的</p> <ul style="list-style-type: none"> ・時代に対応したICT環境としていくために、教育用パソコン及び校務用パソコンの充実した整備と適正な運用環境の整備を図る。 <p>○目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育用パソコンは、今後も児童生徒の情報活用能力の育成の為、定期的に更新しながら賃貸借契約による整備を継続していく。 ・校務用パソコンは、2か年の端末入れ替え実施計画により、新しい端末に随時更新していく。 			
平成29年度 主な事業の概要及び実施状況			
<p>○デジタルキャンパスネットワーク【予算現額63,390千円・支出済額62,841千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育用パソコンは、賃貸借契約により小学校で704台、中学校で286台を整備しており、今年度は小学校10校、中学校1校で新端末に更新した。 ・これまで行政側に属していた学校のネットワーク環境を、新たに学校系ネットワークとして切り離し、独自のネットワーク環境を整備した。 ・校務用パソコンのサポート及び教育委員会保有の各サーバの保守・点検を実施した。 ・中学校校務用パソコンの端末更新を実施した。 ・情報教育担当者会等で多数の要望があったタブレット端末の活用に関連し、民間事業者からの無料レンタルサービスを利用し、授業への活用に関するデータ収集を実施した。 			
平成29年度における改善点・新たな取り組み			
<ul style="list-style-type: none"> ・学校系ネットワークの環境整備。 ・中学校校務用パソコンの端末更新。 ・タブレットの無料レンタルサービスを利用した、授業活用に関するデータの収集。 			
事業の効果・課題			
<p>○パソコンの操作や授業においてICT機器を活用することを通して、情報化社会に生きる児童生徒に情報活用能力を育てることができた。</p> <p>○授業においては、パソコンを活用したり、デジタル教材や実物投影機といったICT機器を活用したりと、児童生徒の学習意欲向上や学習内容の理解に一定の効果があった。</p> <p>○平成29年度末、授業でICT機器を活用できる教員の割合は、小学校91%、中学校88%であり、小中学校とも日常的にICT機器を活用した授業が行われるようになった。</p> <p>○平成29年度から2か年計画で、校務用パソコンの更新を行うと共に、各学校で学習用に活用できるタブレット端末の整備を検討する。</p> <p>○ICT機器やシステムの使用に関する情報提供や活用するための研修を定期的実施し、より効果的に活用できるような体制作りを目指していく。また、学校系ネットワークの安定した運用を管理するため、これまでの運用ルールを見直し、セキュリティポリシー作成等を目指す。</p>			
点検結果・自己評価（今後の方向性）			
29年度評価	B	<p>○平成29年度末、授業でICT機器を活用できる教員の割合は、小学校91%、中学校88%であり、小中学校とも日常的にICT機器を活用する環境が一般化している。</p> <p>○教科の特質に応じたICT機器活用方法について、更に研修を深めていく必要がある。</p> <p>○学校では、パソコン以外にも実物投影機やプロジェクタ等の利用頻度が高まり、ICT機器の活用が必要不可欠なものとなっている。</p> <p>○タブレット端末については、学校における活用のあり方について、今後もデータ収集を実施していく。</p> <p>○校務用グループウェアの更新と共に、校務支援ソフトの導入も検討していく。</p>	
【参考】28年度評価	B		

基本的方向	I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ																										
基本施策	5 教育環境の整備																										
施策	(6) 教育の機会均等 (その1)																										
担当部署	企画管理課	平成29年度 担当部署	企画管理課																								
施策の目的及び目標																											
<p>○目的</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭の経済状況にかかわらず、高等学校や高等教育機関での修学が確保されるよう市独自の制度により経済的支援を行うことで子どもたちの教育を受ける機会の確保に資する。 <p>○目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国、県など他の支援制度とのバランスを考慮しながら本市の支援制度を検討、維持し、経済情勢の変動等に関わらず広く市民に周知され、支援制度が必要な市民が利用できるようにする。 																											
平成29年度 主な事業の概要及び実施状況																											
<p>○私立高等学校生徒授業料軽減事業【予算現額3,420千円・支出済額3,420千円】</p> <p>この事業は、私立高等学校に在学している生徒の授業料等に係る保護者等の経済的な負担軽減を図るため、毎年6月1日において私立高等学校に在学している生徒を有し、かつ、本市に住所を有する保護者等で、その世帯が次のいずれかに該当するものに対し私立高等学校生徒授業料軽減補助金を交付するものである。</p> <p>(1) 生活保護法の規定による被保護世帯 【補助金額：60千円】</p> <p>(2) 当該年度の市民税が非課税の世帯 【補助金額：36千円】</p> <p>(3) 当該年度の市民税のうち、均等割額だけを課税される世帯（年少扶養控除及び特定扶養控除廃止前の基準で算定し均等割のみ課税となる場合を含む） 【補助金額：36千円】</p>																											
<table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>平成27年度</th> <th>平成28年度</th> <th>平成29年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>生活保護世帯</td> <td>1件</td> <td>1件</td> <td>3件</td> </tr> <tr> <td>市民税非課税世帯</td> <td>68件</td> <td>55件</td> <td>57件</td> </tr> <tr> <td>均等割額のみ課税世帯</td> <td>40件</td> <td>39件</td> <td>33件</td> </tr> <tr> <td>交付件数 計</td> <td>109件</td> <td>95件</td> <td>93件</td> </tr> <tr> <td>交付額</td> <td>3,948,000円</td> <td>3,444,000円</td> <td>3,420,000円</td> </tr> </tbody> </table>				区分	平成27年度	平成28年度	平成29年度	生活保護世帯	1件	1件	3件	市民税非課税世帯	68件	55件	57件	均等割額のみ課税世帯	40件	39件	33件	交付件数 計	109件	95件	93件	交付額	3,948,000円	3,444,000円	3,420,000円
区分	平成27年度	平成28年度	平成29年度																								
生活保護世帯	1件	1件	3件																								
市民税非課税世帯	68件	55件	57件																								
均等割額のみ課税世帯	40件	39件	33件																								
交付件数 計	109件	95件	93件																								
交付額	3,948,000円	3,444,000円	3,420,000円																								
【周知実績】 県内各私立高等学校に配布（市内3校、市外13校）																											
<p>○京野基金大学修学奨励事業【予算現額1,205千円・支出済額1,205千円】</p> <p>この事業は、本市出身の優秀な学生の大学修学に係る経済的支援を図る目的で、平成22年度に新設した制度であり、次のいずれにも該当する学生のうちから別に選考されたものの保護者に京野教育振興基金大学修学奨学金を学生1人につき300千円交付するものである。</p> <p>(1) 学生の保護者等及び世帯の年収額を生活保護法による保護基準表の例によって算出した当該家庭の需要額で除した率が120パーセントに満たない者</p> <p>(2) 高等学校を卒業した年度の翌年度に、国立大学法人立大学又は公立大学若しくは市長が特に認めた大学に入学した者（医学部及び歯学部は除く）</p> <p>(3) 高等学校在学中の成績が優秀であると認められる者</p> <p>(4) 学生の保護者が本市に住所を有し、引き続き1年以上居住し、かつ、当該世帯に本市市税等の滞納がない者</p>																											
<table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>平成27年度</th> <th>平成28年度</th> <th>平成29年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>交付件数</td> <td>3件</td> <td>1件</td> <td>4件</td> </tr> <tr> <td>大学修学奨学金交付額</td> <td>900,000円</td> <td>300,000円</td> <td>1,200,000円</td> </tr> </tbody> </table>				区分	平成27年度	平成28年度	平成29年度	交付件数	3件	1件	4件	大学修学奨学金交付額	900,000円	300,000円	1,200,000円												
区分	平成27年度	平成28年度	平成29年度																								
交付件数	3件	1件	4件																								
大学修学奨学金交付額	900,000円	300,000円	1,200,000円																								
【周知実績】 市内高等学校7校に配布																											
京野教育振興基金の推移																											
<table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>平成27年度</th> <th>平成28年度</th> <th>平成29年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>年度当初残高</td> <td>4,621,408円</td> <td>3,731,650円</td> <td>3,437,461円</td> </tr> <tr> <td>取崩額</td> <td>900,000円</td> <td>300,000円</td> <td>1,200,000円</td> </tr> <tr> <td>積立額</td> <td>10,242円</td> <td>5,811円</td> <td>4,560円</td> </tr> <tr> <td>年度末残高</td> <td>3,731,650円</td> <td>3,437,461円</td> <td>2,242,021円</td> </tr> </tbody> </table>				区分	平成27年度	平成28年度	平成29年度	年度当初残高	4,621,408円	3,731,650円	3,437,461円	取崩額	900,000円	300,000円	1,200,000円	積立額	10,242円	5,811円	4,560円	年度末残高	3,731,650円	3,437,461円	2,242,021円				
区分	平成27年度	平成28年度	平成29年度																								
年度当初残高	4,621,408円	3,731,650円	3,437,461円																								
取崩額	900,000円	300,000円	1,200,000円																								
積立額	10,242円	5,811円	4,560円																								
年度末残高	3,731,650円	3,437,461円	2,242,021円																								

基本的方向	I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ																															
基本施策	5 教育環境の整備																															
施策	(6) 教育の機会均等 (その2)																															
担当部署	企画管理課	平成29年度 担当部署	企画管理課																													
<p>○大学等修学支援事業【予算現額2,414千円・支出済額2,358千円】</p> <p>この事業は、大学等（大学、短期大学、専修学校（専門課程を置き修学年限が2年以上のものに限る。）及び市長が認めた教育施設）修学に係る経済的支援を図るため、毎年6月1日において大学等に在籍している本市出身の学生を有する保護者等で、次に該当するものに対し大学等修学資金利子補給金を交付するものである。</p> <p>・学生の家族（兄弟姉妹は除く。）の所得等の合計額が、次の金額以下であるとき</p> <table border="1"> <tr> <th>種別</th> <th colspan="2">所得等の合計額</th> </tr> <tr> <td>給与のみの場合</td> <td>収入額</td> <td>770万円</td> </tr> <tr> <td>上記以外</td> <td>所得額</td> <td>573万円</td> </tr> </table> <p>なお、利子補給金の額は、金融機関の修学貸付に係る利子相当額とし、学生1人につき、1年当たりの利子相当額4万円を上限とする。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>平成27年度</th> <th>平成28年度</th> <th>平成29年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>新規交付件数</td> <td>33件</td> <td>21件</td> <td>25件</td> </tr> <tr> <td>継続交付件数</td> <td>36件</td> <td>43件</td> <td>42件</td> </tr> <tr> <td>交付件数 計</td> <td>69件</td> <td>64件</td> <td>67件</td> </tr> <tr> <td>交付額</td> <td>2,509,908円</td> <td>2,320,084円</td> <td>2,358,030円</td> </tr> </tbody> </table> <p>【周知実績】市内高等学校・大学、金融機関など21機関にチラシを配布</p>				種別	所得等の合計額		給与のみの場合	収入額	770万円	上記以外	所得額	573万円	区分	平成27年度	平成28年度	平成29年度	新規交付件数	33件	21件	25件	継続交付件数	36件	43件	42件	交付件数 計	69件	64件	67件	交付額	2,509,908円	2,320,084円	2,358,030円
種別	所得等の合計額																															
給与のみの場合	収入額	770万円																														
上記以外	所得額	573万円																														
区分	平成27年度	平成28年度	平成29年度																													
新規交付件数	33件	21件	25件																													
継続交付件数	36件	43件	42件																													
交付件数 計	69件	64件	67件																													
交付額	2,509,908円	2,320,084円	2,358,030円																													
平成29年度における改善点・新たな取り組み																																
事業の効果・課題																																
<p>○各事業ともに学校や関係機関に対して、制度をわかりやすくまとめたパンフレット、チラシ等を配布するとともに、市のホームページや広報、ハーバーラジオなどを活用し、本支援制度を必要とする市民に広く制度の周知を図った。</p> <p>○私立高等学校生徒授業料軽減事業は、274件の申請があったが交付の対象となったのは93件であった。支給対象となる所得要件がわかりにくいことが要因と考えられるため、要件内容を検討し、平成30年度より、年少扶養・特定扶養控除廃止前の算定を廃止し、算定対象とする所得は、世帯全員ではなく生徒を扶養する親権者のみに変更した。</p> <p>○京野基金大学修学奨励事業は、基金残高が無くなった後については廃止となるが、それに替わる給付型奨学金に引き続き取り組む必要性があるか検討が必要である。</p>																																
点検結果・自己評価（今後の方向性）																																
今後の方向性	継続	<p>○周知については学校や関係機関を通じてある程度実施出来ており、制度自体は一定の役割を果たしている。</p> <p>○家庭の経済状況によらず、次代を担う子どもの教育を受ける機会を確保することは必要であり、今後も幅広く周知しながら続ける必要がある。</p>																														
【参考】28年度評価	継続																															

基本的方向	I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ			
基本施策	5 教育環境の整備			
施策	(7) 私立学校等の振興			
担当部署	企画管理課	平成29年度 担当部署	企画管理課	
施策の目的及び目標				
<p>○目的</p> <ul style="list-style-type: none"> ・独自の教育理念のもと、本市の教育振興に貢献している私立高等学校の健全な運営に資する。 <p>○目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・経済状況及び人口減少などの状況と補助内容を考慮しながら、子どもたちが教育を受ける機会の均等化を図るため補助金を交付する。 				
平成29年度 主な事業の概要及び実施状況				
<p>○私学振興補助事業【予算現額3,150千円・支出済額3,150千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本市に住所を有する私立高等学校の健全な運営に資するため、私立高等学校を設置する学校法人に対し、酒田市私立高等学校運営費補助金を交付 				
	区分	平成27年度	平成28年度	平成29年度
	酒田南高等学校運営費補助金	1,400,000円	1,400,000円	1,400,000円
	天真学園高等学校運営費補助金	1,400,000円	1,400,000円	1,400,000円
	和順館高等学校運営費補助金	350,000円	350,000円	350,000円
	交付額 計	3,150,000円	3,150,000円	3,150,000円
平成29年度における改善点・新たな取り組み				
○私立高等学校の統合による補助金額の急激な減額が見込まれたため、統合後の平成30年度～平成34年度に激変緩和措置を講ずるよう要綱改正を行った。				
事業の効果・課題				
<p>本市の教育振興等に貢献している私立高等学校の健全な運営のために補助金を交付している。平成29年度においては、16～18歳人口の減少したが、私立高等学校の生徒数も若干増加している。市内の高校生人数に占める私立高校生数割合は2割を超えており、私立高等学校は本市の教育において大きな役割を担っている。私立高等学校の健全な運営により、子どもたちが教育の選択肢を広げたり、多様な学びの場を確保することが可能となっている。</p>				
	区分	平成27年度	平成28年度	平成29年度
	公立高等学校生徒数…A	2,398人 (100.0)	2,329人 (97.1)	2,284人 (95.2)
	私立高等学校生徒数…B	704人 (100.0)	654人 (92.9)	683人 (97.0)
	市内高等学校生徒数…C = A + B	3,102人 (100.0)	2,983人 (96.2)	2,967人 (95.6)
	私立高等学校生徒数率…B / C	22.7% (100.0)	21.9% (96.6)	23.0% (101.4)
	市内16～18歳人口	2,857人 (100.0)	2,787人 (97.5)	2,697人 (94.4)
	私立高校教員数	76人 (100.0)	72人 (94.7)	73人 (96.1)
<p>※カッコ内は平成27年度の各数値を100として比較したもの ※生徒数及び教員数は各年度5月1日現在の数値から算定（市勢要覧より） ※16～18歳人口は各年度3月末日の数値から算定（住民基本台帳より）</p>				
点検結果・自己評価（今後の方向性）				
今後の方向性	継続	○私立高等学校は独自の教育理念のもと本市の教育振興等に貢献しており、また、教育の機会均等及び本市の子どもたちの教育を受ける権利の保障の一助として欠かせない存在となっている。本市にある私立高等学校の健全な運営のための支援策としての一定の補助金は必要なものと考えており、引き続き支援を行っていく。		
【参考】28年度評価	継続			

基本的方向	I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ		
基本施策	6 信頼される学校、開かれた学校づくりの推進		
施策	(1) 明るく楽しい元気な学校づくりの推進		
担当部署	学校教育課	平成29年度 担当部署	学校教育課
施策の目的及び目標			
<p>○目的</p> <ul style="list-style-type: none"> 各学校において、地域社会や児童生徒の実態に応じた明るく楽しい元気な学校づくりを進め、自主的・自律的な学校運営が推進されるように支援する。 <p>○目標</p> <ul style="list-style-type: none"> 各校が設定したテーマ及び観点に沿った評価（5段階）を行い、平均「4」以上の学校数を85%以上を目指す。 			
平成29年度 主な事業の概要及び実施状況			
<p>○明るく楽しい元気な学校づくり支援事業【予算現額3,810千円・支出済額3,743千円】</p> <p>1校あたり13万円を上限とする交付金（13万円27校、10万円3校）をもとに、各学校でテーマ及び具体的な教育活動を設定し実践した。</p> <p>○取り組んだ主な教育活動</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域連携、地域学習等の活動 12校 児童生徒の感性を育てる活動 11校 学校美化、地域環境保全活動 16校 外部講師を招いての特別授業 12校 児童会、生徒会活動への支援 5校 学級経営、学習活動の推進 2校 <p>※取り組みの例…・地域指導者によるクラブ活動・交流活動（浜田小、若浜小、松原小、浜中小等）</p> <ul style="list-style-type: none"> 外部講師からの特別授業・講演（琢成小、松陵小、泉小、松山小、南平田小、三中、鳥海八幡中等） 地域との交流事業（十坂小、西荒瀬小等） 動植物を育てる活動（富士見小、松陵小等） 地域と共に学級菜園・学校環境整備（西荒瀬小、琢成小、新堀小、若浜小、松原小等） 			
平成29年度における改善点・新たな取り組み			
○各学校で、事業評価において達成度の低かった項目については、振り返りの検討を行っており次年度以降の事業に反映し、改善が図られている。			
事業の効果・課題			
<p>○成果については、各学校で設定した2～4項目の観点から、活動の観察やアンケート、学校内外の評価の結果を5段階で評価した。平均「4」以上の学校は、30校中29校で96.66%となった。（H28 100%、H27 93.94%、H26 93.94%）</p> <p>○取り組む内容をテーマ化することで、児童生徒が、より豊かな学校生活を送ることができた。</p> <p>○地域連携・地域学習活動の推進を事業に据えた学校は12校であるが、総じて地域の方から多大な協力や支援をいただいている。学校と地域の緊密な連携を伺うことができ、地域の人々とのふれあいを深め、郷土を愛する心を育てて事業でもあった。</p>			
点検結果・自己評価（今後の方向性）			
29年度評価	B	○平成29年度で終了した事業であるが、配当予算に依らず、学校裁量・学校独自の視点から、新たな課題に取り組むことのできる事業であった。また、学校毎に計画時に評価観点を設定し、年度の振り返りの際、達成度の低い評価については、改善点なども検証しており、成果をあげた事業でもあった。	
【参考】28年度評価	B	○当事業のみならず、今後とも事業の推進にあたっては、学校現場とも連携しながら、適正な事業執行や事務処理に留意しながら進めていきたい。	

基本的方向	I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ		
基本施策	6 信頼される学校、開かれた学校づくりの推進		
施策	(2) 学校運営の公開と学校評価の推進		
担当部署	学校教育課	平成29年度 担当部署	学校教育課
施策の目的及び目標			
<p>○目的</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者や地域住民が学校運営に参画し、学校と地域が一体となった地域に開かれ、地域に支えられる学校づくりを進める。 <p>○目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・すべての学校で教育活動等の成果と検証を行う学校評価に取り組み、学校運営の改善と発展を目指す。 ・良い学校運営につなげる学校評価システムを推進していく。 			
平成29年度 主な事業の概要及び実施状況			
<p>○学校評議員会の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校運営に関して第三者の意見を生かしていくために、全小中学校で学校評議員の委嘱を行った。どの学校も学校評議員会を開催し、学校の運営や教育活動について、具体的に意見をいただいている。 <p>○学校評価の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どの学校も自己評価、学校関係者評価を実施している。学校経営に関する児童生徒、保護者、教職員のアンケートを実施、分析、改善するとともに、その結果を学校評議員に提示し学校関係者評価を行い、学校運営の改善につなげている。 ・評価項目を絞りこみ、学校の重点やよさ、課題について、PDCAのサイクルに基づいて実施する工夫がみられる。 			
平成29年度における改善点・新たな取り組み			
<p>○学校評議員の人選については数年連続しているとなかなかメンバーを代えにくいという反省がある中、年齢構成、役職、男女比のバランスを考慮しようとする学校が見られるようになった。</p> <p>○日中の時間帯に学校評議員会を開催し、学校生活における児童生徒の姿を見ていただく学校が増えてきた。</p>			
事業の効果・課題			
<p>○学校評議員会の開催により、学校の経営方針や教育活動のねらい・内容を説明し理解を得ることで、地域との協力体制づくりが進んでいる。</p> <p>○話し合いの目的によって学校評議員の人選が変わることが考えられるため、年齢構成、役職、男女比などを考慮し、学校評議員を選出する必要がある。</p> <p>○学校評議員会の時間設定を工夫することで、多くの方からの意見を集約することができた。また、事案により、招集メンバーを絞ることでテーマに沿った話し合いができています。</p> <p>○地域の方々に学校経営方針や授業・行事等の実践を公開することで、学校・家庭・地域の方々による学校運営や具体的な教育活動への理解が深まり、開かれた学校づくりが進められている。</p> <p>○アンケート結果をもとにした自己評価や学校関係者評価の客観的なデータを示すことで、成果と課題が明確化し、評議員の方々の意見がいっそう日常の教育活動に反映された。</p> <p>○学校評価の結果を学校便り等で地域の方々や保護者にお知らせすることで、子どもたちの地域での様子やさまざまな情報を学校にいただけるようになってきた。</p>			
点検結果・自己評価（今後の方向性）			
29年度評価	B	<p>○学校評議員の人選にあたっては、地域の有識者や教育活動の支援者並びに保護者等から広く意見を集約し、経営の改善に生かせるよう配慮されてきた。</p> <p>○学校評議員にも学校評価のねらいや観点、評価の具体的な場面を示しながら、年間計画に基づいて計画的に、学校経営について意見を求めていくように学校に働きかけていく。</p>	
【参考】28年度評価	B	<p>○学校経営の改善に生きる評価システムにしていくために、年度初めに、重点や学校課題（評価の観点や評価の場面）を具体的に保護者や地域の方々に示すように各校に指導していく。</p>	

基本的方向	I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ		
基本施策	6 信頼される学校、開かれた学校づくりの推進		
施策	(3) 教職員研修等の充実		
担当部署	学校教育課	平成29年度 担当部署	学校教育課
施策の目的及び目標			
<p>○目的</p> <ul style="list-style-type: none"> ・信頼される学校づくりを推進するため、教員の指導力向上や資質向上を図る。 <p>○目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校研究に沿った授業研究会への指導主事派遣を充実させ、指導力の向上を図る。 ・各種研修会及び各校での授業研究会を通し、教職員としての資質向上を図る。 ・教員評価を行い、学校教育に対する信頼の確保と資質の向上を図る。 			
平成29年度 主な事業の概要及び実施状況			
<p>○初任者研修、中堅教諭等資質向上研修の実施□</p> <ul style="list-style-type: none"> ・初任者研修は学級づくり、市内教育施設の訪問等の研修を実施した。(該当者12名) □ ・全体研修では「服務研修」「いじめ対応」、知見を広める体験研修では企業や福祉施設等で体験的研修を実施した。(中堅教諭等資質向上研修該当者9名、服務研修参加者14名) <p>○各種研修会の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図書専門員研修会(28名参加) ・教科指導力向上のための研修会 理科センター事業として研修会を4回開催。(延べ47名) 市教育研究所の各部会で教科指導等の研修会を合計43回開催 ・児童生徒理解のための研修会 教育相談研修講座を3回開催(延べ472名参加) 教育相談担当者を対象とした実践力を育成する研修会を3回開催 ・特別支援教育のための研修会 特別支援教育研修会を2回開催(延べ193名参加) <p>○教職員評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・すべての教員が自己目標を設定し、個人や組織としての工夫を図り資質の向上に努めた。 			
平成29年度における改善点・新たな取り組み			
事業の効果・課題			
<p>○初任者研修では、教育公務員としての教師の服務や心構え、児童生徒との関わり方、特に特別支援教育の考え方について研修を深めることができた。また、初任者として職務上の悩みを情報交換できたことは対象者にとって非常に貴重な機会となった。</p> <p>○経験者研修会では、喫緊の課題であるいじめの防止、早期発見、適切な対応について研修を行うことで、児童生徒の見取りについて意識を高めることができた。</p> <p>○図書専門員研修会では経験豊富な専門員の方からの助言も有効だが、基本的な操作に関する利用講習を数年に1回程度、企画・予算化する必要がある。</p> <p>○教科指導力向上のための研修会では、算数・数学において授業改善に向けた実践的な研修を行うと共に、小中が連携した指導の在り方について研修を深めることができた。</p> <p>○教職員評価の実施により、自己目標の設定と達成に向けての取り組みの中で、教員の学校経営参画意識を高めることにつながっている。</p>			
点検結果・自己評価(今後の方向性)			
29年度評価	A	<p>○初任者研修では「ユニバーサルデザイン」、中堅研修においては「いじめ防止」について研修し、教員としての資質の向上につなげることができた。</p> <p>○読書指導や図書館活用型授業の大切さを理解してもらい、それを支える専門員の在り方にも触れることができた。</p>	
【参考】28年度評価	A	<p>○教育相談研修講座において、特別支援、いじめ予防、学級づくりをテーマに研修会を開催することにより、今日的な課題について研修できた。</p> <p>○初任者研修において、小学校では地域素材を生かした理科の研修、中学校ではジオパークの学習を行っていく。</p>	

基本的方向	I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ		
基本施策	6 信頼される学校、開かれた学校づくりの推進		
施策	(4) 体罰根絶に向けた取組みの推進		
担当部署	学校教育課	平成29年度 担当部署	学校教育課
施策の目的及び目標			
<p>○目的</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体罰に関する正しい知識をもち、体罰否定の指導観のもと信頼される学校づくりを進める。 <p>○目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体罰の根絶対策と、一人一人の人格や自主性を尊重し、児童生徒理解に基づく適切な学習指導、生徒指導、部活動指導等を実施する。 			
平成29年度 主な事業の概要及び実施状況			
<p>○校内倫理委員会における体罰根絶への取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「信頼される学校推進のための具体的取り組み」の項目の中に体罰根絶の項目を位置づけ、各校の実態を踏まえながら主体的な取り組みを計画的に実施できるようにした。 <p>○研修会等の機会を利用した服務にかかわる指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体罰の防止を含め、教職員の服務規律については、市招集校長会や各種研修会等の機会を利用して繰り返し注意喚起を行った。 			
平成29年度における改善点・新たな取り組み			
<p>○体罰根絶等に向けた研修会の持ち方の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県教育委員会から出されている校内研修資料を送付したり、ホームページ等を紹介し、ワークショップなどの研修形態を各校で工夫できるようにした。 			
事業の効果・課題			
<p>○「体罰等の根絶と児童生徒理解に基づく指導のガイドライン」をもとに、学校評価の際に教職員及び保護者アンケートに体罰や不適切な指導に関する項目を設け、児童生徒理解に基づく指導に取り組んでいる。</p> <p>○アンガーマネジメントについて研修し、教職員が怒りに対する自己コントロールができるようにすることで児童生徒一人一人を尊重し、よさを伸ばす指導に努めている。</p> <p>○生徒指導面や特別支援教育面で特に支援が必要な児童生徒について全教職員で共通理解し、複数で対応している学校がほとんどである。</p>			
点検結果・自己評価（今後の方向性）			
29年度評価	B	<p>○教職員が児童生徒のことで一人で悩むことのないように、問題行動等への解決にはチームで対処する。</p> <p>○体罰または周囲に体罰と受け取られかねない指導を見かけた場合には、積極的に管理職や他の教員等へ報告・相談できるようにするなど、日常的に体罰を防止しようとする同僚性を育んでいく。</p> <p>○部活動のコーチについても指導のあり方についてお願いと指導を行う。</p> <p>○教職員一人一人が当事者意識を持って研修できるよう、多様な研修のあり方を紹介していく。</p>	
【参考】28年度評価	B		

基本的方向	Ⅱ 世代を超えて学びあう		
基本施策	7 生涯学習の充実		
施策	(1) 生涯学習推進体制の整備		
担当部署	社会教育文化課	平成29年度 担当部署	社会教育文化課
施策の目的及び目標			
<p>○目的</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 庁内関係課との情報の共有や情報発信の一元化を図りながら連携事業にも取り組み、市全体としてより充実した事業推進に努める。 <p>○目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 情報化社会の進展に伴い、学習情報の収集と提供を行うシステムや学習相談の体制整備に努める。 ・ 学習しやすい施設や環境づくりの整備。 ・ 関係各団体と互いに連携を図りながら生涯学習を推進。 			
平成29年度 主な事業の概要及び実施状況			
<p>○市広報やホームページ、フェイスブックでの講座募集。</p> <p>○生涯学習推進計画関連事業一覧のホームページ掲載 関連課等23</p> <p>○生涯学習指導者登録制度 登録者49名（H29新規登録者4名）※ホームページに掲載</p> <p>○カモンくんこどもニュースの発行（月1回、全小中学生へ配布）</p>			
平成29年度における改善点・新たな取り組み			
<p>○本庁舎が完成し、社会教育文化課（公民館事業係を除く）が本庁舎へ移ったことで、庁内関係課との連携がはかりやすくなった。</p>			
事業の効果・課題			
<p>○生涯学習指導者登録では4名の指導者登録があり、市民企画講座として1講座開催した。</p> <p>○生涯学習推進講座開催事業では、各ライフステージに合わせた、学びを提供し、多様なニーズに対応した。終了後のアンケート調査では高い満足度を得ることができ、年間集計では満足度93%となった。</p>			
点検結果・自己評価（今後の方向性）			
29年度評価	B	<p>○市広報、ホームページ、フェイスブック、各種チラシなどいろいろな媒体を通じて学習情報の提供に心がけている。</p> <p>○生涯学習サークルの募集を一覧にして随時更新をしている。</p>	
【参考】28年度評価	B		

基本的方向	Ⅱ 世代を超えて学びあう																																																																																																															
基本施策	7 生涯学習の充実																																																																																																															
施策	(2) 生涯学習社会の基礎づくり																																																																																																															
担当部署	社会教育文化課	平成29年度 担当部署	社会教育文化課																																																																																																													
施策の目的及び目標																																																																																																																
○目的																																																																																																																
<ul style="list-style-type: none"> ・ライフステージに合わせた学びの提供。 ・「個人のニーズ」と「社会の要請」の学習機会をバランスよく提供する。 ・学んだ成果を地域に生かせる学習機会の提供。 ・地域・家庭・学校・幼稚園・保育所等と連携した事業の推進。 ・家庭教育支援の充実。 																																																																																																																
○目標																																																																																																																
・生涯学習事業のアンケート調査の満足度87%以上を達成。																																																																																																																
<table border="1"> <thead> <tr> <th>算出方法</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>31年度 (目標)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>生涯学習事業の満足度 (アンケート調査)</td> <td>90%</td> <td>88%</td> <td>93%</td> <td>87%以上</td> </tr> </tbody> </table>				算出方法	27年度	28年度	29年度	31年度 (目標)	生涯学習事業の満足度 (アンケート調査)	90%	88%	93%	87%以上																																																																																																			
算出方法	27年度	28年度	29年度	31年度 (目標)																																																																																																												
生涯学習事業の満足度 (アンケート調査)	90%	88%	93%	87%以上																																																																																																												
平成29年度 主な事業の概要及び実施状況																																																																																																																
○生涯学習推進講座開催事業【予算額4,491千円・支出済額4,099千円】																																																																																																																
<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">講座区分</th> <th colspan="3">平成27年度</th> <th colspan="3">平成28年度</th> <th colspan="3">平成29年度</th> </tr> <tr> <th>講座数</th> <th>実施回数</th> <th>延べ参加人数</th> <th>講座数</th> <th>実施回数</th> <th>延べ参加人数</th> <th>講座数</th> <th>実施回数</th> <th>延べ参加人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>幼児講座</td> <td>4</td> <td>19</td> <td>1,447</td> <td>4</td> <td>31</td> <td>1,731</td> <td>4</td> <td>25</td> <td>1,040</td> </tr> <tr> <td>少年講座</td> <td>6</td> <td>408</td> <td>8,510</td> <td>10</td> <td>465</td> <td>12,717</td> <td>9</td> <td>431</td> <td>8,231</td> </tr> <tr> <td>青年講座</td> <td>8</td> <td>26</td> <td>292</td> <td>7</td> <td>31</td> <td>287</td> <td>4</td> <td>18</td> <td>204</td> </tr> <tr> <td>成人講座</td> <td>14</td> <td>51</td> <td>827</td> <td>12</td> <td>51</td> <td>706</td> <td>4</td> <td>13</td> <td>213</td> </tr> <tr> <td>家庭教育講座</td> <td>10</td> <td>82</td> <td>3,553</td> <td>8</td> <td>81</td> <td>3,444</td> <td>5</td> <td>73</td> <td>3,493</td> </tr> <tr> <td>指導者養成講座</td> <td>6</td> <td>9</td> <td>428</td> <td>4</td> <td>10</td> <td>420</td> <td>5</td> <td>17</td> <td>314</td> </tr> <tr> <td>催し</td> <td>12</td> <td>19</td> <td>19,356</td> <td>9</td> <td>15</td> <td>18,149</td> <td>9</td> <td>25</td> <td>16,610</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>60</td> <td>614</td> <td>34,413</td> <td>54</td> <td>684</td> <td>37,454</td> <td>40</td> <td>602</td> <td>30,105</td> </tr> <tr> <td>満足度</td> <td colspan="3">90%</td> <td colspan="3">88%</td> <td colspan="3">93%</td> </tr> </tbody> </table>				講座区分	平成27年度			平成28年度			平成29年度			講座数	実施回数	延べ参加人数	講座数	実施回数	延べ参加人数	講座数	実施回数	延べ参加人数	幼児講座	4	19	1,447	4	31	1,731	4	25	1,040	少年講座	6	408	8,510	10	465	12,717	9	431	8,231	青年講座	8	26	292	7	31	287	4	18	204	成人講座	14	51	827	12	51	706	4	13	213	家庭教育講座	10	82	3,553	8	81	3,444	5	73	3,493	指導者養成講座	6	9	428	4	10	420	5	17	314	催し	12	19	19,356	9	15	18,149	9	25	16,610	計	60	614	34,413	54	684	37,454	40	602	30,105	満足度	90%			88%			93%		
講座区分	平成27年度				平成28年度			平成29年度																																																																																																								
	講座数	実施回数	延べ参加人数	講座数	実施回数	延べ参加人数	講座数	実施回数	延べ参加人数																																																																																																							
幼児講座	4	19	1,447	4	31	1,731	4	25	1,040																																																																																																							
少年講座	6	408	8,510	10	465	12,717	9	431	8,231																																																																																																							
青年講座	8	26	292	7	31	287	4	18	204																																																																																																							
成人講座	14	51	827	12	51	706	4	13	213																																																																																																							
家庭教育講座	10	82	3,553	8	81	3,444	5	73	3,493																																																																																																							
指導者養成講座	6	9	428	4	10	420	5	17	314																																																																																																							
催し	12	19	19,356	9	15	18,149	9	25	16,610																																																																																																							
計	60	614	34,413	54	684	37,454	40	602	30,105																																																																																																							
満足度	90%			88%			93%																																																																																																									
平成29年度における改善点・新たな取り組み																																																																																																																
○青年講座「基本の料理」にお菓子を追加し、「基本の料理とお菓子」を開催したところ、参加者の増加につながった。																																																																																																																
事業の効果・課題																																																																																																																
<p>○小中学校や認定こども園、保育園等と連携し多くの生徒や保護者に講座を実施した。</p> <p>○青年対象の講座では、単発や回数の少ない講座では人も集まりやすい傾向があるが、10回講座など長期となる場合は参加希望者が少なく、また後半になると仕事などの都合で欠席者が少ない目だった。</p>																																																																																																																
点検結果・自己評価（今後の方向性）																																																																																																																
29年度 評価	B	○趣味的講座を縮小し、DIY講座や筆ペン講座、男の魚料理講座などを実施しなかったため、講座数と参加者数が減少している。																																																																																																														
【参考】 28年度 評価	A	○個人の要望と社会の要請のバランスに配慮しながら、講座等の編成を行っていく。																																																																																																														

基本的方向	Ⅱ 世代を超えて学びあう		
基本施策	7 生涯学習の充実		
施策	(3) 生涯学習機会の提供		
担当部署	社会教育文化課	平成29年度 担当部署	社会教育文化課
施策の目的及び目標			
<p>○目的</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「個人の要望」や現代的課題の解決に向けた「社会の要請」に応える様々な学習機会の提供。 <p>○目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会変化に対応していくため、各関係部署、その他関係機関等との連携を深め、多様な学習機会の提供に努める。 			
平成29年度 主な事業の概要及び実施状況			
<p>○生涯学習まつりで各種サークル、団体等の日頃の活動成果発表を行い、交流を深めた。</p> <p>○「もぎりあ〜と教室」を実施し、総合文化センターのモールで受講者の作品展示をした。</p> <p>関連事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ○春の市民茶会 ○生涯学習施設「里仁館」運営支援 ○酒田市凧あげ大会 			
平成29年度における改善点・新たな取り組み			
<p>○ジオパークの認定を受け、「ふるさと自然倶楽部」で4回にわけて酒田・遊佐・にかほ地区のジオサイトを巡り現地学習を行った。ジオについて学ぶことができたことと好評を得た。</p>			
事業の効果・課題			
<p>○生涯学習まつりでは53団体が参加し、生涯学習の成果を発表。総合文化センター耐震改修工事が終了し、ホール部門も復活したため、昨年よりも多く延べ9,957名の来場者があった。</p>			
点検結果・自己評価（今後の方向性）			
29年度 評価	B	<p>○生涯学習ボランティア育成の目的で指導者として活躍できる体制を整えるため市民企画講座を実施し、新規で4名の指導者を登録した。</p> <p>○春の市民茶会、生涯学習まつりは成果発表の場として多くの参加者があった。</p> <p>○凧あげ大会は全国各地から凧あげの愛好家が集まり、市内の参加者との交流も行われた。</p>	
【参考】 28年度 評価	B		

基本的方向	Ⅱ 世代を超えて学びあう		
基本施策	7 生涯学習の充実		
施策	(4) 地域活動の活性化		
担当部署	社会教育文化課	平成29年度 担当部署	社会教育文化課
施策の目的及び目標			
<p>○目的</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域活動の中心的役割を果たすコミュニティ振興会に対して、地域に伝わる風習や伝統文化など、地域の特性を生かした青少年の体験活動や健全育成に関わる事業等に支援を行うとともに「地域の先生」として学んだ成果を社会に生かせるように指導者研修会を開催するなど「知の循環」による公益活動の振興を図る。 <p>○目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指導者研修会の参加率の向上と社会教育指導員の訪問活動の充実。 			
平成29年度 主な事業の概要及び実施状況			
<p>○地域の教育力向上スキルアップ講座 参加者数27名</p> <p>○各地域担当社会教育指導員の配置 訪問実績595回（相談連絡訪問504回、事業への訪問91回）</p> <p>関連事業</p> <p>○地域人材交流講座</p> <p>○少年団体リーダー研修会</p>			
平成29年度における改善点・新たな取り組み			
<p>○地域の教育力向上スキルアップ講座の事例発表では、平田地域の5つのコミュニティ振興会が合同で実施した事業について、合同で発表をしていただいた。</p> <p>○事例発表や講話だけでなく、グループトークも実施し、各コミュニティ振興会の事業紹介など情報交換も行うことが出来た。</p>			
事業の効果・課題			
<p>○事例発表や情報交換を通して、他地域の取り組みを参考にし、自分の地域の事業に活かすきっかけづくりができた。</p> <p>○研修に参加できないコミュニティ振興会も多く、日程や内容など参加者を増やす方策が課題。</p>			
点検結果・自己評価（今後の方向性）			
29年度 評価	B	○地域の教育カスキルアップ講座では充実した内容を実施することができた。多くのコミュニティセンターを担当職員が訪問し、社会教育文化課で実施した講座や、他コミュニティ振興会のよい取り組みを紹介できるよう、また参加してくれるコミュニティ振興会が増えるようアンケートの要望を参考にするなどして工夫したい。	
【参考】 28年度 評価	B		

基本的方向	Ⅱ 世代を超えてまなびあう				
基本施策	8 図書館活動の充実				
施策	(1) 図書館機能の充実				
担当部署	図書館	平成29年度 担当部署	図書館		
施策の目的及び目標					
○目的					
・市民の読書活動の拠点として各種図書資料をバランスよく収集し、窓口サービスの提供等を通して、知識や教養の習得機会を提供する。					
○目標					
	項目	27年度 (実績)	28年度 (実績)	29年度 (実績)	31年度 (目標)
	人口1人当たりの入館回数	3.44回	3.29回	3.17回	3.85回
	人口1人当たりの館外貸出冊数	4.9冊	4.7冊	4.7冊	5.2冊
平成29年度 主な事業の概要及び実施状況					
○図書購入事業【予算現額22,488千円・支出済額22,312千円】					
・一般図書等8,283冊、児童図書等2,903冊、雑誌・新聞等1,571冊を購入して提供した。					
○東北公益文科大図書館との連携					
・東北公益文科大図書館を經由し360冊の貸出が行われた。					
○広報活動					
・市広報、市及び図書館ホームページ、外部情報サイト等を活用し、図書館のPRに努めた。					
○利用者拡大の取り組み					
・定期的にテーマを変えた企画展示を実施し、おすすめ本を紹介した。					
平成29年度における改善点・新たな取り組み					
○雑誌スポンサー制度の周知とさらなる民間活力を利用するため、約80社にダイレクトメールによる周知を行った。また、雑誌の広告媒体効果を高めるため、書架の工夫を行った。					
○更新等により不要になった図書を市民に随時提供する「本のリサイクルコーナー」を設置した。また、利用者の拡大を図るため、雑誌の付録をプレゼントする企画を行った。					
○企画展示を年間53回(分館含む)行い、テーマ毎に様々な本を紹介した。児童図書室では市民がポップを作るなどの参加型展示を行った。企画展示とは別に、時節に応じた本を集めて紹介するコーナーを設けたり、館内に新刊本の紹介や貸出しランキングを掲示するなど積極的な情報提供を行った。					
事業の効果・課題					
○雑誌スポンサー制度では、新たに2社から2誌の提供を受け、雑誌購入費用の更なる軽減につながった。					
○「本のリサイクルコーナー」を設置したことにより、10,000冊以上の本が再活用された。児童書や絵本は、保育園や幼稚園等へ提供を行い、各所での新たな本と触れあう機会を創出した。					
○雑誌付録のプレゼントには、合計1,984件の申し込みがあり、貸出冊数の増加につながった。					
○29年度の人口1人当たりの入館回数は減少したが、年間を通した企画展示の実施により、前年度と同水準の貸出冊数を維持することができた。しかし、人口減の傾向等を勘案すると、今後も横ばい又は微減傾向が続くと考えられるため、新たな利用者拡大に向けた取り組みが必要となる。					
点検結果・自己評価(今後の方向性)					
29年度 評価	B	○図書の充実			
		・利用者からのリクエスト等を活用して、傾向の把握に努める。			
		・地域に密着した郷土資料の収集等に努めつつ、限られた配架スペースを有効活用できるよう検討していく。			
		○図書館利用の促進			
		・季節や時事、地域イベント等に応じた企画展示を他の部署との連携を図りながら積極的に行い、効果的な情報発信を行う。			
		・酒田コミュニケーションポート(仮称)整備事業におけるライブラリーセンターの役割について、図書館協議会委員の意見を取り入れながら検討するとともに、スムーズな移行のために必要なシステム対応等の準備を行う。			
【参考】 28年度 評価	B				

基本的方向	Ⅱ 世代を超えてまなびあう		
基本施策	8 図書館活動の充実		
施策	(2) 光丘文庫の保全と活用		
担当部署	図書館	平成29年度 担当部署	図書館
施策の目的及び目標			
<p>○目的</p> <ul style="list-style-type: none"> 光丘文庫の建物は、大正14年に竣工し、平成8年には酒田市指定有形文化財に指定されている歴史的な建造物であり、その維持保存を行う。本間家をはじめ多くの有志から寄贈された典籍や一般図書等が多く所蔵されており、その保管や分類整理及びこれらを活用した企画展示を行う。また、資料の閲覧のため全国各地からの来館者への対応やレファレンス業務を行う。 <p>○目標</p> <ul style="list-style-type: none"> 常設展示について、さまざまな視点によるテーマのもと、年間数回の展示替えを行い、貴重な資料のPRに努め入館者数の増加を目指す。また、本館とその所蔵資料を本市の歴史的遺産として後世に伝えていくため、建物の現況調査と保存及び活用方法について検討を行う。 			
平成29年度 主な事業の概要及び実施状況			
<p>○光丘文庫所蔵資料保全活用事業【予算現額5,097千円・支出済額5,095千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> 前年度に引き続き、建物の老朽化への対応として、所蔵資料（新聞・雑誌等 約10万点）を中町庁舎に移転した。 <p>○所蔵資料の閲覧サービス等の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> 所蔵する貴重な資料について、利用者の閲覧に供したほか、ギャラリートークを実施した。 常設展示 <ul style="list-style-type: none"> 「書物にみる甲冑と刀剣」 5月15日～9月22日 所蔵雑誌展 1月4日～3月31日 ギャラリートーク <ul style="list-style-type: none"> 「本間順治日々抄」 9月16日（参加者14名） 			
平成29年度における改善点・新たな取り組み			
<p>○長年の懸案事項であった所蔵資料の移転を完了したほか、書庫内の遮光を実施したことにより、所蔵資料の保全が図られた。</p> <p>○「諸家文書目録」（計7巻）の電子化・ネット公開により、一部ではあるものの所蔵資料名の検索が可能となった。</p>			
事業の効果・課題			
<p>○利用者数の低迷について</p> <ul style="list-style-type: none"> 移転前と異なり、土日の開館ができないという事情により、利用者数が低迷している状況が続いていることから、利用者の増加を図るための工夫が必要となっている。 <p>○より積極的な資料の活用と情報発信</p> <ul style="list-style-type: none"> 貴重な資料を多数所蔵している一方で、現代のICT化に対応した資料の活用が図られてきているとはいえないため、改善を図っていく必要があるほか、利用者増に向けた利便性の向上策や文庫の認知度を高めるための情報発信が急務となってきている。 			
点検結果・自己評価（今後の方向性）			
29年度評価	A	<p>○資料の移転作業については、計画通りに実施することができた。</p> <p>○今後はソフト事業（デジタルアーカイブ等）の拡充を図ることにより、文庫の認知度を高めていく。</p>	
【参考】28年度評価	B		

基本的方向	Ⅱ 世代を超えてまなびあう				
基本施策	8 図書館活動の充実				
施策	(3) 子どもの読書活動の推進（再掲）				
担当部署	図書館	平成29年度 担当部署	図書館		
施策の目的及び目標					
○目的					
・ 幼少期からの読書習慣の醸成のため、子どもが読書に親しむ機会の提供と環境づくりに取り組む。特に家庭での読書活動が高まるように努める。					
○目標					
	項目	H27年度	H28年度	H29年度	H32年度（目標）
	15歳までの人口（人）	13,100	12,754	12,291	-
	子ども（15歳以下）一人当たりの年間貸出冊数（冊）	12.0	12.5	12.6	12.7
平成29年度 主な事業の概要及び実施状況					
○子ども読書活動推進事業【予算現額1,068千円・支出済額1,000千円】					
<ul style="list-style-type: none"> ・ 「酒田市子ども読書活動推進計画」に基づいて各種事業を実施した。 ・ 「土曜おはなし会」を年22回実施し、延べ477人の親子が参加した。 ・ 「赤ちゃんの読み聞かせ教室」を年12回実施し、延べ165人の親子が参加した。 ・ 「読み聞かせボランティア講座」を年5回実施し、延べ90人が参加した。 ・ 「おやこ絵本づくり講座」を開催し、24組の親子51人が参加した。 ・ 「絵本作家講演会」を開催し、子どもを含め112人が参加した。 					
平成29年度における改善点・新たな取り組み					
○小学校低学年向けの読書手帳を、学校の意見を取り入れつつより使いやすい形にリニューアルし、配布した。					
○読書手帳の配布を、中学生にも拡大した。					
○各講座の募集・実施後の報告について市のホームページにアップし、常に新しい情報を周知した。					
事業の効果・課題					
○「土曜おはなし会」は、幼児期から本に親しむ契機となり、会場が児童図書室であることから、児童図書の利用に繋がっている。					
○「赤ちゃんの読み聞かせ教室」は、ブックスタート事業のフォローアップ事業として、読み聞かせに関心を持たれたお母さんの学習の場となり、児童図書室のPRにも役立っている。					
○ブックスタート事業により、乳児への読み聞かせの有効性が保護者に対して広く周知され、認知されている。					
○「読み聞かせボランティア講座」は基礎編とステップアップ編の2部構成としていることで、経験年数の異なるボランティアにきめ細かく対応でき、小学校や各施設等での読み聞かせボランティアの育成に繋がった。					
○「おやこ手作り絵本講座」は多くの参加者があり、自ら創る絵本への関心の高さが伺われた。また、完成する喜びや達成感、自信にも繋がった。					
○ライブラリーセンター移転関係業務により、家読だよりやPRチラシの発行、中・高校向け図書リストの配布等が滞った。業務の効率化を図りながら、今後実施していく。					
点検結果・自己評価（今後の方向性）					
29年度評価	A	○「赤ちゃんの読み聞かせ教室」はブックスタート事業と連携した事業で参加者の評価も高く、長期的な視点で継続・充実させる。			
		○講演会や各種講座の開催により、図書館活動への関心を高め、貸出冊数の増加に繋げる。			
		○「絵本だより」や「学校向けパンフレット」等の活用や公立・法人保育園園長会議や図書館専門員研修会等で園・学校等の団体貸出について説明し貸出冊数等の増加を図る。			
【参考】28年度評価	A	○読書習慣を身に付けるために、幼少期から継続して本に親しむことができるよう、第2次子ども読書活動推進計画の施策の実施を園・学校及び関係各課等との連携・協力を図りながら家庭、保護者等も含めた取り組みを行う。			

基本的方向	Ⅲ 生涯スポーツで明るく健やかに生きる		
基本施策	9 スポーツ・レクリエーションの推進		
施策	(1) 子どもの基礎的運動能力の向上（再掲）		
担当部署	スポーツ振興課	平成29年度 担当部署	スポーツ振興課
施策の目的及び目標			
<p>○目的</p> <ul style="list-style-type: none"> 子どもたちが夢あふれる未来に向かって、健康で心身ともにたくましく成長していくため、学校や地域等において、子どもがスポーツを楽しむことができるようにスポーツ活動の環境を整備し、合せて体力の向上を図る。 <p>○目標</p> <ul style="list-style-type: none"> スポーツ少年団活動や総合型地域スポーツクラブなどのスポーツ活動の場を利用し、地域が連携してスポーツ環境の充実を図ることにより、子どもたちがスポーツに接する機会を増やし、積極的に運動、外遊び等に親しむようにする。 			
平成29年度 主な事業の概要及び実施状況			
<p>○スポーツ少年団育成事業補助金【予算現額1,742千円・支出済額1,742千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> 認定員の養成講習会を実施し65名が受講。また、運動適性テストを実施し503人が受けた。 <p>○スポーツ少年団大会開催事業【予算現額1,630千円・支出済額1,630千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> スポーツ少年団本部大会（サッカー、野球、バレーボール、ミニバスケットボール、卓球、剣道の6種目）を開催し、1,194名の参加があった。スポーツ少年団本部指導者講習会・技術指導講習会（6種目）を実施し、217名の参加があった。 <p>○総合型地域スポーツクラブ</p> <ul style="list-style-type: none"> 市内の総合型地域スポーツクラブは9団体あり、それぞれ地域にあった形で特色ある活動をしている。部活動を中心とした団体から、子どもから高齢者までを対象とし事業を展開しているクラブもあり、それぞれ子どもの体力向上につなげている。 <p>○B&G平田海洋クラブ（海洋センター）</p> <ul style="list-style-type: none"> カヌー教室を実施し、4名（内小学生2名）の参加があった。教室の後に行われる最上川カヌーツーリングや日本海カヌーツーリングに参加を目標に、技術や体力の向上につなげている。 小学生を対象に水泳教室や水辺の安全教室（ライフジャケット・救助法）を実施し、水の事故から子どもを守ることもつながっている。 			
平成29年度における改善点・新たな取り組み			
<ul style="list-style-type: none"> 新たに総合型地域スポーツクラブ1団体が平成29年度設立した。（きらり川南） 制度改正（スポーツ少年団に3歳から加入可能）に伴い、子どもの発達段階に応じたアクティブチャイルドプログラムに取り組む団体の設立に向けて指導者資格の取得等に取り組んだ。 			
事業の効果・課題			
<p>○少子化に伴う児童数減少によるスポ少団員数減少、加入率の低下が問題視されているが、現状としては1,627名（85団）と昨年より団数1、加入数5名が増加している。運動を「する」、「しない」の二極化が進む中で、運動に接する機会をつくるために、あらゆる関係団体（幼稚園・保育園・小中学校・体育振興会・総合型地域スポーツクラブ・体育協会）へスポーツに親しむ機会を増やすように連携していく必要があると考える。</p>			
点検結果・自己評価（今後の方向性）			
29年度評価	B	<p>○自分に合ったスポーツ（運動）を見つけるために、あらゆる角度・視点から運動能力を測定する機会を設け、酒田市スポーツ少年団への加入促進と、スポーツへの興味と関心、体力向上の動機づけを進めていく必要がある。</p> <p>○運動能力を測定するために、団員を対象に運動適性テストを実施しているが、参加者の増加を図るとともに酒田市スポーツ少年団としてのデータを分析し、それを活用して体力向上の動機づけを進めていく必要がある。</p>	
【参考】28年度評価	B	<p>○今後も継続して、日常的にスポーツに親しむ機会をつくらせていくために、施設整備だけでなく、体育協会と連携しながら指導者養成に向けて、研修会等を実施していく。</p>	

基本的方向	Ⅲ 生涯スポーツで明るく健やかに生きる		
基本施策	9 スポーツ・レクリエーションの推進		
施策	(2) 生涯スポーツの推進		
担当部署	スポーツ振興課	平成29年度 担当部署	スポーツ振興課
施策の目的及び目標			
<p>○目的</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人と人との交流及び地域と地域との交流を促進し、地域の一体感や活力を醸成し、人間関係の希薄化等の問題を抱える地域社会の再生に貢献するため、市民が主体的に参画する地域のスポーツ環境の整備に努める。 <p>○目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・“ひとり1スポーツで元気なまちづくり”をスローガンに、多くの市民がスポーツに親しむための環境づくりと、指導者等養成及び連携強化によるスポーツ推進を図っていく。 			
平成29年度 主な事業の概要及び実施状況			
<p>○スポーツ推進委員会研修活動事業【予算現額5,479千円・支出済額5,232千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ推進員78名（H29年4月現在） ・全国推進委員研究協議会、東北地区推進委員研修会、山形県推進委員研究大会等へ参加し研鑽を積んだ。 <p>○体育振興会及び総合型地域スポーツクラブの支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市内26地区にある体育振興会と9つの総合型地域スポーツクラブが登録されており、施設使用料を減免している。 <p>○スポーツ行事開催事業【予算現額18,186千円・支出済額18,186千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・9事業（行事）を開催し、11,715名の参加者があった。 			
平成29年度における改善点・新たな取り組み			
<p>○大会補助事業【予算現額2,200千円・支出済額2,200千円】</p> <p>松山スキー場で開催されてきた「全庄内スキー選手権大会」を、平成29年度の第70回大会から実施主体が市を含む実行委員会から、地元スキークラブが中心となる実行委員会に移行して開催された。予算措置も「実行委員会負担金」から「大会補助金」とすることで、事業実施における裁量の幅ができ、民間主導の大会として実施することができた。</p> <p>○「スポーツ推進委員会研修活動事業」について、会計処理について直接市が執行していたものを酒田市スポーツ推進委員会への「負担金」とすることで、会としての裁量の幅ができ、スムーズな事業運営に繋がった。</p>			
事業の効果・課題			
<p>○市内には26地区の地区体育振興会の推薦を受けたスポーツ推進委員がおり、市全体の生涯スポーツをはじめ各地区の中心的な役割を担っていくものと捉え、組織支援が必要と考える。</p> <p>○体育振興会及び総合型地域スポーツクラブは、生涯スポーツの普及を中心とした活動を展開しているが、特に総合型地域スポーツクラブは、体育施設の減免ありきの運営や、一部学校部活動の補完等の活動を行っているため、今後、減免基準のあり方を検討しつつ、地域との関係を強化し2つの組織が協働し、まちづくりを含めた幅広い組織活動へと変化することが必要となる。</p>			
点検結果・自己評価（今後の方向性）			
29年度評価	A	<p>○平成29年度のスポーツ行事においては、平成28～29年度で事業の廃止・移管（クロスカントリー大会・全庄内スキー選手権大会）に伴い2事業減の9事業となった。うち、対象とする6事業では、目標の13,400人（事業減により目標値12,500人に変更）に対し、11,715人の参加となりほぼ達成できた。</p> <p>○酒田市民体育祭は、人口減少によりコミュニティ振興会単位での参加が困難となっており、合同チームでの参加とする動きがある。しかし、酒田市民が一堂に会して開催される大会であり、スポーツを通して地域の連帯感や地域づくりに好影響を与えている重要な事業と考えている。</p> <p>○地区体育振興会、スポーツ推進委員による活動及び総合型スポーツクラブの活動等により、市民がスポーツに親しみ、活動に広がりを持たせることができるように組織・運営のあり方を考える必要がある。</p>	
【参考】28年度評価	A		

基本的方向	Ⅲ 生涯スポーツで明るく健やかに生きる		
基本施策	9 スポーツ・レクリエーションの推進		
施策	(3) 競技スポーツの振興		
担当部署	スポーツ振興課	平成29年度 担当部署	スポーツ振興課
施策の目的及び目標			
<p>○目的</p> <ul style="list-style-type: none"> ・競技力向上のため、各スポーツ団体等と連携し、体育協会加盟団体を中心とした指導者のレベルアップを図る。また、組織的、計画的にトップレベルの選手を育成することで、その選手の活躍が市民のスポーツへの興味と関心を高めるようにする。 <p>○目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地元選手が全国や世界の舞台で活躍できるよう、体育協会や競技団体と連携を密にし、トップアスリートの育成と活動を支える環境づくりに努める。またそのための優秀な指導者の育成支援を行う。 			
平成29年度 主な事業の概要及び実施状況			
<p>○酒田市体育協会事業補助金【予算現額13,599千円・支出済額13,599千円】</p> <p>○スポーツ振興激励金交付事業【予算現額2,919千円・支出済額2,869千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学生179人、中学生80人、高校生・一般158人の計417人に激励金を交付した。 <p>○白崎資金スポーツ振興事業【予算現額1,322千円・支出済額1,180千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・競技スポーツ指導者研修（5回316人）、中央指導者養成研修派遣（5回7人）、スポーツ優秀選手表彰（111人）を実施し、選手育成の一助となった。 <p>○全国高等学校体育大会開催事業【予算現額13,884千円・支出済額13,884千円】</p> <p>○大会補助事業【予算現額2,200千円・支出済額2,200千円】（再掲）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・みなと酒田トライアスロンおしんレースへの支援 <p>○アランマーレ、モンテディオ山形に対する施設利用減免やチケット販売等への支援</p>			
平成29年度における改善点・新たな取り組み			
<p>○スポーツ振興激励金交付事業では、平成28年度の交付基準の見直しによる経過措置（県大会に出場する小学生に対し1,000円を交付）を終了した。</p> <p>○日本バレーボールリーグ機構における、新リーグ2部のライセンス取得に向けて、酒田市と酒田市体育協会、株式会社プレステージ・インターナショナルの3社による『女子バレーボールチーム「アランマーレ」に係る相互の支援・協力に関する協定』を締結した。</p> <p>○トルコ共和国・サムスン市で開催された聴覚障害者のための国際競技大会である第23回夏季デフリンピックにおいて第4位という輝かしい成績を収めた水泳選手に対して「酒田市民栄誉賞」を授与した。</p>			
事業の効果・課題			
<p>○平成29年度の世界大会には、水泳競技で1人出場している。国民体育大会をはじめ全国大会出場者は、前年度より69人多い342人であった。今後も市体育協会と連携し、講習会等を通じて技術の向上だけにとどまらず、スポーツの意義と価値について次世代に継承しうる選手及び指導者の育成に努める必要がある。</p> <p>○各競技団体において、2020年東京オリンピック・パラリンピックをはじめとする世界大会出場に向けた選手の育成強化や指導体制の強化が課題となっている。</p> <p>○「白崎資金スポーツ優秀選手表彰」における選考基準について、出場資格の多様化に対して対応できるように、詳細を設ける必要がある。</p>			
点検結果・自己評価（今後の方向性）			
29年度評価	A	○上位大会へ出場した選手に対する賞賜金を激励金として、2年目になるが、上位大会出場者数が増加したことは、競技スポーツにおける「勝利」への意識の高揚が図られた結果であり、あわせて「白崎資金スポーツ優秀選手表彰」へのモチベーションに繋がるものとなっている。今後も世界大会等へ出場する選手をはじめとする優秀選手の支援を継続して図っていく必要がある。	
【参考】28年度評価	B		

基本的方向	Ⅲ 生涯スポーツで明るく健やかに生きる		
基本施策	9 スポーツ・レクリエーションの推進		
施策	(4) スポーツ施設の整備充実		
担当部署	スポーツ振興課	平成29年度 担当部署	スポーツ振興課
施策の目的及び目標			
<p>○目的</p> <ul style="list-style-type: none"> 耐震診断の結果に応じた補強工事、老朽化対策等を講じ、施設の環境整備を図る。 <p>○目標</p> <ul style="list-style-type: none"> 耐震化・老朽化対策を含め、スポーツ環境・施設整備を進める。高齢化の進展により、ユニバーサルデザイン、バリアフリー化に配慮した整備を進めていく。 			
平成29年度 主な事業の概要及び実施状況			
<p>○体育施設整備事業【予算現額31,796千円・支出済額30,344千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> 光ヶ丘プール排煙窓オペレーター修繕 5,562,000円 光ヶ丘野球場 ダッグアウト床修繕 3,051,000円 スケートリンク ブラインポンプ更新工事 3,534,840円 国体記念体育館 システムカウンター購入 3セット 4,101,840円 【繰越明許費予算額 8,893千円・支出済額 7,647千円】 国体記念体育館 トイレ洋式化修繕 7,646,400円 <p>○体育施設耐震改修事業【予算現額19,710千円・支出済額19,709千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> 平田体育館耐震改修工事 19,708,920円 <p>○光ヶ丘球技場人工芝整備事業【予算現額 126,599千円・支出済額 126,599千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> 光ヶ丘球技場人工芝グラウンド改修工事 126,598,680円 			
平成29年度における改善点・新たな取り組み			
○これまで使用制限をかけていた光ヶ丘球技場を人工芝グラウンドに改修し、小学生から社会人並びに女性競技者の練習機会の向上を図った。			
事業の効果・課題			
<p>○光ヶ丘球技場を人工芝化したことにより、使用機会が増加し、利用者から評価もされている。</p> <p>○施設全般に老朽化が進んでおり、今後の利用見込みやニーズを踏まえ、長寿命化並びに耐震性も含めた、計画的改修等をしていく必要がある。</p>			
点検結果・自己評価（今後の方向性）			
29年度評価	B	<p>○全国規模の大会が誘致できるよう設備の充実を行っていく。（平成30年7月Vリーグ女子 サマーリーグ、平成30年11月 日本卓球リーグ大会 誘致決定）</p> <p>○施設の大多数は今後も改修、更新等により安全で安定した機能を確保する必要がある。今後も緊急の故障等の発生があった場合には、適正迅速な対応を行っていく。</p>	
【参考】28年度評価	B		

基本的方向	Ⅳ 歴史にはぐくまれた芸術・文化を活かす			
基本施策	10 芸術文化活動の推進			
施策	(1) 芸術文化の振興 (その1)			
担当部署	社会教育文化課	平成29年度 担当部署	社会教育文化課	
施策の目的及び目標				
○目的				
・市民の芸術文化活動をより活発なものとするため、関係機関との連携を図りながら、次世代を担う人材の育成とすそ野拡大に努める。				
○目標				
・幅広い年代の市民が参加する「市民芸術祭」は、身近な文化活動に触れる場としても有効である。これらの事業をとおし、芸術文化振興に寄与された人材の顕彰に努めながら、活動の活性化とすそ野拡大に努める。				
算出方法	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成31年度 (目標)
入場者数実績	26,974人	26,861人	26,154人	27,000人
平成29年度 主な事業の概要及び実施状況				
○市民芸術祭参加事業 【予算現額 2,761千円・支出済額 2,761千円】				
	参加事業数	入場者数		
平成25年度	35団体	25,434人		
平成26年度	38団体	28,514人		
平成27年度	38団体	26,974人		
平成28年度	38団体	26,861人		
平成29年度	39団体	26,154人		
○市民会館利用状況				
・申請書受付数 844件、入場者数 92,435人				
○庄内文化賞・阿部次郎文化賞顕彰事業【予算現額1,125千円・支出済額720千円】				
・庄内文化賞 本間勝喜(学術部門/郷土史)				
・阿部次郎文化賞 該当者なし				

基本的方向	IV 歴史にはぐくまれた芸術・文化を活かす		
基本施策	10 芸術文化活動の推進		
施策	(1) 芸術文化の振興 (その2)		
担当部署	社会教育文化課	平成29年度 担当部署	社会教育文化課
平成29年度における改善点・新たな取り組み			
<p>○酒田市民芸術祭</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第61回市民芸術祭は、8月から1月にかけて実行委員会の総力を挙げた取り組みにより広く市民参加が行われ、文化芸術活動が活発化した。このことにより、質の高い内容となった。 <p>○県民芸術祭での受賞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第55回県民芸術祭優秀賞に「山形県華道文化協会酒田市華道会合同いけばな展」が選ばれ、「ひらた文化祭第50回記念特別展」が奨励賞に選ばれた。 			
事業の効果・課題			
<p>○酒田市民芸術祭</p> <ul style="list-style-type: none"> ・従来の其々の文化活動を維持・促進するとともに、次世代にいかに関承し、人材を育成していくかが今後の重要な課題である。 <p>○庄内文化賞・阿部次郎文化賞顕彰事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・阿部次郎文化賞については、候補者の推薦が少ないことから、今後の在り方について引き続き検討する必要がある。 <p>○文化芸術をひとつづくり・まちづくりに活かしていくため、酒田市文化芸術基本条例並びに酒田市文化芸術推進計画に基づき、今後はより一層戦略的に取り組むことが重要である。</p>			
点検結果・自己評価（今後の方向性）			
29年度評価	A	<p>○市民芸術祭では、開幕公演、閉幕公演など、加盟団体以外の市民参加による質の高い事業を展開し、大変好評であった。</p> <p>○酒田市の文化活動拠点施設である市民会館は、酒田市内外の文化団体をはじめ学校等からの利用も多く、アマチュアの発表の場としても有効に活用されている。</p> <p>○文化振興においては、少子高齢化、価値観の多様化を背景に、市民参加型事業を実施するなど、次世代の育成に重点をおいた裾野の拡大に取り組んでいく必要がある。</p>	
【参考】28年度評価	A		

基本的方向	IV 歴史にはぐくまれた芸術・文化を活かす																		
基本施策	10 芸術文化活動の推進																		
施策	(2) 市民の鑑賞機会の充実 (その1)																		
担当部署	社会教育文化課	平成29年度 担当部署	社会教育文化課																
施策の目的及び目標																			
<p>○目的</p> <ul style="list-style-type: none"> 豊かな感性を育み、文化活動や創造活動の動機づけとなる可能性が高いことから、プロのアーティストによる質の高い鑑賞機会の提供に努める。 <p>○目標</p> <ul style="list-style-type: none"> 様々なジャンルのアーティストによる質の高い多彩な鑑賞機会を提供するとともに、芸術文化に対する関心を高める。 																			
平成29年度 主な事業の概要及び実施状況																			
<p>○酒田希望音楽祭</p> <ul style="list-style-type: none"> 酒田市名誉市民であり声楽家の市原多朗氏を招聘し、新日本フィルハーモニー交響楽団コンサートを開催した。本市出身の市原多朗氏の出演により、幅広い年代の市民が来場した。 新日本フィルハーモニー交響楽団コンサート入場者数 965人 プロと市民の発表による、街かどコンサートを開催した。 <p>○希望ホール自主事業</p> <ul style="list-style-type: none"> プロのコンテンポラリーダンサー鈴木ユキオ氏の振り付けにより、酒田市の重要な地域資源である土門拳記念館を会場に、本格的なコンテンポラリーダンス公演を行ったほか、コンテンポラリーダンスの特性を活かし、土門拳の写真を取り入れ、市民参加型の酒田オリジナルダンス作品を創作し公演を行った。 そのほか、一流アーティストによる各種公演を開催したほか、文化芸術によるまちづくりを目的とした座談会、酒田市出身指揮者による合唱指導を行うなど、多面的な取り組みを行った。 入場者数8,284人 山形交響楽団庄内定期演奏会酒田公演 入場者数 738人 <p>○土門拳記念館</p> <p>土門拳の作品展示について、公益財団法人土門拳記念館と連携し、質の高い鑑賞機会の提供に努めた。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>入館者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成27年度</td> <td>31,874人</td> </tr> <tr> <td>平成28年度</td> <td>26,375人</td> </tr> <tr> <td>平成29年度</td> <td>25,890人</td> </tr> </tbody> </table> <p>○酒田市美術館</p> <p>専門性を活かした質の高い企画展の開催や、幅広い年代の人に足を運んでいただけるような教育普及活動を積極的に行うなど、公益財団法人酒田市美術館と連携しながら質の高い鑑賞機会の提供に努めた。入館者数 54,201人</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>入館者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成27年度</td> <td>69,627人</td> </tr> <tr> <td>平成28年度</td> <td>52,049人</td> </tr> <tr> <td>平成29年度</td> <td>54,201人</td> </tr> </tbody> </table>				年度	入館者数	平成27年度	31,874人	平成28年度	26,375人	平成29年度	25,890人	年度	入館者数	平成27年度	69,627人	平成28年度	52,049人	平成29年度	54,201人
年度	入館者数																		
平成27年度	31,874人																		
平成28年度	26,375人																		
平成29年度	25,890人																		
年度	入館者数																		
平成27年度	69,627人																		
平成28年度	52,049人																		
平成29年度	54,201人																		

基本的方向	IV 歴史にはぐくまれた芸術・文化を活かす		
基本施策	10 芸術文化活動の推進		
施策	(2) 市民の鑑賞機会の充実 (その2)		
担当部署	社会教育文化課	平成29年度 担当部署	社会教育文化課
平成29年度における改善点・新たな取り組み			
<p>○質の高い鑑賞機会の提供以外に、市民参加型ワークショップやアウトリーチを実施、美術館やホール等になかなか足を運ぶ機会の少ない市民に対しても鑑賞機会を提供するなど、積極的な取り組みを行った。</p> <p>○土門拳記念館 アジサイライトアップに伴い、他課と連携し、ミュージアムコンサートの開催や呈茶を行うなど、市民を対象にした事業を実施した。昭和の時代を撮影した土門拳の写真は、歴史的資料としての価値も高いことから、小中学校での授業活用について、学校に対し引き続きPRを行った。</p> <p>○酒田市美術館 親子で楽しく鑑賞できるような企画展も取り入れるなど、幅広い年代の入館を意識した取り組みを行った。</p>			
事業の効果・課題			
<p>○少子高齢化、価値観の多様化などを背景に、質の高い鑑賞機会だけでは新顧客の獲得が困難になってきている。参加型事業の実施や、芸術文化の魅力を伝えるような取り組みを行うなど、蓄積型文化を意識した取り組みが今後ますます重要になってくる。</p> <p>○文化芸術をひとづくり・まちづくりに活かしていくため、酒田市文化芸術基本条例並びに酒田市文化芸術推進計画に基づき、今後はより一層戦略的に取り組むことが重要である。</p>			
点検結果・自己評価（今後の方向性）			
29年度評価	A	<p>○酒田希望音楽祭では、新日本フィルハーモニー交響楽団コンサートを開催し、子どもから大人まで幅広い世代に対し、質の高い鑑賞機会の提供を行うことが出来た。</p> <p>○希望ホール自主事業では、宝くじの助成を受け、本格的な演劇公演を行ったほか、プロのアーティストによる体験型事業を開催し文化芸術の面白さを感じてもらい動機付けにつながるような事業を実施するなど、多面的な取り組みを行った。</p>	
【参考】28年度評価	A	<p>○土門拳記念館・酒田市美術館では、幅広い年代の市民に気軽に足を運んでいただけるような取り組みを積極的に行うなど、質の高い鑑賞機会の提供に努めた。</p>	

基本的方向	Ⅳ 歴史にはぐくまれた芸術・文化を活かす		
基本施策	10 芸術文化活動の推進		
施策	(3) 青少年の芸術文化活動の充実 (その1)		
担当部署	社会教育文化課	平成29年度 担当部署	社会教育文化課
施策の目的及び目標			
<p>○目的</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校教育や生涯学習と連携・協力し、多様な社会に対応出来るような人材育成を行うとともに、芸術文化活動の充実を図る。 <p>○目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・価値観の多様化、グローバル化の社会の流れを意識しながら、学校教育や生涯学習と連携・協力しながら、より分かりやすい丁寧な文化体験型事業の展開を目指す。 			
平成29年度 主な事業の概要及び実施状況			
<p>○酒田希望音楽祭【予算現額6,653千円・支出済額6,653千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・名誉市民 市原多朗氏による公演 (アウトリーチ) 名誉市民である市原多朗氏によるアウトリーチを実施し、世界の歌劇場での公演の様子を映像を使って紹介するとともに、日本を代表するオペラ歌手として活躍された経験から卒業校である一中の生徒に対し、講演を行っていただいた。 ・世界の名器スタインウェイピアノの演奏体験事業を実施。(平成29年度参加者数：40名) <p>○希望ホール自主事業【予算現額11,138千円・支出済額11,070千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・吹奏楽部に所属する生徒を対象に、日米ビッグバンドの奏者による楽器別クリニック、マリンバ奏者 SINSUKEによるマリンバワークショップ、演出家による演劇ワークショップ、地域資源と結びつけた酒田オリジナルダンス作品の創作やダンスワークショップを実施した。 			
	ワークショップを実施した事業		参加者数
平成29年度	①日米ビッグバンドコンサート ②藤原道山&SINSUKE 四季-春夏秋冬- ③公共ホール現代ダンス活性化事業 ダンス公演「土門さんとワタシ」公募型ワークショップ ④酒田市出身指揮者 工藤俊幸氏による合唱指導 (一中・三中・鳥海八幡中・東部中) ⑤高梨由演劇ワークショップ	①83人 ※高校生 ②29名 ※中高生 ③27名 ※未就学児 (年少) ~一般 ④685名 ⑤24名	
<p>○酒田市美術館・土門拳記念館</p> <p>学校活動の見学時に、学芸員が説明を行うなど、学ぶ機会としても有効に活用された。</p> <p>○「能・狂言」ワークショップ(対象：市内全小学校5年生)</p> <p>松山城址館において25校811名が参加。萬狂言社の役者による狂言「附子」の鑑賞のほか、実際に児童が舞台上がっての狂言体験ワークショップも萬狂言社の役者の指導のもとに実施した。</p>			

基本的方向	IV 歴史にはぐくまれた芸術・文化を活かす		
基本施策	10 芸術文化活動の推進		
施策	(3) 青少年の芸術文化活動の充実 (その2)		
担当部署	社会教育文化課	平成29年度 担当部署	社会教育文化課
平成29年度における改善点・新たな取り組み			
<p>○希望ホール自主事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・吹奏楽等の活動を行う中高生を中心に、楽器クリニックを行うなどレベルアップの機会を提供した。また、コンテンポラリーダンサーであり振付家の鈴木ユキオ氏により、酒田市の重要な地域資源である土門拳記念館においてダンス公演を行ったほか、土門の写真とダンスのコラボレーションによる市民参加型ダンス作品を創作し希望ホールで発表を行った。酒田オリジナル企画も取り入れながら、高い芸術性や音楽性などに直接触れられるような機会の提供にも努めた。 			
事業の効果・課題			
<p>○価値観の多様化、グローバル化が進む中で、文化の位置付けが高まってきている。</p> <p>○本市の文化拠点である希望ホールを有効活用し、プロによる質の高い鑑賞機会や文化体験事業の機会を提供することは、人材育成の視点から極めて重要なことだと認識している。文化は豊かな感性を育むばかりではなく、個性を認め合える表現は生きる力を育むものだとされている。</p> <p>○文化芸術をひとつづくり・まちづくりに活かしていくため、酒田市文化芸術基本条例並びに酒田市文化芸術推進計画に基づき、今後はより一層戦略的に取り組むことが重要である。</p>			
点検結果・自己評価 (今後の方向性)			
29年度評価	A	<p>○プロのアーティストが持つ芸術性の高い世界観に触れることは、青少年にとって、文化活動への動機づけとなる可能性が高いことから、希望ホール自主事業を中心に、ワークショップ(クリニック)等を継続的に実施している。</p> <p>○プロのアーティストの演奏を間近で観たり、聴いたり、楽器に触ったり出来るワークショップのような直接的な取り組みは、情操教育のみならず、自己表現の可能性を拓げるものであり、多様化に対応出来る人材育成にも有効であると考えている。</p> <p>○今後は、計画的にアウトリーチ実施校を増やすなど、より多くの青少年に対し、機会の提供が出来るように努めていきたい。</p>	
【参考】28年度評価	B		

基本的方向	IV 歴史にはぐくまれた芸術・文化を活かす																																
基本施策	11 歴史・文化遺産の保存と活用																																
施策	(1) 文化財等の保存と活用																																
担当部署	社会教育文化課	平成29年度 担当部署	社会教育文化課																														
施策の目的及び目標																																	
<p>○目的</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の貴重な財産であり観光資源でもある文化財について、関係機関と連携しながら、地域の活力を活かし有効な保存及び活用を図る。 <p>○目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市内に存在する文化財を調査し、必要な指定を行っていく。 ・文化財を良好な状態に保つために適切な維持管理や支援を行う。 ・企画展の充実や観光事業との連携により、文化財施設の入館者数を増やす。 																																	
平成29年度 主な事業の概要及び実施状況																																	
<p>○文化財保護総務管理事業 【予算現額11,303千円・支出済額8,978千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・試掘調査3箇所（亀ヶ崎一丁目、亀ヶ崎四丁目、亀ヶ崎五丁目地内） ・新規指定 有形民俗文化財 1件 ・史跡整備協議会での要望・研修活動 <p>○文化財施設管理運営事業 【予算現額31,165千円・支出済額29,703千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市立資料館、旧白崎医院、旧鑑屋、旧阿部家の管理運営事業 <p>○文化財保存活動支援事業 【予算現額1,778千円・支出済額1,778千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民俗芸能保存会、国指定史跡名勝の庭園管理等へ支援 <p>○史跡旧鑑屋修復事業 【予算現額11,617千円・支出済額11,538千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・耐震補強案等策定業務、屋根部分等修理工事実施設計 																																	
<p style="text-align: center;">参考</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th colspan="5">文化財施設入館者数（単位：人）</th> </tr> <tr> <th>施設名</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>資料館</td> <td>6,276</td> <td>6,211</td> <td>5,868</td> <td></td> </tr> <tr> <td>旧鑑屋</td> <td>12,693</td> <td>10,773</td> <td>11,250</td> <td>25年度から指定管理委託</td> </tr> <tr> <td>旧白崎医院</td> <td>2,041</td> <td>1,536</td> <td>1,696</td> <td></td> </tr> <tr> <td>旧阿部家</td> <td>2,752</td> <td>2,557</td> <td>2,269</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				文化財施設入館者数（単位：人）					施設名	27年度	28年度	29年度	備考	資料館	6,276	6,211	5,868		旧鑑屋	12,693	10,773	11,250	25年度から指定管理委託	旧白崎医院	2,041	1,536	1,696		旧阿部家	2,752	2,557	2,269	
文化財施設入館者数（単位：人）																																	
施設名	27年度	28年度	29年度	備考																													
資料館	6,276	6,211	5,868																														
旧鑑屋	12,693	10,773	11,250	25年度から指定管理委託																													
旧白崎医院	2,041	1,536	1,696																														
旧阿部家	2,752	2,557	2,269																														
平成29年度における改善点・新たな取り組み																																	
○耐震強度不足が判明した旧鑑屋の耐震補強案等を策定した。																																	
事業の効果・課題																																	
<p>○試掘調査を行うことにより貴重な埋蔵文化財の破壊が行われないか確認することができた。</p> <p>○各文化財施設において、文化財を展示することにより、多くの市民へ文化財保護の重要性をPRすることができ、理解を深めることができた。</p> <p>○各施設において入館者数が減少傾向にある。特に旧鑑屋については平成30年度より指定管理者から市直営となるため、より集客に工夫していく必要がある。</p> <p>○旧鑑屋については平成30年度に耐震補強実施の方針を定め実施設計を行い、平成31年度には工事着手を予定している。</p>																																	
点検結果・自己評価（今後の方向性）																																	
29年度評価	B	<p>○文化財や歴史的資料は地域の貴重な財産であるため、今後も継続して保存と活用に努める必要がある。</p> <p>○旧鑑屋の本格的な修復のため文化庁や山形県と連絡を密にして進捗を図る。</p>																															
【参考】28年度評価	B																																

基本的方向	IV 歴史にはぐくまれた芸術・文化を活かす													
基本施策	11 歴史・文化遺産の保存と活用													
施策	(2) 地域における民俗文化財の保存と活用													
担当部署	社会教育文化課	平成29年度 担当部署	社会教育文化課											
施策の目的及び目標														
<p>○目的</p> <ul style="list-style-type: none"> ・無形文化財の保護・継承を行う人材や団体を育成、支援する。 ・「民俗芸能フェスタ」などの各種事業を実施し、伝承活動を支援する。 <p>○目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・民俗芸能や伝統文化の保護を目的に、民俗芸能団体の後継者の育成、関係団体の交流を図り団体活動を支援する。 ・酒田市民俗芸能保存会への加盟の促進を図る。 														
<table border="1"> <thead> <tr> <th>算出方法</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>31年度 (目標)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>民俗芸能保存会加盟団体数</td> <td>33</td> <td>33</td> <td>33</td> <td>36</td> </tr> </tbody> </table>					算出方法	27年度	28年度	29年度	31年度 (目標)	民俗芸能保存会加盟団体数	33	33	33	36
算出方法	27年度	28年度	29年度	31年度 (目標)										
民俗芸能保存会加盟団体数	33	33	33	36										
平成29年度 主な事業の概要及び実施状況														
<p>○文化財保存活動支援事業 【予算現額1,778千円・支出済額1,778千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・酒田市民俗芸能保存会、松山能振興会、松山藩萩野流砲術伝承保存会に対する支援を行った。 <p>○未来へ受け継ぐ伝統文化はぐくみ事業 【予算現額8,101千円・支出済額7,740千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「民俗芸能フェスタ」の開催 平成29年11月12日(日) 会場：市民会館 希望ホール 県内外の民俗芸能を紹介するとともに、市内の保存団体への出演機会を提供した。また、永年の伝統芸能保存継承活動に対する功労者の顕彰を行うとともに、各地域における上演日や演目などをまとめたプログラムを作成し、市民に広く紹介した。 ・「黒森歌舞伎酒田公演」の開催 平成30年3月4日(日) 会場：市民会館 希望ホール 黒森歌舞伎正月公演を黒森地区で終えてから、同じ演目で公演を行い市民へ広く民俗芸能の素晴らしさを鑑賞いただいた。 ・松山城址館で市内の小学校5年生を対象に「狂言ワークショップ」を開催した。 														
平成29年度における改善点・新たな取り組み														
<p>事業の効果・課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「民俗芸能フェスタ」は48回を数え、民俗芸能の保存継承だけでなく、地元団体と他県や市外の民俗芸能団体との相互交流や、情報交換の場として重要な役割を果たした。 ○一方民俗芸能団体の中には、地域の後継者不足により活動できなくなっている団体が生じてきている。 ○黒森歌舞伎についてはポーランド公演が決定し、更に認知度の向上が期待される。 ○小学生から高校生まで出演機会の提供に努め、民俗芸能継承の底辺拡大を図ることができた。 														
点検結果・自己評価（今後の方向性）														
29年度 評価	B	<ul style="list-style-type: none"> ○民俗文化財は地域の貴重な財産であり、後世に継承・保存していくために、一層の周知が必要である。 ○民俗芸能保存会と連携して未加盟団体の加盟を促進していくとともに、後継者育成などの課題解決に向けて支援を行っていく。 ○「民俗芸能フェスタ」の映像記録、酒田市民俗芸能保存会が行っている各保存会の活動記録、黒森歌舞伎正月公演の映像記録などを後継者育成などに活用を図っていく。 												
【参考】 28年度 評価	B	<ul style="list-style-type: none"> ○イベントへの出演やマスコミの取材は、酒田の伝統文化をPRする良い機会にもなるので、積極的に協力していく。 												

基本的方向	IV 歴史にはぐくまれた芸術・文化を活かす				
基本施策	11 歴史・文化遺産の保存と活用				
施策	(3) 地域資料の収集と保存				
担当部署	社会教育文化課	平成29年度 担当部署	社会教育文化課		
施策の目的及び目標					
○目的					
<ul style="list-style-type: none"> ・市立資料館、松山文化伝承館の活用を図り、郷土の歴史等に対する市民の理解を深める。 ・文化財の保存と管理を行うとともに、市民への公開に努める。 ・歴史的に価値のある郷土の資料の散逸を防止するため、購入や受け入れを行う。 					
○目標					
<ul style="list-style-type: none"> ・企画展示を工夫するなどしてPRに努め、入館者数の増加を目指す。 					
算出方法	施設	27年度	28年度	29年度	31年度 (目標)
入場者数 実績	市立資料館	6,276人	6,211人	5,868人	7,000人以上
	松山文化伝承館	4,685人	3,127人	3,575人	5,000人以上
平成29年度 主な事業の概要及び実施状況					
○文化財施設管理運営事業【予算現額31,165千円・支出済額29,703千円】					
<ul style="list-style-type: none"> ・保存資料の購入 ※加藤雪窓 屏風絵、亀ヶ崎御町絵図ほか 					
○学校教育との連携					
<ul style="list-style-type: none"> ・市立資料館 小中学校来館校数 20校、来館者総数 929人 ・松山文化伝承館 小中学校来館校数 2校、来館者総数 25人 ・城輪柵跡 小中学校の見学校数 5校、見学者総数 276人 					
○文化的資料の相談や情報提供業務 (レファレンス)					
レファレンス(調査・問い合わせ等)対応状況(件)					
	施設	27年度	28年度	29年度	
	市立資料館	61	75	183	
	松山文化伝承館	14	2	5	
平成29年度における改善点・新たな取り組み					
○資料館では、企画展示として「懐かしい酒田の旧町名」を開催したところ予想以上に関心が高く、市内外から多くの来館者があった。					
事業の効果・課題					
○資料館の入館者数はこの数年は横ばいであるが、10年以上の長い目で見ると減少傾向となっている。企画展次第では入館者数も増加するので、引き続き魅力ある企画を行っていく。					
点検結果・自己評価(今後の方向性)					
29年度 評価	B	<ul style="list-style-type: none"> ○来館者が増えるような企画展示を考えていく。 特に酒田大火に関する展示など、関心事を把握することも重要と考える。 ○阿部記念館については、松山総合支所とも協力してPRを図り、来館者の増加に努める。絵ビラの展示は予想以上の来館があり効果があった。 			
【参考】 28年度 評価	B				